486-U72ウ
1200500743676
486
72

日本動物學會終身會員
名古屋博物學會會長
梅村甚太郎著

昆虫本草

藥用食用昆虫解說

正文館版

始

486
U72
(ウ)

日本動物學會終身會員
名古屋博物學會會長
梅村甚太郎著

昆蟲本草

正文館版

八十二番

任他樓

942
198

昆蟲本草自序

去歳正文館主谷口君の懇請により心ならずも時局本草と云へる極めて片々たる一小冊子を拵へて氏の求めに應じた。されどそは當時予の本意ではなかつた。よつてその緒言を求めらるゝに際しても吾又何言乎の五字を題したるのみであつた。それは他ではない。よういはんはの義である。然るに其後間もなく重ねて同君の來訪があつて、今度は昆蟲本草を物せよの要求であつた。草木のことならば兎に角、昆蟲の利用厚生の如きは予のよく知る所にあらずと應へたところ、同君の言はるゝには、貴下曾て東邦藥用動物誌の著あり。然るに該書は不幸にして專ら脊椎動物の記述に止つて、一も無脊椎動物に及ぶ事なきは實に遺憾である。貴下又曾て明治二拾年頃昆蟲植物採集指南の著もあつたではないか。顧ふにこれ實に今より五拾余年以前の事である。當時鎮目哲二氏も之を含讀し、その手澤本は三宅氏に移つて同氏も亦之を讀んだと聞く。爾後五十余年の間君の胸中には更にその知識の蓄積せられしものも尠からざるべし。君識らずや人一日清掃を怠れば室の四隅塵埃もよく積る。五拾余年間につもつた知識も亦大なるべし。君齢八拾貳歳、今迄君の收得せられたりし材料を世に示さずしてその儘

に爲し置く事は恐らくは貴下の本意にあらざるべし。人は徒衣徒食して生を偸むべからず。各その職域に應じて奉公の勤なかるべからず。然らざれば生きても尙生甲斐なしと謂ふべし。乞ふ緊褌一番吾輩の爲めに一書を作成して呉れとの事であつた。

予言窮して止むを得ず、往年記述した所の原稿のその又原稿の如きものを搜し出し僅に修正を加へて同君に渡した。同君曰く、去年時局本草の題言は餘りに簡單であつた。希くは尙數文字を重ねて事を叙せよと。予思ふに現今出版の事業は輕々しく爲すべき者に非らず。予之を知つて尙此擧を敢てす。吾輩今や齡八拾二、老耄その極に達し、尙勇を鼓して此書を編む。諺に盲人蛇を恐れずと云ふ事もあれど、請ふ隗より始めよと云ふ事もある。書中判らぬ節々も定めし多かるべし。されど盡く書を信ぜば書なきに若かずと云ふ事もあるを思ひ合せ、自分の耻をも忘れ、日夕親らなす炊掃の餘暇を偸んで漸く此書を成す。定めし世の新進氣鋭の士の笑を受くることならむ。讀者希くは恕せよ。

昭和十八年八月

八十二翁　著者識

昆蟲本草

目次

昆蟲類……一
鱗翅類……一
▽家蠶科……三
かひこ……三
やままゆ……一一
さくさん……一三
くすさん　クリムシ……一五
うすたび蛾　ヤマカマス……一六
▽天蛾科……一八
せすじゞめ……一八
ほうじやく……一九
めんがたすゞめ……二〇
べにすゞめ……二〇
きいろすゞめ……二一
えびがらすゞめ　ガイコツテフ……二二
しもふりすゞめ……二三
▽水蠟蛾科……二四
いぼたむし蛾……二五
▽枯葉蛾科……二六
まつけむし……二七

目次

▽刺蛾科……二八
いらが……二八
▽蝙蝠蛾科……三〇
かうもり蛾　クサギノムシ……三一
▽避債蛾科……三二
ちやみの蛾……三三
▽夜蛾科……三四
夜盜むし……三四
▽螟蛾科……三五
二化螟蛾……三五
三化螟蛾……三六
▽透羽蛾科……三八
ぶだうすかしば……三八
▽木蠹蛾科……三九
ぼくさう蛾……三九

ごまふぼくさう……四〇
▽鳳子蝶科……四一
あげはのてふ……四一
きあげは……四三
くろあげは……四三
をながあげは……四四
あをすぢあげは……四五
じやかうあげは……四五

膜翅類

▽蜜蜂科……四七
みつばち……四八
▽くまばち科……五六
くまばち……五七
▽胡蜂科……五八
きいろすゞめばち……五八
すゞめばち……五九
くろすゞめばち　ヂバチ……六三
きぼしあしながばち……六七
ふたもんあしながばち……六八
せぐろあしながばち……六九
こあしながばち……六九
きあしながばち……七〇
▽小蘭蜂科……七一
うまのをばち……七三

甲蟲類

▽天牛科……七三
くはかみきり……七三
しろすじかみきり……七五
みやまかみきり……七六
おほあをかみきり……七七
のこぎりかみきり……七八
ごまだらかみきり……七九
▽地膽科……八〇
まめはんめう……八〇
▽斑蝥科……八三
はんめう　ミチヲシエ……八三
▽螢科……八五
へいけぼたる……八六
げんじぼたる……八七
▽牙蟲科……九〇
おほがむし……九〇
こがむし……九一
ひめがむし……九一
▽龍蟲科……九二
くろげんごろう……九二

げんごろう……九三
こがたげんごろう……九四
ひめげんごろう……九五
▽金龜子科……九六
かぶとむし……九七
▽くはがたむし科……九八
みやまくはがた……九八
のこぎりくはがた……九九
△豉豆科……一〇〇
みづすまし……一〇〇
れほみづすまし……一〇一
ひめみづすまし……一〇一
雙翅類……一〇三
▽食蚜蠅科……一〇四
はなあぶ……一〇四
▽虻科……一〇六
うしあぶ……一〇六
やまとあぶ……一〇七
あかうしあぶ……一〇七
しろふあぶ……一〇八
▽蠅……一〇九
▽家蠅科……一一〇
いへばへ……一一〇
おほいへばへ……一一一
姫家蠅……一一一
くろばへ……一一一
▽斑蠅科……一一三
べつかふばへ イヌバヘ……一一三
▽蚊科……一一六

あかいへか……一一六
やまとやぶか……一一八
やまとはまだら蚊……一一九
ひとすぢしま蚊……一二一
隱翅類……一二三
▽蚤科……一二三
人のみ……一二三
犬のみ……一二四
猫のみ……一二四
蝨類……一二六
▽蝨科……一二六
衣じらみ……一二六
頭じらみ……一二七
▽毛蝨科……一二八
けじらみ……一二八
直翅類……一二九
▽螻蛄科……一二九
けら……一二九
▽螽斯科……一三三
くさきり……一三三
きりぎりす……一三四
くつはむし……一三五
▽蟋蟀科……一三六
えんまこほろぎ……一三六
おかめこほろぎ……一三八
みつかどこほろぎ……一三八
つゞれさせこほろぎ……一三九
臺灣こほろぎ……一四〇

目次

すゞむし……一四〇
まつむし……一四一
かんたん……一四二
かれたゝき……一四三
まだらすゞ……一四四
くさひばり……一四四
▽蝗蟲科……一四五
はねながいなご……一四五
こばねいなご……一四六
れんぷばつた……一四九
▽蟷螂科……一四九
かまきり……一五〇
おほかまきり……一五一
こかまきり……一五一
腹びろかまきり……一五一

すかしかまきり……一五二
▽蜚蠊科……一五六
ちやばねごきぶり……一五七
わもんごきぶり……一五八
くろごきぶり……一五九
さつまごきぶり……一五九

蜻蛉類……一六一

▽蜻蛉科……一六一
なつあかね……一六二
みやまあかね……一六四
まゆたてあかね……一六五
のしめとんぼ……一六五
しやうじやうとんぼ……一六七
きとんぼ……一六八

目次

あきあかね……一六九
しほからとんぼ……一七〇

脈翅類……一七〇

▽蛟蛉蜻科……一七一
うすばかげろふ……一七一
▽へびとんぼ科……一七二
へびとんぼ　孫太郎虫……一七三

蜉蝣類……一七四

▽雙尾かげろふ科……一七五
ちらかげろふ……一七五
▽紋かげろふ科……一七六
もんかげろう……一七六
東洋かげろふ……一七七
▽白腹かげろふ科……一七八
ふたばかげろふ……一七八

積翅類……一七九

▽かばげら科……一八〇
かはげら……一八〇
おほくらかけかはげら……一八〇

半翅類……一八一

▽をべぶたむし科……一八二
くろなべぶたむし……一八二
▽たいこうち科……一八三
たいこうち……一八三
水かまきり……一八四
ひめみづかまきり……一八四
▽田鼈科……一八五

目次

たがめ……一八五
こおひむし……一八六
▽蚜蟲科……一八六
みゝぶしあぶらむし……一八七
▽介殼蟲科……一九一
いぼたのらふむし……一九二
▽蟬科……一九四
はるぜみ……一九七
にいにいぜみ……一九七
あぶらぜみ アキゼミ……一九八
くまぜみ……二〇〇
ひぐらし……二〇一
みんみんぜみ……二〇一
つくつくぼうし……二〇二
蟬蛻……二〇五
蟬蕈蟬花……二〇四
總尾類……二〇五
▽衣魚科……二〇五
しみ……二〇五

昆蟲本草

梅村甚太郎著

昆蟲類 Insecta

節足動物門の一綱にして蝶とんぼ、蜂、きりゝす等の如くに體は多くの連續せる環節より出來て居てそれが又頭胸腹の三部に區分せられ、而して頭部には通常二個の複眼と一對の觸角を有し胸部には二對の翅と三對の肢とをもつ蟲が昆蟲類である。昆蟲類を更に數多き目に區別して鱗翅類、膜翅類、直翅類等とする。

鱗翅類 Lepidoptera

體は長形にて全身に毛を密生し、二對の翅は濶くして大くその面には表皮細胞から分泌し

たキチン質より出來て居る所の鱗粉を覆瓦樣に密に排列して居る。彼等の美しい色彩は實に此鱗粉の存するによる。口器は左右の小顎が相合して細長い管狀を爲し平常は此管を螺旋狀に卷いて居るが之を伸して花蜜や樹液などを吸ふのである。肢は細くして弱く歩行するには充分適當ならず、僅に外物の上に靜止する役目をするのみである。觸角は長くして棍棒狀、羽狀、絲狀等をして居る。幼虫は大低植物を食害するから農家の嫌はれものであつて、成蟲とは異りて大顎が發達して咬むに適して居る。變態は完全にして卵から幼虫、蛹、成蟲と次第に目立つた變化をする。此類を便宜上二つに分けると蝶と蛾になる。

蝶蛾の區別　蝶の身體は比較的細長いが蛾の體は肥大して居る。蝶の翅は比較的大くして表面が裏面よりも美麗であるが蛾の方は比較的小くしてその表面は却つて美しくない。蝶は晝間飛翔するが蛾の方は多く黄昏又は夜間に飛翔する。蝶の觸角は棍棒狀をして居るが蛾のものは羽狀、絲狀等をなし、又蝶は靜止する時に左右の翅を脊の上に直立するが蛾の類は左右の翅を水平若くは屋根形に置き、蝶は蛾の樣に繭を造らぬ。

家蠶科 Bombycidae

口吻は頗短く觸角は羽狀を呈し翅厚く幼虫は二個の內緣脈を有す。幼虫は始め毛を有し後には堅牢なる繭を造つて蛹となる。

かひこ Bombyx mori L.

オカヒコ、ヲコ

蠶蛾は體長七八分。翅の開張一寸三四分。前翅の外緣は翅頂の後方にて少しく刳上る。體翅灰白色。時に暗色の內橫線、外核絲を具ふることあり。品種頗多く百餘種もあると云へど其中にて角又、赤熱、青熱、形蠶、姫蠶、又昔、小石丸など普通にもてはやされ、就中小石丸赤熱、又昔など最も著名である。

蠶の幼虫は鳥蠋狀を成し、これが繭を作つてその中で蛹となり後出でて蠶蛾となり雌雄交尾して產卵する。雌蛾は一疋にて六百個以上の卵を生む。卵は初め白色なるも兩三日にして紫色を呈し來り、それより孵化せる幼虫は全身に長毛を簇生するこれが毛蠶と呼ぶ。毛蠶は

即ち蟻蠶なり。此ものは二三日にして淡白色となり尙成長して通常灰白色となる。斯くて幼虫は貳拾餘日にして四回の休眠脫皮をなし充分成長すれば食を休み、體は透明となり藁簇又は叢枝の間に繭を營むに至る。世に之を上簇と稱する。

絹絲は吐絲孔より出でて空氣に觸るれば固形となるが吐出せる時には液體狀である。繭を營み終れば其中にて蛹に成る。蛹は略楕圓形で尾端に向つて細まり色は淡褐であるが二三週間の後羽化して蛾となり繭の一方を破つて出て來る。繭一個より一メートルの生絲を得られるので繭四萬個あれば地球の周圍を一周する丈けの長さに達すと云ふ。

蠶の幼虫時代には外貌上、雌雄の鑑別容易ならずと言はるれど、五齡に達すれば其腹面の末端に注意すれば雄には一對の斑點あるのみなるに雌には都合三對の斑點を認むる故に容易にその區別が出來る。

蠶は出現期に依つて春蠶、夏蠶、秋蠶等の區別もあり、或はまた一化蠶、二化蠶等の名も出て來るのである。

蠶は支那では四千年の昔から養はれたもので後日本や歐羅巴に擴つた樣に云はれても居るが、その起源は印度であるとの說もある。吾邦では一方神代の頃に旣に養蠶が行はれて居た樣に傳へらるゝ。併し歷史に明かなるのは約一千七百年の昔、仲哀天皇の御宇、秦の始皇帝の裔孫功滿王が歸化して蠶種をしたのが嚆矢である。

爾來我皇室に於かせられては養蠶に御心を注がせられ、現今にては伊太利、佛蘭西、支那と共に世界の四大蠶業國と稱せらる。而して吾邦生絲の輸出は安政六年即今より約八拾年以前横濱の開港以來の事にして明治元年には僅に二萬梱に過ぎざりしが明治四十年には拾六萬千梱、大正元年には參拾萬梱に達し、同十四年には繭の產額約九千萬圓、生絲の產額八百萬貫を超ゆる樣に成つた。

近年に於ける生絲の海外輸出を金額にて示せば八億七千萬圓を超えて我邦總輸出金額の約四割を占め、之に絹織物を加ふれば實に約五割に近いと云ふ。而して現今生絲の產額は長野縣が一頭地を拔き吾邦金額の三割弱で愛知、群馬、埼玉、山梨、靜岡、岐阜、山形の諸縣之に次ぎ、四國、九州は其順位較々下つて居る。

蠶の病氣は種々ある、其最恐るべきものは蠶蛆蠶で即ち蠶の蛆蠅の幼虫である所の蠶蛆の加害によるものと寄生細菌による損害とである。

白疆蠶と云ふのは世間でオシヤリと云ふが Botrytis bassiana Bals の寄生によつて起る

ものである。此菌が蠶兒の皮膚から體内に侵入繁殖するにより蠶は擧動不活潑となり食慾減退し來り終には淡赤色を呈し來り、そのため指頭に觸るれば一層軟となり間もなく死んで仕舞ふ。屍體は漸次に硬化して來てその翌日頃より氣門や環節間の皮膚の薄い部分から白色の菌絲を叢生し遂には全體全く白い絲で被はるゝ樣に成る。これは菌絲の間より擔子柄を出して白色の胞子を生じたのである。胞子は徑二—三μの大さで飛散して再び他の蠶體に寄生するのである。白疆蠶は古來和漢藥に供せられてきた者で長寸許で端直乃至少しく彎曲して居るが濕潤に會ふと動物性の屍臭を發するから干して貯へておくべきである。

養蠶の目的は主として絹糸布の資料を得るにある事は勿論なれども、その以外に動物の飼料並に食料、藥用、肥料等に利用せられて來たものである。

家蠶の利用

○從來蛹の大部分は養雞、養鯉、養鰻乃至養蛙の飼料や肥料等に供せられしも亦多少は吾々の食料とせしものなる事は世人の知る所である。

○殊に之を調理して食膳に供する時は普に佳味口に適するのみならず、頗蛋白質に富み虚弱者、肺結核患者の榮養物として尊重すべき活素分を多分保有することを知るに至れり。海

岸地方の如き魚介類を得るの便あるところは兎に角、山間地方にては宜しく之を食膳に供すべきである。

○蛹油より造つた石鹸は殊に漂白性に富み又彼の淡黄色の食用蛹油は一種變つた風味ありて天麩羅用にも妙である。

○前陳の如くなれば繭を煮て絹絲を捲きとつた後に蛹を煎つて砂糖醤油で味附けとして食へば食料と云はんより一種の香味を有し寧ろ滋養强壯劑である。

△幼虫を乾燥して粉末となしたる者及び成蟲の黒燒の細粉となしたる者を傷口の血止めとして貼用する。

△幼虫は味甘溫にして寧ろ成蟲よりも美味なるが癰疽を治する爲めに黒燒として押糊にて貼る。又踏拔にも妙なりと云ふ。

△幼虫は解熱の効ありとて之を服用する人あり。著者は曾て淋病患者のその儘内服せしものあるを知る。併し著者未だ之を實驗せず。

○地方によりては充分成長した幼虫、蛹及び成蟲の翅を除ける者の鱗粉を揉み落して鍋に入れ鹽をかけ焙つて食料に供す。

腎臓病に用ふ

△蛹炒食治風及勞瘦、研傅病瘡惡瘡……大明。爲末飲治小兒疳疲長肌退熱除蚘虫煎汁飲止消渴……時珍。

△信州などでは腎臓病に蛹一合に玉蜀黍の毛一掬みを合せて水にて煎服す。

△肋膜炎にも蛹の佃煮を多く食はしむ。

口痛、口瘡に用ふ

△口內の諸病に蠶蛻を粉にして塗布する。尙喉の痛には幼虫及び蛹を食せしむる。

△又小兒の口瘡には晩蠶蛾を末として塗布する。麝香少許を加ふれば更に妙である。

△蛇虺等に咬まれたるには生蠶蛾を研つて之を傳くる。……必効方。

右の外、蠶の藥用に供せらるゝ事少からず。左に蠶沙の事を述べて後更にその用を記すべし。

蠶沙

蠶沙　蠶の排出せる糞を云ふ。殊に夏蠶、晩蠶のものを原蠶沙或は晩蠶沙と稱して和漢共に古來之を藥用に供した。

本品は蒼黑色を成せる顆粒狀の乾燥品にして長さ三粍位、表面粗糙にして深い縱溝を存し幅貳粍位で兩端は平坦で質が脆く固有の微臭を帶ぶ。

治冷寒

△腹部の冷感、腰部や下肢の冷えて疼痛する時に毎回一二匁を內服せしむる。

治經閉

△頭風、白禿には蠶沙を燒いて灰となしその汁にて洗ひてよし。

△婦人の子宮出血、月經不順など云へるに蠶沙の粉末を一二匁づゝ服してよし。月經久閉に最効あり。

點眼用

△風眼には蠶沙を煎じその汁を點眼すべし。

治驚癇

△小兒の驚癇、痙攣、夜啼等に向つて白疆蠶一回に五分乃至八分許を內服せしめて驗あり。

腦溢血

△腦溢血にて物言へざるには白疆蠶一匁、黃連二匁を末して滲りぬれば重舌、木舌に涎出でて癒ゆと云ふ。小兒の口瘡につけても妙効あり。

△風痰、喘息その他酒後の咳出でて夜間眠られざるには白疆蠶を炒つて細に研り好茶と和せ毎回一匁づゝ臥床の際薑汁にて內服すれば妙効あり。

治喉痺

△前にも述べたが小供の喉痺には白疆蠶、天南星等分研つて末となし薑汁に調へて灌けば涎出でて治すと云ふ。

腦溢血

△前にものべたが中氣には棕櫚の葉を刻みたる者一掬に、蠶糞を猪口に三杯、紅花少許、甘草少許を加へ、煎じて毎回三回に分服せしめる。又腦溢血の豫防にもなる。

催乳用

△乳汁分泌の不足するには蠶砂末二匁づつ酒にて絶えず用れば遂には泉の如く出ると云ふ。

△人の皮膚蛇の鱗の如くなるものに白疆蠶（嘴を去り）を末し湯に煎じ浴湯して妙効ありと云ふ。

△淋病には蠶沙を砂糖湯にて度々用ひて効あり。解熱には砂糖湯にても甘草湯にても用ひて服する。

中氣の薬

△或は中氣には蠶沙を布袋に入れて酒に浸し、その上液を内服して妙効ありとも云ふ。

消渴の薬

△消渴にて水を飲むものに晩蠶沙を焙乾し末となし冷水にて貳匁服すれば數次にして効驗あり。

治陰痿

△男女心痛して忍び難き時に晩蠶沙一雨を滚湯にて濾し淨め清水をとり服して効あり……瑞竹堂方。

△大人の陰痿に蠶の頭翅脚を去り炒り末し、蜜にて梧子大に丸じ毎夜一丸づゝ服して効あり……千金方。

△また遺精白濁には晩蠶沙を焙乾し、翅脚を去り、末して飯にて菉豆大に丸じて四十瓦、淡鹽湯にて服して効あり。此藥濕を避くるを要す……唐氏方。

痔藥

△痔瘻（穴痔）には蠶糞、好茶の二品等分に合せ且つ煎服し且つ局部につくべし……和方一万方。

子宮病

△諸種の藥毒に中りなば蠶退を灰に燒き冷水にて服すべし。

△子宮病一切に有効の處方として白疆蠶、山椒魚の黑燒末、榧の實黑燒、甘草末の四品各一匁を混和粉末になし、それを六回に分服す。

やままゆ　Antheraea Yamamai Guerin

天蠶

本種は家蠶より大くして体長一寸乃至一寸二三分に達し、翅の開張四寸乃至四寸五分に達する。毎年一回の發生なり。卵は扁平圓形にして濃灰色を帶ぶ。五月上旬頃孵化し七月上旬頃四眠を終り五齡に達すれば三寸位となつて黄色の繭を作り始める。繭は黄綠色にて白粉を附着し多くは食草の葉に捲かれて居る。蛹は暗褐色にして肥大して居る。約二週間にして八月上旬に至れば羽化する。幼虫の体には一面に黄色の短毛を被り、頭部は綠色、胴部は黄綠

色、前胸の前緣は細く褐色で第一腹節より尾端に至る氣門線は紫褐色を呈してその腹側には細く黃色の線にて緣取られる。其翅は黃色を普通とするが褐色、綠褐色、赤褐色等を示すものあり、翅の中室端に中心透明なる圓紋と外緣に近く褐色の條紋があり。雄の觸角は甚だ廣く羽毛狀を呈する。蛾は交尾して間もなく雄は死し雌も產卵を終れば亦斃る。

本種は或云ふ。今より凡そ百五拾年以前に支那より輸入せられたもので信州南安曇郡の一部に之を飼育して居り、又北海道、茨城、長野等の個所にても放飼して居れども、皆その收繭洩れのものが遂に野生狀態に成りたるものである。右等の地方の山林中に野棲せるものの繭を採集して繰絲するのである。

本種の幼虫は櫟、楢、槲、栗の如き殼斗科植物の葉を食とするも、楢はその發芽が幼虫の發生と時を同じくする故、頗る都合よしと雖、繭質薄く、栗の繭も亦薄くして宜しくなく櫟が最適良の樣である。繭の大さは長一寸五分、幅五分許で雌繭は雄繭より較々大形で其重量貳匁前後なり。要するに拾貳基瓦の繭より壹基瓦の生絲を得らるゝと云ふから壹千個の繭よりは貳百拾六匁の生絲を得らるゝ譯である。

接骨用

△接骨には昔は天蠶の繭を黑燒となし、山の芋を搗り潰して練り合せたものを接骨部に塗り、其上から柳の軟皮で繃帶したものである。

濕疹、癰疔の藥

△濕疹にも蛹及び繭を黑燒となし胡麻油で練つて貼り付けて効がある。

△埼玉、栃木等の地方にては蛹繭を癰疔の吸出藥とする。

小兒虫藥

△小兒の虫藥として天蠶の幼虫蛹、成虫を何れも共に燒いて食はせる地方がある。又小兒の解熱に幼虫を水煎して飲ましめてよろし。

百日咳の藥

△又咽喉の痛に蛹の液汁を飲んで効ありと云ふ。

△百日咳に向つて蛹及び繭を黑燒として飲ましめてもよく、又天蠶絲を太く撚つて頸部を縛つておいても効ありと云ふ。

△愛知縣の山間部にても小兒の疳藥又は榮養不良のものに向つて幼虫や蛹を炙り粉末として服用せしめる。

さくさん　Antheraea Pernui Guerin

柞蠶

やままゆに類似した蟲にして体は灰黃色乃至赤褐色を呈するも雌は雄よりもその色淡い。

翅の開張四寸三分乃至五寸許。翅底に近く前翅に長短の二線を存し、後翅には波狀の一線を存する。幼虫は其初め黑色なるも一眠終れば綠色となり、頭部に淡褐色の小點を撒布する。食葉は楢槲、櫟、櫧、蒿柳等である。本種は年二回の發生であつて五月初旬に去年より越年せる蛹から發蛾して產卵する。幼虫期は凡そ一ヶ月半位で、七月上旬繭を結び間もなく發蛾し八月上旬第二回の幼虫が發生し九、十月頃繭を作つて蛹となり更に越年する。本種の春繭は通常薄くして質惡く秋繭の方を優れりとして居る。

本種は支那の原產にして盛京省、山東省地方に多く、滿洲にも飼育せられ歐洲にもある。吾邦へは明治八年に時の開拓長官黑田淸隆氏が此種を支那から取り寄せたのに始り、一時は較々盛に飼育せられたが今日にては僅に長野縣の一部と朝鮮とに飼育せらるゝに過ぎぬ。此繭からとつた繭紬は支那の名產である。

栗葉にて飼育したものの繭は特に色も濃く質も硬いが櫟を用ひた者は淡色で絲細く且つ强靭であると云はれて居る。染色は家蠶のものより難いが天蠶絲よりは容易なりと云ふ。殊に絹紬とした織物が賞用せられて居る。絲價は廉なるも飼育の容易なる爲めに信州有明村にては一ヶ年約三萬圓の繭を得ると云ふ。

小兒驚風藥

△長野縣にては繭を細に碎き小兒の驚風藥にして居る。恐くは本種も亦强壯、解熱の効能を有するものであらう。

腫物

△腫物の口あかず痛むには柞蠶繭一個を中の蛹と共に黑燒粉末となし、種油を練つて貼つて宜し。

骨挫

△骨挫には柞蠶繭を黑燒粉末となし薯蕷の越したものと適宜に練り合せ、柳の皮に展べて毎日一度づゝ貼り代へて効あり。

くすさん　Dictyoploca Japonica Butler

クスムシ、クリムシ　樟蠶

一にてぐす蛾とも、栗むしとも云ひ幼虫は白髮太郎の異名あり。成虫は体長一寸許。翅の開張三寸二三分より四寸に至る。体色黃褐、前後翅共に柞蠶の如くに中央に眼紋と共に波條線をも備へて居る。發生は每年一回にして四五月に涉つて前年の秋、樹幹に層をなして產み附けられたる卵より發生する。卵は灰白色にして楕圓形を成し先端に一個の黑紋あり。幼虫は初め黑色なるも成長するに從つて背面より白色となり、次いだ全体帶綠白色となり胴部全

面に長い白毛を簇生する。これ白髪太郎の異名ある所以である。而して氣門は青色、胸脚は淡褐色、腹脚は綠色、体の下面は黑褐色を呈する。後老熟すれば强靱にして粗雜な網狀の繭を作つて其中に蛹化する。俗に透し俵と呼ぶ。長楕圓形にして長一寸五六分あり。蛹は肥大にして長寸許。黃褐色を呈し、十月頃蛾となる。雄の觸角は羽毛狀。雌の觸角は櫛齒狀なり。

幼虫は雜食性であつて櫟、樟、栗、胡桃、漆、櫨、鹽膚木、櫻、林檎、公孫樹等殆ど食はさるものなく、幼虫の大發生をなす時は公孫樹の大木も復一葉をも止めざるに至る。此種は吾北海道より本州、四國、九州、臺灣を經て支那、アムール、ウツスリー地方にも分布する。

○繭は之をほぐして栗綿となし紡績の原料ともするが、幼虫の絹絲腺からは釣魚用の一種の天蠶絲を製する。

釣魚用の天蠶絲

△秋田地方では此虫の卵を飯粒と練り合せ、紙又は布片に塗り附けて戰の患部に貼る。

輝の藥

うすたび蛾　Rhodinia fugox Butler

ヤマカマス、ヤマヒシャク

蛾は天蠶の蛾に似て居て小い。即体長八分乃至一寸二分。翅の開張三寸乃至三寸八分。翅は橙黃色にして前後翅の中央に透明なる圓紋各一個あり。前翅のもの大にして二條の暗色帶を具へ、外緣に近く凹凸ある一帶があり、前緣角に近く半月形の透明紋があり、その前方は暗褐色にして後翅の斑紋は前翅よりつゞけり。尤雌雄により少しく色彩に變化あつて雄の前翅は細長く、黃褐色乃至橙黃色なるも雄にては休も翅も黃色にて前翅の幅も遙に廣い。幼虫は櫻、楢、櫻、欅其他の植物の葉を食ふ。蛾の羽化は同科中最遲くて拾一月頃で、蛾は食樹の枝幹に產卵する。卵は楕圓形黑褐色にして越年せる卵は四月下旬孵化する。幼虫老熟すれば二寸前後となり、腹面鮮綠色なるが日中は多く背面を下にして小枝に靜止して居る。頭部は碧綠色、胴部は第一節小く、第二節は更に太く、第三節最太く又次第に後方に小くなる。氣門下線部に於いて隆起しその背面は黃綠色、全体に黃色の微點を存し第三節には背上に一對の突起を有し、その外側ば黃色で內側は碧色、体の下面は暗綠色にして黃色の微點を存する。繭は鮮綠色にして長一寸三四分、幅六七分あつて上端に一文字形に潰れたる口を有し、下端は圓錐形に尖りその先端にも小圓孔あり。繭は上端の口の一角より出でたる紐によつて樹枝に懸垂し幼虫は其中に

うすたび蛾

百日咳の藥
指腫の藥

て蛹化するが、この繭の形によつて山叺と呼ぶのである。

△繭を黑燒となし百日咳に內服せしむ。

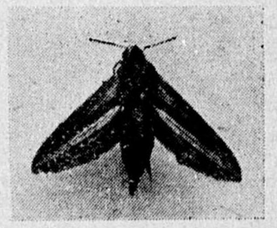
△指の腫物に繭の黑燒を胡麻油に練つて塗布する。山繭も柞蠶も同樣に使用せらる。

天蛾科 Sphingidae

此科の觸角は紡錘形を爲し末端は鎌狀に曲り、口吻は長大なり。下唇鬚は細鱗にて被はれ第三節は隱れて見えず。翅は細くして厚く、飛翔は速なり。前翅に一內緣脈ありて其基部は分叉し、後翅は小く、前緣脈は獨立して翅底より出で、抱刺を備ふ。腹部の末端は尖つて圓錐形をなす。幼虫ば裸にて尾角を有する。何れも草木の害蟲にして燈火に飛び來る。種數百以上あり、今その數品を下に揭ぐ。

せすじすゞめ Theretra Oldenlandiae Fabricius

前翅灰褐に少しく綠色を帶び後緣の中央より前緣角に達する灰白條が斜に走り、其內側に太い黑褐條があり、其緣の中央に更に色の濃い細線があり、又外側に黑色の稍々細い線があり、更に其外側に灰白色の紋がある。後翅は小くして暗色に、中央に灰黃色の部分があり。腹背には銀色の二縱條走つて居る。幼虫は綠褐色、稀に紫色を混じ、第四節乃至拾節に左右一個づゝの眼紋がある。老成した幼虫は里芋、半夏、甘藷、鳳仙花等を食草とし長さ二寸六七分となり、地上に落葉を綴つて其下に蛹化して越年する。蛾は六月より八月までの間に二回の出現をする。最普通の種類で野外にて夕方に月見草などの花に飛來するを見る。効用は最後のしもふりすゞめの條下に記す。



ほうじやく Macroglossa Stellatarum L.

ほうじやく

翅の開張一寸七分許。体翅は暗灰色。前翅にある二黑帶の中外方のものは判然して居るが、後方のものは判然せぬ。中室點は黑色で外緣は少しく濃色である。後翅は黃褐色にして外緣と翅底に濃色の處があり。尾端に稍長い黑毛を有する。幼虫はかはらまつばの葉を食ふ。吾邦各地に普通にして蛾は晝間に花上に飛來するを見る。成虫にて越年する。効用

は後文に記す。

めんがたすゞめ　Acherontia Styx West

えびがらすゞめに似た大蛾にして翅張三寸四分。休長一寸五六分。胸背に髑顱狀の斑紋あるにより骸骨蝶の別名がある。前翅は黑褐色にて中央に一の黃色紋と數條の判然せざる濃色の波狀線があり。後翅は黃色にして二條の黑帶を存する。幼虫は馬鈴薯、茄子、胡麻等の葉を食害する。その老成したものは休長三寸許に達し、黃色にして頭部は割合に細く、第四乃至第八節には側面に青色の斜條を存し、その後方は黃色を以て緣取られ、背面には青色の細點を散布する。成虫も幼虫も之に觸るれば一種の音響を發する。効用は本科記事の最後にあり

べにすゞめ　Pergesa elpenor lewisi Butler

休長一寸一二分。翅の開張二寸三分許。休翅共に黃綠色を呈し、前翅外緣の外半部と中央の二帶は暗紅色を呈し、後翅も亦暗紅色なるが翅底は廣く、黑色を帶び緣毛は白い。幼虫はかはらまつば、鳳仙花、月見草、千屈菜、待宵草等の葉を食害する。此蛾は六月より十月に

亘つて出現するが餘り燈火に向つて飛來して來ぬ。

きいろすゞめ　Theretra nessus Drury

休長一寸四五分より一寸七八分。翅の開長三寸乃至三寸三分許。休色綠褐。頭部、胸部は灰白色に緣取られ、胸部は少しく橙色を帶ぶ。腹部の兩側には鮮明なる橙黃色の廣き縱帶を存す。前翅は褐色にて基部より前緣にかけて暗綠色を呈し且つ基部には黑と白との軟毛あり。翅頂より後緣の基部の近くまで翅の中央は灰黃色にて微に淡紅を帶び、その中に數條の細き暗色の斜線を見る。橫脈上に一の黑點あり。後翅は黑色にて外緣に近く灰黃色の一帶あり。裏面は灰橙色にて紫褐色の細點を散布し且つ數個の暗色線を走らす。幼時はやまのいもの葉を食ひ、蛾は六月より九月頃に出現し燈火に飛來す。

本種の幼虫は老成して長さ二寸七八分內外に達するが、全休綠色型と褐色型の兩樣あり、年に二回の發生をなし、蛹にて越年する。

えびがらすゞめ　Herse convolvuli L.

ガイコツテフ

世界中普通に產ずる大形の蛾にして体長一寸五六分。翅の開張三寸四五分乃至四寸内外。休翅共に灰褐色を呈し、前翅には數條の犬牙樣の横斷線を有し、その中室端に灰白色の斑紋があり、後翅には幅廣き暗褐色の帶紋があり、腹背の兩側に海老色と黑色との縞紋があつて恰も蝦の腹部を見るが如き感があるので其名がある。幼虫は甘藷、旋花、朝貌等の葉を食害する。その体色に綠色のものと褐色のものとあり、孰れも第四節以下の体側に斜狀線を附け綠色種は頭部の左右に黑帶を存し、氣門は褐色にてその周圍は黑色。橙黃色の尾角の先端は黑色を呈する。幼虫は地中に窩を作つて其中にて蛹化するが蛹の口吻は著しく体より距れ鉤狀に卷けり。本種は五月より九月頃に出現し花蜜を吸收するの外、葡萄、紅茄子等の果汁を吸收する。年一回の發生にて蛹にて越冬する。効用は次者の條下にしるす。

しもふりすゞめ　Psilogramma menephron increta Walker

吾邦の他、支那、印度等に亘つて見る大形の蛾にして体長一寸六七分。翅の開張三寸五分乃至七分許。休翅共に褐色のそれに白色或は灰色の鱗毛を密布する故に霜降狀を呈する胸部は黑色に緣取られ、その内側細く黃色を呈する。腹部背上及び兩側には黑色の縱線を通ずる。前翅の中央に二個の波狀線と第二及び第三室には黑色の縱線がある。亞外線緣は斷續して點列となる。その外方に不明瞭なる白い波狀線がある。翅頂より内方に向つて黑色の一斜線を存する。後翅は殆ど黑色なるが後角の附近のみ少しく灰色なり。緣毛は白と黑との斑を有し裏面は暗灰色にて二條の暗帶之を横切り、休の腹面は白色である。幼虫は成長すれば二寸二三分の長さに達し。頭部は前方より見れば一對の白き縱線を存し、胴部は綠色にて第一腹環部より第九節に亘つて顯著なる白色の斜線を裝ひ、尾角は紫褐色にして顆粒を存する。いぼた、くさぎ、桐、胡麻等を食害する。成虫は五月頃より八月に亘つて出現し、夜間花を訪ひ來り飛翔の際一種の音響を發する。吾邦各地に存するが原種は臺灣に產すると云ふ。

天蛾類の利用

○此類は幼虫蛹共に油煎りにするが焙つて食すれば頗る美味である。成虫も翅を去り鱗毛

を去れば食用に供し得べし。

△幼虫を燒いて小兒の疳藥となし或は黑燒となし胃病の藥として用ふる地方もある。千葉縣地方にては幼虫を腫物の藥となす。

△福岡縣地方にては幼虫を肺病その他解熱劑として藥用する。

△實驗者の說によれば幼虫を小兒の蟲藥となすにはその大形の者ならば小兒年齡二歲位にてその一節、四歲位にて蟲の半身位を一時に與ふるを適度なりと云ふ。但し每日二三回與へること。

小兒の虫藥

解熱用

水蠟蛾科 Brahmacidae

口吻あり。下唇鬚は大くして圓く、上方に向ふ。觸角は羽狀なり。前翅に一の內緣脈を有し、その基部は分支する。第五脈は中室の中央若くは第六脈に近く出で翅端は圓い。後翅の七脈は八脈と相接し、抱刺を缺き、前後翅共に短い中室を有する。幼虫には休に絲狀の附屬物を具へて居る。

いぼたむし蛾 Brahmaea japonica Butler

いぼたむし蛾

休長一寸乃至一寸五分。翅の開張三寸乃至三寸五六分。体は黑色にて灰黃色の條紋がある。前翅の三分の一の處に約七條の黑帶を存するが是等は多少波狀をなし、その外側の下方に圓き一大紋があつて暗褐色を呈し、その周圍は黑くて黑紋を散在せしめ、各紋の中央は白い。その外側の下方に暗色の波狀線八行あつて稍平行し、その上方には矢筈狀の白き紋あり。後翅底の二分の一は暗色にて殘部に約一寸許の暗色の波狀線があつて橫走して居り、脈は黑と白の斑を成す。吾邦各地に產じ幼虫はいぼたを始め秦皮、冬青、枸骨（ヒラギ）、木犀の如き木犀科植物の葉を食害する。幼虫は綠白色圓筒形の烏蠋（イモムシ）にして少しく、頭部は圓く、黃色にて黑斑を存し、胴部の側面は多少黃色を呈し多數の黑點があり、氣門線列のもの最顯著にて基線列の縱條之に亞ぐ。第二第三胸節と第十腹節の背面には各一對宛と第八腹節の背面には一本の黑色の角狀突起とを具ふる故に一名を七本角と俗稱する。但し最後の齡になれば脫皮して此突起を失ひ、長二寸强となり漸次に黃褐色を催し、淺く土中

肺病藥
貧血の藥

に入りて蛹となる。蛹は暗褐色にして約一寸餘の長となり尾端に錐狀の突起がある。蛹は頗丈夫で乾燥にもよく堪えて夏秋冬を土中に經過し翌春羽化する。

△幼虫をいぼたむしと稱し、古來民間にて肺病結核の妙藥と稱へて焙つて嗜食する。

△小兒の疳症、蟲氣などと稱するものに一回に一疋位づゝ醬油附燒となして之を食はしむ。すべて貧血病者に味噌燒、醬油附燒となして與へて効がある。

△右の外或地方にては胃病患者に與へ埼玉地方にては梅毒患者に與ふるを見る。果して妙効ありや否、輕々しく信ずべきにあらずと雖その貧血症の人々に有効なるべきは著者の信じて疑はざる所である。

枯葉蛾科 Lasiocampidae

口吻なし。下唇鬚は大にして突出する。觸角は羽狀を成し、脛節に一雙の距を有し軟毛を具へる。前後翅の第五脈は第四脈に接近し、前翅の內脈は二個或は稀に三個あり。外方のものは甚だ短く、前翅に抱刺なく、第七八脈の中間に短脈なし。体は大なるも翅の小なるものあり。何れも森林の大害蟲である。

まつけむし Dendrolimus spectabilis Butler

マツカレハ　マツムシ（同名アリ）

体長雄は弍寸前後、雌は二三寸。体翅に灰白、灰褐、黑褐等の諸色ありて一定せず。今其一例を擧ぐれば暗褐色に白色の條線あり。成蟲は八月九月に渉つて各地に出現する。幼虫は黑松、赤松の葉を食害する有名なる害虫で通常一年一回の發生である。その体面に灰色と黑色の多數の毛を生じ、外部より刺戟を受くれば胸部の毒毛を現出し之に觸るれば疼痛を感ずる。

○東海、近畿の人々は餘り食用にせざれど奥羽地方の人々は古來醬油附燒として食し居れり。

○朝鮮出身の鄭繼烈氏の熱心なる試食によりて大に松蟲の食養價値を知れりとて騷ぐ人あり。其說によればその價値は恰も七面鳥のそれに匹敵するとの事である。

○先づ毛燒と稱して火焔の上にて幼虫を焙り、その未だ冷却せざる間に、海老の皮を剝くが如くに之を剝けば白色の肉塊となる。即ち毛燒後一分間許水に浸せば容易なりと云ふ。次

不老長生

に腹を開き糞を除き去れば肥厚せる肉となる。此肉を更に一回燒直し食鹽をつけて食するか又は砂糖醤油をつけて蒲燒の樣に三四回繰り返して燒けば甚だ佳味の食品となる。

○蒲燒にすれば鰕か鰻の如き香味あるが肉汁の中に投じてスープと爲すも可なり。蛹は天布雜にしてもよし。人其外貌上にて倦厭の心起らば衣をかけて天布雜となせば一層妙なるべし。松毛蟲は不老長生の藥なりとは支那の傳說である。

刺蛾科 Cochlidiomidae

前翅に貳個の內緣脈あり。その外方の者は基部に分岐し、第五脈は中室の後角より出づる。後翅の八脈は基部にて七脈と相接し、二個の內緣脈がある。幼虫には脚なく体に剛毛を具へ有毒なり。繭は普通卵形、堅牢にして一端に蓋を具へ、羽化すれば之を破つて出づる。蛾は肥大し、翅は厚く何れも梅、櫻、柿その他諸樹の害虫で臺灣その他暖地には殊に多い。

いらが　Cnidocampa flavescens Walker

イラムシ　刺蛾

蛾は体長五分許。翅の開張一寸許。体翅共に帶褐黃色。前翅はやゝ綠色を帶び、斜走せる二條の黑褐線を有する。幼虫はやゝ扁く、体長八分許となり頭部は淡褐色にて小く、第一胸節の下に隱れ、胴部は黃色にて肥大し緣毛を帶び、硬皮板は半月狀を成して之に二個の黑點があり。体上には全体に亘つて瓢形の紫褐色の紋を裝ひ、体の中央に於て細く、第二節以下各節の亞背線列に一本宛の肉狀突起を有し、側面にも各節に同樣の突起を有し、青色の氣門上緣と黃褐色の氣門下線を有する。又体には毒針があつて之に觸るれば甚い疼痒を感ずる。

雀のたご

冬月既に落葉ぜし櫻、梅、梨、枇杷を始め、石榴、栗、棗、榎等の通常木の枝の叉狀部に小楕圓形の固き繭を營むものあり。繭は灰白色にて其上に不規則なる太い黑褐色の條斑がある。俗に之を雀のたご或は雀の小便たごと呼ぶ。漢名雀甕これなり。幼虫は七八月頃食樹の枝垂を這ひ廻つてその葉を食して成長し八九月頃繭を作るが、繭はその上方の端が蓋の樣になり、外方よりは開ぎ難いが、內方よりすれば容易に開く樣に出來て居る。日本各地に產する。發生時は多くは一年一回なるも時に二回なるが如く、卵期は一週間位なるが繭の中にも幼虫のまゝ存在し羽化の十數日前に蛹化するなり。蛾は夜間燈火に飛來する。

近年此虫が米國に渡りボストン附近に盛に蔓延し、米國人は Oriental moth と呼んで居る。此虫の孵化前に黑變せるものあるか寄生蜂に冒されて斃れたるものである。支那の書物に雀兒、天漿子、刺剛子、紅姑娘等と稱するもの概ね此虫の事である。

榮養劑

○群馬縣及その他關東地方にては石灰質の殼を破つて內部の蛹若くは幼虫をとり出し、之を炮烙の如きものの上にて食鹽を混ぜ、炒つて食用にして居る。

△奧羽地方にても殼の內部の虫を串刺となし醬油附燒となし脾疳の病に効くとて之を小兒に與ふ。

目の藥

△其他蛹及び成虫を目藥となし蛹を脾胃の藥となすものあり。俗に血目と稱するものに毒針をとり去つた幼虫の絞汁を點眼する。

小鳥の榮養品

△越冬中の幼虫を小鳥の餌となせば大に鳥の精力を增進するとて愛禽家に賞用せらる。

蝙蝠蛾科 Hepialidae

口吻なし。兩鬚なきもの多し。觸角は絲狀にして短く、脚は短大にして距なし。前翅の第五脈は中室の後角より出で後緣の基部に翅垂があり、後翅に拾貳脈を具へ、內緣脈は三個、前緣基部に一個の橫脈あり。幼虫は植物の木質組織內に蠹入して食害する。種類一ならず。

かうもり蛾　クサギノムシ　クサギノシンクヒ蛾　トウナムシ

Phassus exerieni Butler

休長一寸三四分內外。翅の開張二寸乃至三寸。大体帶灰褐色。翅は割合に細く、前翅は鵲豆の莢の如き三角形をなして淡き褐色斑を多少網狀に排列して存する。翅の基部半上に擴がる大なる三角形の黃褐斑あり。其外緣及び下緣は多少白味を帶ぶ。この外方には外方に向つて朦朧たる廣き黃褐色を存し。後翅も略同樣なるが褐色も周緣は稍薄い。而して頭部は小く觸角は絲狀にして短い。成虫は八九月頃出現し黃昏より飛翔すること蝙蝠の如し。斯くて交尾の後雌は臭梧桐、桐、接骨木等の幹枝の柔軟部を撰んで產卵すれば孵化したる幼虫は直に木質部に蠹入して母樹を食害する。幼虫は頭部淡褐色、その他は淡黃白色にして八對の脚は体と同色にて長ずれば貳寸二三分となる。蛹は長形にて淡褐色より褐色となる。頗天牛類の幼虫なる鐵砲虫に類すれど天牛の幼虫は無脚に

て汚穢物を幹枝の局部に穿てる小孔より脱出せしむるも、此ものには八個の脚を有し且つ其排泄物を必ず樹幹の一部に外開せる孔の口に出し纖き絲にて之を纏綴する習慣がある。

美味の痞藥

○△幼蟲を捕り炙り醬油附燒となして食すれば甚だ佳味で古來痞藥と稱して小兒に食はしむ。小兒にも大小あれど通常二疋を焙りて三回又は四回に與ふるなり。

強壯劑

△大人にても強壯劑として用ひてよし。昔から生來の虛損、肺病、胃病などと云はるゝ人々多く食用せり。實は著者も隨分食つたものである。但し地方によつては梅毒や淋病にも特効ある如く云ふ人あれど果して適確なりや予は之を信ずるの勇なし。

避債蛾科 Psychidae

蛾の雄は羽狀或は櫛齒狀で翅を有するも雌は蛆狀にして飛翔することなし。果樹の葉を食害し、小枝、枯枝等を綴つて簑を作りその中に潛んで居る。

ちやみの蛾 Cryptothelea minusoula Butler

幼虫は茶樹を始め櫻、梅、桃、梨、櫟等の嫩葉を食害する。雄は体長四分。翅の開張七八分。雄は休暗褐色。前翅中央の脈黑色なるが第三室に少しく透明なる部分あり。後翅は稍濃色。休面に暗褐色の長毛を簇生する。雄は蛆狀にして脚も翅もなく圓筒狀に肥大し、体色黃白、頭は赤褐色。終生簑内にありて生活する。一年一回の發生にして七月頃孵化したる幼虫は葉に移り、葉を嚙みながら移行して食をとり、靜止する時は絲を以て枝に巢を止めてその中に居る。本種は吾本州四國九州より支那に亘つて分布し成虫は七月頃出現する。

齲齒の藥

幼虫を捕へ來りて五色の絲を二三分に切りて瓶中に入れ與ふれば一夜の中に之を材料として面白い巢を營むのが見られる。

心臟の藥

△齲齒には幼虫を巢のまゝ之を黑燒となしその粉末を齒の穴へ塡めてよし。

肺病の藥

△心臟病者に向ひて幼虫を甘草と共に煎服せしむる人もあり。又巢のまゝ黑褐色になるまで焙り、毎日二三十疋づゝ食はしむる人もある。

△又肺病患者に向つて幼虫成虫ともに之を炙りて食はしむ。或云ふ黑燒粉を通常散藥包みの位にして毎日三回づゝ空腹時に服用すれば一ヶ月にして大抵治癒すと。

夜蛾科 Noctuidae

此科の蛾は休色翅色或は灰色或は褐色等にて不明の縞模様を有し、翅に緣毛あり。幼虫は夜間出でて各種作物の害を爲す。或は葉を卷き、或は土中に入りて蛹化する。

夜盗むし Barathra braisscae L.
ヨトウガ

休長六分乃至八分。翅の開張一寸五分乃至一寸七分。全休灰色にて前翅には灰色と黑色の斑紋を存し、後翅の基半分は稍淡色にして緣邊は淡黃色なれども中央に暗褐色の一線あり。裏面は淡暗褐色にして後翅の後緣は白色を帶び、横脈紋及び外横線を有する。幼虫は蕓豆、蠶虫、大根、白菜等の作物に大害を爲す。成虫は四五月及び八月の二回に出現する。幼虫の休は一寸二分許。頭部は褐色、下顎と下唇は白色、胴部は暗褐色乃至灰黑色にて灰黃色の細点を散布し、背線、側線は灰黃色にて細く、背線と側線には各環節毎に斜めの暗色影があり、氣門は灰黃色、氣門線より氣門下線までは灰黃色の一帶を有す。腹面腹脚及び尾脚は灰黃色、胸脚は褐色である。蛹にて越冬し五月頃羽化すれば蛾は卵を一個處に多數產み附ける。六月中に老成せるものは土中に入りて蛹化し再び九、十月に入りて出現する。幼虫は夜間に食を攝る習性あるにより世人之を夜盗虫と呼ぶ。蕓豆、白菜等の作物に大害をなす。

螟蛾科 Pyralidae

成虫は螟蛾或は螟蟲蛾、髓虫蛾と呼ぶ所の小虫にして、翅の開張多くは六、七分内外で一寸を超ゆるもの稀である。下顎鬚は通常よく發達し、後翅には三本の臀脈がある、後翅の第七脈と八脈とは連れ居るか或は著しく接近して居る。幼虫は長形にして五對の腹脚を有し多くは陸棲である。農業上有害動物なり。

二化螟蛾 Chilo simplex Butler

前翅は黃褐色或は暗灰褐色にして外緣に約七個の黑き點列を有し、中室端に紫灰色の斑を具ふ。後翅は雌にては殆ど白色なるも雄にてはその外緣に向つて多少褐色を帶ふ。頭部と胸

部とは黄褐乃至黒褐色にて腹部は白色なり。蛹は褐色にて四五分の細長き形を成し、尾端に數個の突起物がある。幼蟲は即稻のずるむしと呼ばれ、黄色にして五條の縱走せる褐色線を有し小刺毛を生ずる。長さ七八分許にて稻の莖内に潜み、咀嚼に適せる口にて其中心部を食害する。卵は長徑一ミリ内外の扁平楕圓体にして稻の葉の表面に魚鱗狀に集團して産み附けらる。此種は本州、四國、九州邊にては名の如く年に二回發生するも北海道、青森の一部にては一回、又臺灣にては四回性なることを知るに至れり。而して内地にて第一化期の盛時は六月上旬乃至下旬にて第二化期の盛時は八月中旬乃至下旬と知られたり。

驅除法

驅除法としては有力なる天敵なる、ずるむしあかたまごばち、ずるむしくろたまごばち等の利用によるの他は第一期には誘蛾燈の使用による點火誘殺や捕蛾採卵、被害莖葉の摘採等を行ひ、第二化期には被害摘採の刈取りたる臺の處々、刈採の處分、稻以外の禾本科植物間に隱れて越年せる者の處分に努むべきである。

三化螟蛾 Schoenobius incertellur Walker

雄は前翅淡褐色に褐色點を散布し、中室端に小黒點を有し、翅尖より内緣に黒褐色の斜線を走らす。但し内緣に達せず。後翅は淡色なり。雌は前翅橙黄色、中室端に一黒點を有し後翅は白色なり。翅の開張雄は八分、雌は九分許なり。此蛾は内地にては通常三回即ち四五月七月及び八九月に出現する故に其名がある。卵は數拾乃至百餘粒を一塊となして雌の尾端に存する黄色毛にて之を被ひ、稻葉面に産み附ける。幼虫は淡綠色にて幼虫のまゝ稻株又は藁の中にて越冬する。

本種の二化螟虫との區別點は年三回の發生なること、幼虫の黄綠色にして縱走せる褐色線のなきこと、蛹の白色にして莖内又は葉鞘内にあらずして主として根部の莖内にあること、成虫の雌の前翅の黄白色にして中室内外端に一個の黒點を存すること等である。兩者とも苗代時代期に成虫出現して稻の葉に産卵すれば幼虫は稻の莖に食ひ入りて害をなす。是等は後記有吻類の浮鹿子科のうんかと共に吾邦稻作の三大害虫として知られて居る。

小鳥の飼料

○害虫として驅除する際、幼虫を採集して禽鳥類の飼料に供すれば利あり。

山間の食品

○山間地方にてはいなごの如くに多く捕獲して之を焙り又は佃煮となして食膳に供してよろしく又天布羅となせば香味一層佳なりと云ふ。

透羽蛾科 Aegeriidae

中形乃至小形の蛾にして体は多く長し。翅は細長くして中央は透明、周縁に鱗毛を密生する。幼虫は樹皮に食ひ入つて形成層を食害する。蛾は夏季出現し幼虫は翌年夏に至り蛹化し次で羽化する。

ぶだうすかしば Paranthrene vegale Butler

小鳥の榮養劑

体は黒褐色、翅の開張一寸一分許。前頭の両側は銀白色。頭頂、頸、前胸の側片、中胸背の縦條、後胸の両側の紋、腹の第四五六節の後縁等は橙黄色なり。觸角は黄褐色。前翅は暗褐色、翅底の三分の一は前縁を除いて黄褐色。後翅は透明にしてその末端の二分の一は黄色横脈は紅褐色、脈及び縁毛は暗褐色。腹部は黒色、中胸の側部は黒藍色である。此虫は有名なる葡萄の害虫にして野生の墨(エビヅル)莫にも好んで寄生する。蛾は晝間飛翔するが一見蜂の樣である。

○幼虫をとり小鳥の餌となす。病鳥活蘇劑として有名なり。

△人も亦捕り來つて砂糖醤油を加味して串刺とし燒いて食すれば佳味なるのみならず、小兒の疳藥、大人の胃病、子宮病、ヂフテリア等に効驗ありと云ふ。

木蠹蛾科 Cossidae

幼虫は多く裸体にして樹幹に蠹入し材部を食害する。ぼくとう、ごまぶぼくとう等の種類がある。

ぼくとう蛾 Holocerus vicarius Walker

体は肥大にして長さ八分乃至一寸内外。翅の開張一寸二三分乃至二寸二分許。全体黒褐色に灰褐色を混じ翅は長くして圓味がある。前翅に不判明なる横の條斑多し。幼虫は多少扁平老成して一寸八分位となり、頭部は黒色、胴部暗紅紫色、胸部に數個の黒色厚皮板を存し、中央に白色の縦線あり。胴部の各環節に低き疣狀の突起を存し、それより一本の短毛を生ずる。幼虫は柳、赤楊、櫟、槭等の樹皮下に穿入し、上下に縦孔をつくり、その一部に木屑を綴つて繭の如くになし、その中に蛹化し、羽化の際には自己の着たる蛹体を過半孔外に脱出

せしめる。此種は廣く東方亞細亞に分布するが、蛾は吾邦にては七八月頃出現して燈火に飛來する。但し成虫は二年にして一回の發生をなすと云ふ。

△小兒の疳藥、解熱劑及び營養不良を醫するに藥用する。

△長崎地方にては幼虫を火に炙り粉末にして服用するが、或は生の儘その汁を搾り酒に和して飲んで可なりと云ふ。

ごまふぼくさう　Zeuzera pyrica L

休長八分乃至寸許。翅の開張一寸五六分乃至貳寸一二分。翅は灰白色を呈し、それに多數の黑色紋が點列して散在する。腹部は黑褐色を帶び胸部には藍黑色の點を二條に列し、翅にも多數の黑點を點列する。幼虫は長一寸五分内外に達し、頭部比較的小くして黃褐色を呈し、上部は白色、左右に黃褐色の紋を具へる。前胸の硬皮板は黃褐色にして硬く、中央に白色の縱線を有し、胴部は淡い橙灰色の亞背線部に二個と氣門上、下線部に各一個の小黑點を有し、これに褐色毛を存する。蛾は二年に一回の發生なるが吾邦本土にては六七月頃より拾月に亘つて出現し臺灣にては四月頃なりと云ふ。被害植物は頗る雜多にして茶、山茶、柃の

如き山茶科。椶木、躑躅の如き石南科。枇杷、林檎の如き薔薇科。その他石榴、菩提樹、鶯かぐら、樺、櫟、榛及び草綿等もその被害植物なりと云ふ。

△幼虫は林業に有害なるも、くさぎの蟲などと共に大人小兒の虛損を補ふ爲めに炙つて食用に供せらる。

鳳子蝶科（アゲハチウ）　Papilionidae

種類多し。後翅の内緣脈は一個。中室は圓形に近く、前脛節に葉狀の附屬物を持し、脚爪は分支せず。後翅は往々尾狀をなして延長する。多くは大形の蝶にして幼虫は肉質の二黃角を有し、蛹は帶を有する。

あげはのてふ　Papilio xuthus L.

鳳子蝶

美麗なる大形の蝶にて幼虫は綠色を呈し、いもむし狀を成し、主として、からたち、きはだ、さんせう、いぬざんせう、せんきう、ヘンルータ等の葉を食害する。初めは鳥糞蟲と云

あげはのてふ

つて恰も小鳥の糞の如き形式を呈するも後に大くなれば綠色となり、頭部の後方より先端の二叉せる赤黃色の肉角を出す。尤平素は之を內藏するも危害にあふ時には之を出して麻醉性の惡臭を放つ。斯くて蛹化すれば綠色多角形のものとなり、尾端を樹枝に附着し、環狀の絲にて自体を支へて懸垂するの狀縊死するものの如し。故に漢名縊女と稱し、吾邦にては古來お菊むしと呼べり。姫路のお菊神社にては靈蟲となし捕り來つて之を販賣して居る。これ播州皿屋敷お菊の昔物語に基くものなるべし。成虫は

お菊虫

休は綠黃色、背面に黑色縱條走り、翅は淡黃綠色若くは暗黃（雌）にして前翅に黑條多く、中室內には黑色縱線及び橫紋を存し、外緣に沿ふて黃色斑並列し、內方には多くの黃色大橫斑があり、後翅の外緣には弦月形の黃斑列を有し、その內方の黑色部には青藍色の鱗粉を散らして斑紋狀を呈する。尾狀突起は黑く、內緣角には橙黃色の大紋存し、其中央に黑色の圓點を見る。

春型夏型

体長八分乃至一寸。翅の開張二寸七分乃至四寸。此種は四五月頃出現するものと七八月頃出現するものと季節的の型色を殊にする。即ち春生型は形も小く色も淡いが、夏生の者は之に反する。利用は此科の最後に記す。

きあげは　Papilio machaon L.

体長一寸乃至一寸五分。翅の開張三寸乃至四寸。体色淡黃、背面に黑色線縱走する。前翅の基部並に外緣は灰黑色を呈し、外緣邊に沿つて黃色の楕圓紋並列し、中央部には大方形紋が縱走する。中室は灰黑色にて貳個の大黃斑あり。後翅は黃色にして外緣は天鵞絨黑色を呈し、外緣邊に沿つて黃色の弦月紋の列あり。又黑色部には青藍色の鱗粉より成れる圓紋あり。內緣角には赤褐色の大紋あり。尾狀突起は黑い。黃色の地色は多少濃淡の變化をもち、雌は殊に淡い。而して春型は黃色鮮明なるが夏型は遙に大形にて黑色部が發達して居る。此種は各地に產ずるも殊に多く山上に見る。幼虫は柑橘類の外、秦椒、枳殼、きはだの如き芸香科植物の葉を食害し、四月より二三回出現する。利用は前者に同じ。

くろあげは　Papilio protenor demetrius Cramer

体長一寸乃至一寸二分。翅開三寸二三分乃至四寸。普地に見る黑い大形の蝶である。前翅は暗色、中室及び各室には二條の黑き橫條を有し、第一室に限つて二橫條を存する。後翅は

きあげは、くろあげは

天鵞絨様黄色にて内縁の末端に橙黄色の環紋あり、第二室には橙黄色の弦月紋あるものとなきものとあり。雄には前縁に黄白色の横紋あり後翅の裏面の各室には橙黄色の弦月紋を存し、尾状突起は黒くして短い。雌は雄より淡色にて形大く、後翅の前縁に黄白色の斑紋を缺く。幼虫は深緑色にして肉角は深紅色を呈し悪臭あり。幼虫はからたち、みかんの如き柑橘類の害虫として知られて居るが、秦椒その他でも芸香料植物ならば食害する。成虫は四月中頃より數回出現し蛹にて越冬する。矢張春型の方は小形である。利用は前者に等しい。

をながあげは　Papilio macilentus jonson

体長一寸前後。翅の開張三寸乃至四寸許。頗くろあげばに似たれど遙に細形である。前翅の表面の色は寧ろ灰黑にして外縁毛は白い。後翅は細長くして内縁角に暗紅色の環紋を有し尚外縁に沿つて同色の弦月紋が並列し、翅の裏面は表面より淡くして各室の末端に橙黄色の弦月紋あり。尾状突起は殊に長い。雄には後翅前縁に黄白色の横紋ある事はくろあげはに異らず。平地よりは山地に多く。食草は判明ならずと雖、つゝじ、合歡樹等の花に飛來し、またよく路傍の水溜等に集ることあり。

あをすぢあげは　Graphium sarpedon nipponica Fruhasorfer

体長八九分。翅の開張二寸三分乃至二寸九分。黑色の地に前後に貫く幅廣き青緑色の帶狀斑を有する種にして裏面は淡色、又後翅には赤色の線狀紋あり。年二回以上發生し、春季發生のものは帶紋著しく緑色を呈し且つ其幅が廣い。割合に吾邦の暖地に多くて飛翔が速にして、花の他屢々地上の流水面に集るを見る。幼虫は樟、やぶにくけい、いぬぐすの如き樟科の植物を嗜食す。此蝶は蛹にて越年する。

じやかうあげは　ヤマジョロウ　Prpilio alcious Klug

体長一寸内外。翅の開張三寸乃至三寸五分。形狀尾長あげはに酷似すれど、尾樣突起は彼あをすぢあげは、じやかうあげは

れより細い。雄は黑色なるも雌は暗灰色である。後翅基部は稍紫色を帶び、各室に暗紅色の弦月紋を存し、翅の裏面は表面より淡く、後翅の外緣には紅色の弦月紋を裝ひ、第二室に於ては二紋癒合して不規則なる方形を成せり。休軀は黑きも兩側面暗紅色にて尾端に紅色の軟かなる總毛が多い。幼虫は黑色に白斑を持し、蘿摩（ガ、イモ）、馬兜鈴（ウマノアシガタ）、いけま、防巳（ツヅラフヂ）等の葉を食害し、特殊の芳香性臭氣を發散する。飛翔は比較的緩漫である。年數回の發生なるが春型は著しく小い。

鳳子蝶類の利用

△元來癰は化膿菌による惡性の腫瘍にして皮肉の深部に占據して發赤腫脹し劇痛を伴ふもので、或は頭、背、臀部等に發して頗危險なる者多い。それには鳳子蝶をすりつぶし胡麻油に練つて局部に貼り、上より布片にておさえおいて効ありと云ふ。それもくろあげは、からすばあげはの如きものを賞用する習慣あり。

△幼虫の內臟をとり出しおき、その休にて瘰疬の患部にかぶせる。

△千葉縣其他關東地方にてはからすばあげは、じやかうあげはの如き黑き蝶をつぶして胡麻の油と合せ布片にのべて腫物に貼る。

癰の藥

腫病の藥

△又信州にては各種の蝶を油又は麥飯と練つて腫物に貼る。又處によつては鳳蝶の翅を黑燒となし押糊に練りまぜて膿の吸出しに用ひ、或は鱗粉とねつて腫物にはる。

膜翅類 Hymenoptera

蜂類の口部は咀嚼並に舐食するに適する。四翅は膜質にして翅脈は少い。頭は自由に動き普通の複眼の他に三個の單眼あり。雌の尾端には產卵管又は毒刺あり。中には葉蜂の如く植物に有害なるものあれど、花蜂、姫蜂の如くに農林業に有益なるものもあり。蜜蜂の如きも普く人の知れる益蟲なり。

蜜蜂科 Apidae

觸角は膝狀。後翅の第一附節は多くは側扁にして花粉を採集するに適す。斯くて成虫は花蜜を吸ひとりもするが花粉の媒介をもなすものである。

蜜蜂　Apis indica japonica Rodoszkowski

秩序ある社會生活をなす模範的の昆虫にして、此蜂に三型がある。女王、職蜂及び雄蜂が是である。

職蜂は一巣の中にその數頗多く、体は暗褐色にて灰黄色の軟毛を密生し、頭は灰黄色にて被はれ、觸角は暗褐色なるも基部は黄褐色である。翅は透明にて稍々暗色を帶び、脈は灰黄色、前緣脈と中脈は黑褐色である。腹部は第一腹部外緣の中央部は赤褐色にして、肉面は黄褐。体長は三分三厘乃至四分三厘許。

雄は無精卵より孵化したものにて毒針なく、腹部と脚は黑褐色を呈し、複眼は著く大くて互に相接する。体長四分乃至四分三厘。

女王は即雌で大形にて肥滿し、翅短く兩眼相隔離し、棘針は上方に捲曲して螫す用を成さぬ。体長五分内外。翅の開張七分許あり。

前に述べた職蜂は皆分業に服するが、採集係は二里以上の遠き所より花蜜を求めて蜜嚢を膨かし、脚の花粉籠に花粉を充たして歸巣する。

伊太利種

カーニオラン種

分封

右の蜜蜂は北海道から九州に亘つて産ずるものなるが、此他のものは、

伊太利種　歐洲産の一にして体大く、黄金色の美しき蜂であつて、性溫良にして輕々しく人を螫す事なく、よく蜜を集めよく繁殖して大群を成す。飼ひ易い。

カーニオラン種　墺太利カーニオラ州の原産にして体大く、灰色にて、腹部の後半に銀白色の毛を蒙る。性質溫和にして寒さに堪ゆるを以て管理し易い。近年飼ふ人が多い。

職蜂は巣の造營、食物の採集、仔蟲の飼育等の業務に從事するが、仔蟲の多くは復た職蜂となる。その中數疋の娘蜂と數百疋の雄蜂とが現出する。その娘蜂中で第一に生れた者羽化すれば女王は職蜂の一部を率ひて舊巣を捨てゝ他に巣を造る。之を分封と云ふ。分封は通常夏期花蜜の流滿する時に行はるゝもので年に一回を普通となす。

蜜蜂の利用

○蜂蜜　不冷不燥、得中和之氣、故十二臟腑之病罔不宜之、但不可多食、蜂采無毒之花釀以小便而成蜜、其功五、清熱補中解毒潤燥止痛……本草綱目

△心腹の邪氣を治し氣を益し不足を補ひ、脾胃を養ひ目の翳隙を去り、赤白痢を治し、氣血を和し、三焦を通ずると言はれて居る。

滋養强壯

△蜂蜜は滋養强壯劑、咳止、緩和劑となる。

△心腹痛及び赤白痢に向づて白蜜を姜汁に和して服してよい。

△腎臟炎、糖尿病にも可適する。

△三拾年以來の風癲を治するに白蜜一斤、生姜汁二斤を銅鍋の中に拌ぜ、微火を以て煎じ白蜜一斤の重さに煉りつめ、朝晝夕の三度に棗大の一丸づゝ溫酒にて服する。生冷の物、醋麪、臭物、魚鳥を忌む。其功如神と云へり。

百日咳の藥

△百日咳には蜂蜜に海人草の煎汁を加へ服してよし。

風邪の藥

△風邪には蜂蜜に大根卸しを加へ、熱湯をさして溫服し、蒲團を被り臥褥すれば大に發汗して解熱する。

腸加答兒用

△蜂蜜は夏期の腸加答兒に効あり。想ひ起す、今より四拾四五年前記者の石槌山に採集登山を試みた時九死に一生を得たりし事を。

絲虫の藥

△絲蟲を下すには蜂蜜二拾匁、南瓜種子拾匁をよくすりて乳劑となし、二回に之を分服する。

△そばかすをとるには桃の花と冬瓜の種子とをよくすり、蜜で練つて塗布して効がある。

痘疹の藥

△痘疹の癢く或はかたまりに成つたものに蜜を湯に和し、羽にて刷けば癒えて痕もきゆると傳へ來れり。

△口唇の荒れた時、或は火傷を爲した時などには蜂蜜をぬりつけてよろし。

濕疹の藥

△濕疹には蜜貳拾瓦、亞鉛華壹瓦を和し練つて塗布して効がある。所謂いんきんだむしに効く。

橫產逆產の時

△橫產逆產には蜜と胡麻油と等分に合せ、溫服せしむれば忽にして効ありと云ひ傳へ來れり。

△狂犬病、蝮その他毒蟲の害を被つた時にも蜂蜜常用家は發病せぬと云へり。

浣腸用

△蜂蜜は含嗽用ともなすべく又口腔內の潰瘍に塗りても効がある。

△醫師ば浣腸用に半乃至一食匙を注入して時にグリセリンの代用となす。張景仲が蜜道煎を穀道に刺入れて燥ける大便を通利せしむと云へるに正に一致する。

緩下劑

△普通の蜂蜜は藥用として獸醫の應用するものなるが、精製の蜂蜜は人体の榮養を佳良ならしめ、心腹の機能を良くする爲めに一回貳拾瓦乃至三拾瓦を用ひてよし。

△緩下劑の目的としては一回五拾瓦乃至一〇〇〇瓦を單味若くは飲料に加味して與へる。

肩凝を去る

△肩の凝るには蜜蜂の幼虫を揺り潰して局部に塗り、上に紙を貼りおいて宜しい。

△或云ふ松脂十匁、蜂蜜五匁、豚脂二拾匁を文火にかけてよく煉り交ぜ貼つてよろしい。

此膏藥は肩凝りのみならず凡て底痛みする處に用ひてよろしい。

△傴痲質斯には職蜂にその患部を刺さしむれば治することあり。

遺尿、頻尿

△小兒の遺尿や老人の尿通頻繁なる時にも蜂蜜が効ありと云ふ。

△婦人血の道に蜜蜂の黑燒粉を服せしむ。

舌の荒れた時

△舌の荒れた時には蜂蜜を單味之を塗布するか或は硼砂を加へ用ひて効がある。

蜂に刺された時

△蜂にさゝれた時には澁柿と砂糖を煉り合せて塗るか、又は蜂蜜をつけてもよろしく、自分の尿水をつけてもよろしい。

禁忌

（禁忌）古來左の民間傳説あり。

△蜜を多く食すれば濕熱、蚘蟲を生ず。

△小兒には最忌む。

△七月（今の八月）生蜜を食すれば霍亂瀉下する。

△色青く、或は赤くなつて味の酸き蜜は心を煩はしむ。

蜂蜜の食品

△生葱、萵苣（チサ）と同食すれば下痢する。

△鮒と同食すれば頓死することあり。

編者曰ふ。傳説には信ずべきものと信ずべからざるものとあり。蜂蜜の如きも盛夏のものは酸敗せる者多く、又その或は青く或は赤くして味の酸いのは何れも腐敗に傾けるものなれば、霍亂心煩へしむる事は當然である。

蜂蜜の化粧用

○蜂蜜の用は固より非常に大い。試に思へ歐米の眞似をする人々は朝夕は麵包と蜂蜜のものあり。或は蜜湯、蜜レモン水、蜜珈琲、蜜レモン酒、蜂蜜葡萄酒の如き、佳香と甘味とを有し、頗優良の飲料物たり。之を醱酵せしめたる者は泡を吹きて舌端の清凉を感ぜしむる。

尙食料品として蜜菓子、蜜チョコレート、生姜蜜、蜜羊羹、蜜もなか等幾多の製造に用ひられて居る。

この餘、化粧料としては蜜石鹼、蜜煉齒磨、塗布料、洗料、クリーム等總べて蜂蜜は人体の皮膚を軟美にするの効ありと云ふ。

蜂蠟　一に蜜蠟と呼ぶ。蜜蠟は蜂がその腹部より分泌したる巢の蠟である。蜂蜜採取の際殘留ぜる蜂巢に熱湯を加へて壓搾した粗製蠟を再び溶融せしめた者は之を黃蠟と云ふ。漂白

したものは白蠟（他種の蠟と混同してはならぬ）である。黄蠟は高位脂肪酸と高位アルコールとのエステルより成り、かの植物性の蠟、パラフイン等に比して微妙なる優秀點を備へて居る。

蜜蠟の用

用途頗廣く、鑄物原型、彫像、製版を始とし、鋳止料、洗濯物艶出用、その他藥用及び食料品の料に使用するには一切蜂蠟を佳とし、軟膏、硬膏、發泡劑、又丸藥殊にバルサム油類揮發性エキスなどを含むもの、及び固結性賦型藥として使用する等枚擧に暇あらず。

△出血性下痢に一回の量一乃至二瓦を内服せしむる。

△蜜蠟甘微溫無毒。主下痢膿血、補中續絶陽、金瘡、益氣不饑耐老……本草綱目

△和松脂杏仁棗肉伏苓等分合成食後服五拾丸便不飢。

△白蠟療人洩澁後重、見白膿、補絶陽、利小兒久服輕身不饑……別錄

△孕婦胎動下血不絶欲死、以鷄子大煎三五沸投美酒半升服立瘥。又主白髮鑷去消蠟點孔中即生黑者……甄權

仲景調氣飲

△仲景調氣飲　治赤白痢小腹痛不可忍下重、或面青手足俱變者用黄蠟三錢阿膠三錢同溶化入黄連末五錢攪勻分三次熱服神妙……金匱

千金膠蠟湯

△千金膠蠟湯　治熱瘡及婦人産後下痢用蠟一碁子大阿膠二錢當歸二錢半黄連三錢黄蘗一錢阿廩末半升水三鍾煮米至一升去米入藥煎至一鍾溫服神效……千金方

代指の藥

△代指（ユビヤミ）疼痛　以蠟松膠相和火炙箍指即瘥。

心痛藥

△急心疼痛　用黄蠟燈上燒化丸芡子大百草霜爲衣、井水下三丸。

△破傷風濕　如瘥者以黄蠟一塊熱酒化開服立效。與玉眞散應用尤妙……瑞竹堂方。

犬咬の藥

△狐尿刺人　腫痛用熱蠟着瘡並烟熏之冷汁出即癒……肘後方。

蛇螫の藥

△犬咬瘡發　以蠟炙溶灌入瘡中……葛氏方。

火傷藥

△蛇毒螫傷　以竹筒合瘡上溶蠟灌之効……徐玉方。

傷瘡の藥

△湯火傷瘡　煽赤疼痛毒腐成膿、用此拔熱毒入黄蠟攪化放冷攤帛貼之神效……醫林集要。

△臁脛爛瘡　用桃柳槐椿楝五枝、用荆芥煎湯洗拭淨以生黄蠟攤油紙上隨瘡大小貼十層以帛栓定三日一洗除去一層不用一日痊癒……同上。

霍亂の藥

△妊娠胎漏　黄蠟一兩、老酒一椀溶化熱服頃刻即止。

△呃逆不止　黄蠟燒烟熏二三次即止……醫方摘要。

△霍亂吐痢　蠟一彈丸熱酒一升化服即止……肘後方。

△諸般瘡毒　膝瘡金瘡湯火等瘡用黄蠟一兩、香油二兩、黄丹半兩同化開頓冷瓶收(ノキス)攤貼……王仲勉經驗。

魚の目、

△魚の目には蜂巣の中なる白い蜂の子をとり、それをつぶして塗りつける。

△肩の凝には松脂十匁、蜂蜜五匁、豚脂貳十匁を文火にかけてよく練り合せて貼る。すべて底痛みする局所に用ひてよろし。

くまばち科　Xylocopidae

何れも蜜蜂に似たれど更に肥大せる大形の蜂にして、或は体に黑色の毛を蒙り或は胸部に橙黄色などの毛を蒙る。晝間花に來りて蜜、花粉等を食し又巣中の兒を育てる。くまばち、はねあかくまばちの如し。

くまばち　Hylocopa appendiculata cirumvolans Smith

マルクマバチ　大工蜂

全体黑色の短大種にして、胸部は黄色の長毛にて被はる。体長七分許。前頭に暗色の軟毛を密生し、觸角は割合に細い。腹部短大にして尾端圓く、各節に黑色及び點刻を裝ふ。脚は淡褐色にして光線反射の工合によつて黑紫色に見ゆ。翅は紫藍色にて脈は黑褐色で、一名大工蜂と稱せらる。雌は柔く成つた枯れた樹幹、樹枝に墜道を穿ちて巣を造り、墜道内には木屑を固めて幾つかの壁を作つて幼蟲室を區劃し、各室には花粉と花蜜とより成つた幼虫の食物を貯へる。成虫は五月上旬より出現し、六月上旬に營巣を始め、幼虫は九月下旬に成虫となり其儘越冬する。營巣の母樹は一定することなきも成虫は屢々藤、菜豆(インゲンマメ)、葛、梧桐(アラギリ)、木芙蓉(フヨウ)、令法、柿、溲疏等の花に飛來するのを見る。

催乳

△幼虫を燒いて醬油をつけ或は黑すゞめ蜂に準じて食用に供する。榮養の効あるを以て婦人の催乳用にもなる。

△痔疾に幼虫をつぶして坐藥となす。

胡蜂科、きいろすゞめばち

△肺結核、その他の解熱劑として蜂の子を藥用となす。

胡蜂科（スズメバチ） Vespidae

觸角は膝狀。複眼は腎臟形。猛毒ある產卵管を有する。多くは社會組織を成し、成虫はけむし、いもむし等を捕へ食し、又一方果實を食するものもある。

きいろすゞめばち Vespa auraria Smith

雌。体は黑褐色にして黃褐色の斑紋あり。頭楯、上顎、觸角上の中央及左右の大斑、觸角柄節の前面、後頭より兩頰に至る帶斑、前胸背の一部、肩板、中胸小楯板上の一對の圓紋、後胸背板の一對の線紋、腹部背板及腹板各節の後緣にある廣帶、第一背板の前方にある橫帶脚の腿節端、脛節及跗節等は黃褐色。腹背の黃帶には左右に不判明なる濃褐色部がある。翅は黃褐色を帶び前緣黑く、翅脈は黑褐色乃至濃黃褐色。体面に長短の毛を密生し、多く黃褐色なるも頭部と胸部との背面には褐色毛を混ず。体長七八分。職蜂は稍小い。本州、四國、九州、朝鮮、臺灣に產じ、支那及び印度にも分布する。巢は樹枝又は人家の檐下等に造らるゝを常とす。春季に越冬せる一匹の雌が巢を作り始めるが、巢は周圍に圓壁を有し、中に蓮房狀の巢が數層相重りて下垂して居り、各房中に一つの仔蟲を飼育する。最初に生れた者は雌性にして生殖せざる職蜂なるが、秋季には雌雄の性別を生じ、巢を出でて交尾し、その交尾したる雌のみ殘つてその他のものは總べて死滅する。巢も亦一年限である。成虫は花蜜を嘗めるが種子や昆虫を捕食し果實をも食ふ。巢の材料は樹皮等である。

すゞめばち Vespa mandarina Smith

オホスゞメバチ　ヤマバチ　クマバチ（同名アリ）

雌の頭部は黃赤褐色にして單眼の附近及び上顎先端の大部分は黑褐色。觸角は黑褐色にして柄節の前面に赤褐色の斑あり。胸部は黑褐色の軟毛を裝ひ、後方に四の黃褐紋を存する。腹部は背板、腹板共に各節の後緣に黃褐色の帶斑を有し、尾節には殆ど全部に及び、第一第二背板にては中央に同色の橫帶がある。翅は褐色にして前緣濃く、翅脈は黑褐色乃至暗赤褐色。頭に褐色又は黃褐色の細毛を密生し、表面は褐色を帶ぶ。後頭及び胸部には褐色、腹部には黃褐色の長毛を粗生する。体長一寸三分。職蜂は長八九分ある。本種は最大種にして

吾邦及び支那に分布し、樹木の空洞等に大形の巣を造る。休形略紡錘形にして肥大し、短大なる觸角と複眼とを有し、大顎は強大にして咬む力強く、毒針も亦發達して刺力強く、此蜂に刺されると幼兒は死ぬことがある。屢蜜蜂を襲ふ事もある。右二種の外、尙すゞめばちの名を有するもの數種あり。

露蜂房

露蜂房　雀蜂類の巣を露蜂房と稱し、又金房、蜂臈、蜂勦、百穿、此金砂等の異名が多い。通常球形又は楕圓形にして其大形の者は警鐘大のものがある。巣の外面は茶褐色と黑褐色の旋回せる斑紋を存するが、外圍を破れば中に六角形をなせる無數の小房の並んで傘狀を成せるものか數層相重疊して居る。

○雀蜂は其幼虫、蛹共に之を燒き、煮若くは生の儘之を食ふものあり。詳くは下文黑雀蜂の條下の記事を參照せよ。

輕身益氣

△蜂の子は心痛腹滿、痛乾嘔を治し身を輕くし氣を益す……別錄。

△幼虫成虫とも脂肪分に富むを以て一般に食して强壯劑となる。

痔疾、魚目

△痔疾には幼虫をつぶして坐藥となし、又同樣にして魚の目に塗る。

皮膚病に塗る

△又皺、霜燒、脂粉等にもつぶして之をぬる。

肺、百日咳用

△肺病藥、百日咳、發汗劑には蜂の子の鹽漬を藥用とする。

△露蜂房を藥用に供するには屋外にて雨露に晒された者を用ひるをよしとする。これ露蜂房の稱ある所以である。されど今日民間に販賣するものの中には、他の蜂の巣をも混じて居る。

△露蜂房　主治蟲牙痛喉痺及舌血吐血衄血二便不通者（草蜂巣入藥爲勝）……和漢三才圖會。

陰干にして一夜酒に浸し、能く洗つて焙る。李時珍、凡使草蜂窩、以鴉豆枕、同拌蒸從巳至未、時出鴉豆枕了晒乾用。要乾姜丹參黃芩芍藥牡蠣矣と云ふ。

飛火の藥

△飛火とて小兒の頭や顏などに水を含んだ米粒大の腫物、即小兒の頭瘡の出來た時には蜂巣の黑燒粉を胡麻油に溶いて塗る。

疣の藥

△疣には蜂巣黑燒、大黃、おとぎりさう、酢漿草の四味等分、米の酢のりにのべて、細にすり合せてつけてよろし。

火傷用

△火傷には蜂巣を黑燒となし胡麻油にてつけてよろし。

催乳用

△乳の不足する時には細粉となし、溫湯にて服してよろし。成人一回の量通常貳瓦乃至三

瓦なり。或云ふ黒燒となし甘酒にて飲み下せば頗妙なりと。

齒痛藥

△齒痛には蜂巣を水煎し微溫の中に口中にふくみてよし。

△或云ふ。燒明礬壹兩を灰に燒き、大露蜂房少し炙り、同じく一兩を末となし二匁づゝ合せ、水煎して口中に含み涎を吐出して宜しと。

喉痺の藥

△喉痺には蜂房、白蠶等粉末となし、毎日乳香湯にて半匁づゝ服す。又灰に燒いて壹匁づゝ喉内に吹き入れてよろし。大人小兒共に用ひる。

△重舌にて腫れ痛むには蜂房を炙り、研つて酒に和し、毎日三四回づゝつくれば妙効がある。

淋病の藥

△中耳炎にも蜂巣を煎服して可なりと云ふ。

△淋病には蜂巣八匁に干姜を加へて煎服する。

痔藥

△又蜂蜜拾匁、夏枯草拾匁、甘草少許を和せ、適當の水に煎じて毎日二回許り茶碗に一杯づゝ服用する。

小兒咳止

△痔疾には蜂蜜、蟬蛻等分に合せ、黒燒となし胡麻油にて練つて塗る。

搐搦用

△下痢止には鹽漬とした者を煎服する。

瘙痒癮疹の藥

△露蜂房を煎服すれば咳止めとなる。殊に初生兒の强直病、搐搦乃至癲癇と稱するものに効があり、又大人の陰萎にもよろし。

△露蜂房は陽明の藥なり。外科、齒科及び他病に用ひるのも亦皆其毒を以て蟲を殺すの功を採ると云へり。

△亂髮、蛇皮を合せ燒いて灰となし、日に二回方寸匕を服せば惡疽附骨を治し、癰根臓腑にあつて歴節腫出疔惡脈諸毒皆瘥ゆと云へり。

△風氣瘙痒及び癮疹には蜂房を炙り蟬蛻等分末となし合せて壹匁づゝ日に三回、酒にて服してよし。

△風熱牙腫れて顏面に連るには蜂房を性を存じて炒り、末となし酒少許を以て調へ、これで含嗽してよし。

くろすゞめばち　Vespa japonica Sauss

ヂバチ　スガレ

くろすゞめばち

体長雌は六分餘。職蜂は四分許。普通の地蜂にて体黒色にして、灰色の細短毛を具へて居

る。頭部は三角形額片は黄色にして中央に黒い縦紋がある。複眼間に三個の黄色紋を存し、複眼の後方、前胸背の後縁、側面の一紋、稜狀の二横條は何れも黄色である。翅は透明にして灰色を帶び、翅脈は黄褐色である。体に毛多く、頭部と胸部にては長く且つ密にして背面の毛は黒褐色、下面は淡い。腹部各節の後縁は黄色である。脚は黄白色なるも腿節の大半は黒く、脛節も黒斑を裝ふて居る。雄は雌と同樣の色彩であるがやゝ小形で觸角は長い。

此種は吾邦内の全部より朝鮮、滿洲、ウスリー地方にも分布する。越冬した雌蜂は四月下旬乃至五月上旬頃から出現し、地下一尺餘の處に巣を有し・その入口に地中の土砂を運び出した跡がある。場所は草原雜木林の特に西南に面したる乾燥の暖い傾斜地を好み、巣の多くは木や草の根に着いて懸垂して居て、普通六七階なれども時には拾二三階の巣盤より成れるものがある。雌蜂は晩春より營巣を始めるが、巣の色は大体落葉松林中のものは灰白色、赤松林中のものは褐色、杉林中のものは黒色なりと云ふ。

受精した雌蜂は晩秋に山野の大木の腐朽した空洞中或は樹幹の蘚苔の中や落葉中等に潛伏して越冬する。

巣取りの專門家

信州地方にては巣取りの專門家があつて、蜂の通過する途中の場所に他の幼虫類又は小肉片などを絲端に結ひ、他端に目につき易いしるしを付けて之を置く時は蜂は餌を啖へて歸巣する故にその擧動に注意しておき、九月より十月に亘つて跡を尋ねて巣の位置を確認するのである。蜂の餌は雙翅類、鱗翅類の幼虫、成虫、蜻蛉類、いなご、ばつたの類或は死せる蛙等なるが、蛇の肉や花密や果汁等もその食物である。

蜜蜂、雀蜂、黒雀蜂及び熊蜂の類は世間皆之を食ふ。殊に山間の國々に於ては最然りである。而して各地にて土蜂、地蜂、赤蜂、熊蜂などと稱する者の中には種々の品種を混同して居るし、且つ皆混食して居るものゝ如し。されば逐一その品種の名を詳記するに苦むと雖、各種の蜂は恐くは概ね食用に供し得るものなるべし。たゞ往々其成虫を食せざる所あるも、前記の如く海に遠い地方にては自然に魚貝等の肉に飽く事なきを以て、成虫幼虫の區別なく各種の蜂を捕食するが、就中黒雀蜂を最利用するものゝ如くである。

蜂の子飯

○札幌邊にては米に混じ、調味料を加へて普通牛雞の肉類にて爲すが如く、炊いで蜂の子飯を作る。

强壯劑

○その他各地にて或は之を食用に供し或は之を强壯劑又は痔藥等と稱して食する。吾名古屋に程近き地方即ち岐阜縣、長野縣の如きがその例である。

○岐阜縣にてはその簡單なる場合では生の儘之を食し、或は醬油をつけて之を燒き炙つて食ふ。その東濃地方にては甘煮となし、鮨のごとなし、或は飯に混じ時には珍客にも之を供する。斯くて可兒郡伏見町邊にては之を罐詰となして販賣する。成虫、幼虫、蛹の何れも使用するけれども、一般には幼虫と蛹とを愛用して居る。而してその資料は多く自然産のものを捕へ用ひるのである。

○次に長野縣にては之を土蜂と稱し、巣を見出して幼虫を捕へ、多少成虫をも混じて砂糖煮となし或は蜂子飯とするが、風味頗佳なり。上下伊奈郡等にては罐詰となして他の府縣へ販賣して居る。

されば食法は或は燒き或は煎り或は煮て用ひるが、等しく燒くにしても單に醬油にて附燒となす所もあり。醬油に砂糖を加へて食するもあり。更に味淋を加へて調理する場合もあり又蝗を食用とする時の如くに煎つて之を飯に交ぜ、蜂の子飯となす事もあり。又單に塩を用ひて煎るもあり。甚しきは生の儘食用する場合もある。岐阜、長野、石川、岡山、廣島諸縣の如し。併しこれは稀なる所なるが、更に稀なるは廣島縣の如くに幼虫を揺り潰し、白木綿にて濾し、これに水と醬油を加味して煮て食ふ所もあり。概して言へば古來蜂の子等を盛に

食用に供する地方は前述せし如く多くは山間部であつて、海岸の市民、村民の如きは魚貝の豊富なるに惠まれ居る故に單に試食する者あるも、餘り多くは之を用ひず。予の知れる所にては前陳せし岐阜、長野の如き地方では大抵黒雀蜂を使用する。而して其子と稱するものは幼虫の他に蛹をも併せて用ひ居り、更に多少の成虫をも混じ居るのである。斯る山間にては生にて食するものあれど、大抵は醬油をつけて用ひ、串刺にして燒くか或は炮烙にて煎り或は砂糖煮となし、若くは蜂の子飯に炊くのであるが、實際調理によつては仲々美味である。吾愛知縣にて三河部の山間にては好んで之を食用となし、旅館等にても客に之を供する事あり。何れも脂肪、蛋白質に富み、所謂ヴイタミンを含有するを以て今日の如き時局には尚更之を貴重なる食品として用ふべきものである。

きぼしあしながばち　Polistes mandarinus Sauss

雌。体黒色。觸角は赤褐色にてその第二鞭節以下の上面は黒色。上顎、頰、後頭、顏面下部は赤褐色。頭楯は黄褐色にして心臓形。胸部に點刻を散布す。前胸の一横線並に後緣、肩板下方の一紋、後胸背板上の二紋、前伸腹節の二紋は黄褐色。前胸背板の上半、肩板及び小

楯板は赤褐色。前伸腹節に多數の横皺がある。翅は赤褐色にて前翅は靜止の際には疊まる。脚は赤褐色にて基節、轉節並に腿節の下面及び跗節の側面に二個の黄紋がある。本州及び九州の山地に普通にして支那にも産する。此種の幼虫は頭部の色彩の美麗なるにより容易に他種と區別せられる。

ふたもんあしながばち　Polystes antennalis Perez

雌は体長五六分。黑色。觸角は黄褐色にて柄節、梗節及び第一鞭節の基部上面は黑色。上顎、頰、頭楯、複眼内方の三角紋、顏面の一横線及び複眼の後縁に沿へる細き線は黄色。頭楯は心臟形にてその中央を一黑帶横切れり。胸部に極めて淺き點刻があり。前胸の一横線並に後縁、肩板、その下方の一紋は黄色。中胸側板は縫合線によつて四板に區劃せらる。前伸腹節に横皺が多い。翅は赤褐色にて前翅は靜止の際に疊まる。脚は黄褐色にて基節、轉節及び腿節の上半は黑色。腹部は紡錘狀にて各節の後縁は黄色。而して第一、第二節上に二個の横紋を有し、第二節以下の黄帶は兩側中央にて少しく刳られる。本州、四國、九州等に産する。

せぐろあしながばち　Polistes fadwigae Dallatorre

雌。体長七分五六厘。黑色。觸角は赤褐色にて柄節上面は黑色。大顎、頭楯、頰、後頭、複眼と觸角基部との間及び頭頂の二紋は黄褐色。胸部に點刻を散布する。前胸の一横線並に後縁、中胸背板中央の二縱線、外方の二紋、肩板、その一方の一紋、小楯板及び後胸背板の周圍は廣褐色であり。中胸背板外側の二紋は屢々之を缺く。前胸背板の上半は赤褐色。中胸側板は縫合線により四板に區劃せらる。前伸腹節に横皺が多い。翅は赤褐色にて前翅は靜止の際に縱に疊まる。脚は黄褐色にて基節、轉節、腿節並に後脛節の大半は黑色、前中脛節並に後第一跗節の外面は暗褐色を帶ぶ。腹部は大く、紡錘形にて各節の後縁は黄褐色である。但し第二節以下の黄褐色帶は兩側にて弓狀に刳らる。各節の中央より短き黑き縱線上に出づる。本州、四國、對馬等に産する最普通種にて、人家の檐下等に巣を作る。

こあしながばち　Polistes snelleni Saussure

雌。体長四分四五厘。黑色。觸角は茶褐色にて上面は黑毛、柄節は細長くして丁度第一、

第二鞭節の合計せる長あり。大顎、頰は赤褐色。頭楯及ひ複眼の後緣に沿へる細長い線は黃色。頭楯は心臟形。胸部には點刻を散布する。前胸の一横線並に後緣、小楯板並に後胸背板上の二紋と前伸腹節上の二紋は黃色。前胸背板の上緣に沿へる部分、肩板及び小楯板は赤褐色。前伸腹節に横皺が多い。翅は赤褐色にて前翅は靜止の際縱に疊まる。脚は赤褐色にてその基節、轉節並に腿節の下面及び第二跗節以下は黑色。腹部は紡錘形で各節の後緣は赤褐色で、その第一節三、第四節後緣の赤帶上の中央にて連接せる二紋は黃色である。此種は本州、九州の山地に普通に產ず。巢は支柱がその片端にありて巢が著しく背方に彎曲するので他種のものと直に區別し得らるゝ。

きあしながばち　Polistes jokohamae Radoszkowshi

雌。体長八分許。黑色。觸角は赤褐色にて先端を除く上面は黑色。上顎、頭楯、頰、後頭、觸角基部の間を除く顏面、頭頂の二紋は黃褐色。胸部に點刻あり。前胸の背部後緣、中胸背板中央の二縱線、前伸腹節の二縱線、側面の一紋は黃褐色なり。前伸腹節に横皺が多い。翅は赤褐色にて前翅は靜止の際に疊まれる。脚は黃褐色にて、基節、腿節並に中後兩脚の脛節上半及び第一跗節外面は黑色。腹部は紡錘形にて各節の後緣及び第一節の二紋は黃褐色、但し兩側にて第二節は弓狀に第三節以下の横帶は少しく刻られる。此種は本州、四國、九州等に產する。

○各種の足長蜂は時に足つるし蜂と稱し、吾邦各地にて食用に供する。多くは幼虫を用ひるが蛹も亦併せて使用せらる。食法は附燒、煮附又は蜂の子飯となすこと他類の蜂に於けるが如し。

△藥用としては小兒の疳藥、强壯劑を主とすれど、下痢止め又は聾の病にも用ひる所がある。

蜂の子飯
强壯劑

小繭蜂科　Bracomidae

觸角は絲狀又は鞭狀にして翅には鏡砲なく、緣紋は著明である。雌の產卵管は一般に長くて往々体長の數倍に達する。多くは小形の蜂にして他蟲の幼蟲に寄生するを以て益蟲に數へられる。

うまのをばち (Euurofracon penetraton Smith)

馬尾蜂

雌。体長七分。体は光澤ある飴色。觸角は黑色なり。翅は赤黃色を帶び、緣紋の先端部の一紋、基部の下方に横列する二紋及び後翅の中央の一紋は黑褐色である。而して兩翅とも外緣は廣く褐色帶をして居る。脚は大部分黃赤色にして後脚は赤褐色を帶ぶ。体は長楕圓形で第一、第二腹節の兩側に溝があり、産卵管赤褐色にして長さ五寸許。雄は体長六分位にして後翅の中央に斑紋がない。吾邦各地に産じ、ぼくとう蛾の幼蟲に寄生する。

△幼虫を捕へ燒いて疳藥、强壯劑等とする。

疳藥、强壯劑

甲蟲類 (Coreoptera)

鞘翅類とも云ふ。口には强靱なる大顎を具へて咀嚼するに適し、頭部に鞭狀、棍棒狀等各種の觸角を有し複眼を有するもの少い。頭と前胸は角質の硬皮を以て被はれ自在に動く。後胸は剛い翅鞘に保護せられて内部は軟く、前翅は硬皮厚くして後翅、胸部等を保護し、直接運動に關係することがない。靜止の際には腹部を背面上に左右の前翅を合せて中に柔軟なる後翅を隱くす。但し後翅は膜質にして軟く、飛翔運動に働く。變態は完全。此類甚だ多數にして全昆虫の半數に達すと云ふ。

天牛科 (Ceramycidae)

即かみきり蟲の類にして觸角は普通拾壹節より成り、比較的長い。体は細長くして硬强なり、複眼は普通腎臟形を呈する。

幼虫は即鐵砲虫にして植物体内に生育し、成虫も亦種々の植物を食害する。吾邦内約四百餘種を産する。

くはかみきり (Apriona rugicollis Chevrolat)

帶綠黃色の稍大形の甲虫である。体長一寸二三分内外。觸角は体より長く、柄節及び第二節は黑色にして小點を密布し、第三節及び末節は圓筒狀にして基半部に青灰色の毛を密生する。小楯板は黃褐。前胸背に顯著なる横皺刻を存し兩側に太き鋭齒を出せり。翅鞘は黃色に

くはかみきり

して短毛を以て被はれ、基部に黑色の顆粒を散布し、翅端は截斷ぜられて各二刺を具ふ。腹面は長い密毛にて被はれて天鵞絨狀を成す。脚には黃灰色の短毛を裝ひ、前脛節は內面に、中脛節は外面に褐色の毛塊を有する。此種は桑、柑橘類、無花果等の材部に喰ひ入つて孔道を穿ち、外部に小孔を開いてそこから蟲の糞を漏出する。老熟すれば孔道內にて蛹となり、更に成虫となつて外界に出づるに至る。雌は卵を產む際に枝幹を嚙んで傷を附ける。幼虫は乳白色、圓柱形にしてやゝ扁く、口部は暗褐色にて能く發達し、大顎は甚だ强靱である。胸部は大くして廣く、腹面の脚は退化して認め難い。成育期は貳個年を經過すると云ふ。

天牛類は一般農林業者よりは害虫と認めらゝも他方にはその幼虫は古來食用、醫用に供せられて居る。

○焙つて食すれば香味共に佳なるのみならず。頗滋養の効がある。食法はその儘又は串に刺して醬油附燒となし、或は佃煮となしてよろし。

△疳藥となし榮養不良を治す。

△煎服すれば肺患、百日咳乃至中風患者等に有効である。

△中風にも煎服して有効あり。

滋養品

病者の使用品

△桑蠹甘溫無毒。其糞能治幼兒胎癬、先以葱鹽湯洗淨用桑木蛙屑燒存性、入輕粉等分、油和敷之。凡小兒頭生瘡手爬處即延生謂之癪胎癬。……倭漢三才圖會。

しろすじかみきり　Batocera lineolata Cheurolat

体長一寸五分乃至二寸五分。背面は灰色乃至暗灰色。前胸、背、翅鞘には白色の斑紋を裝ひ、側面には頭部より腹部に亘つて白條を縱走せしむ。頭は垂直にして點刻せらる。觸角は黑色にて雄にては体長の一倍半、雌にても体長より長く、各節は圓筒狀にして末端太く、柄節及び第二節には點刻あり。第三及び末節には小なる棘狀突起を散布する。複眼は極めて太く暗紫色なり。前胸には兩側に大なる先端の鋭き突起を有する。翅鞘の基部に顆粒散在し、小楯板は白色である。幼虫は淡黃色にして蛆狀を呈し、主として楢、櫟、椎等の穀斗科植物及び枇杷、柳等の幹部に蠹入す。その蛹化する時には出口より奥まりたる所に入り、体の後方に咬屑を以て嚴重に孔を塞ぎ、以て敵に對する防備を充分にする。七八月頃成虫に化し、新しく穴を穿つて外界に出る。壽命

小兒の蟲藥　美味滋養品　小鳥の榮養劑

は六ケ月と云はれて居る。北海道の他、各地に產する。

△幼虫は桑の天牛と等く焙つて小兒の蟲藥となす。又癤腫に有効との說がある。

△此等の幼虫は脂肪と蛋白質とに富み、焙つて食すれば美味にして滋養の効あり。

△飼鳥家は小鳥の勢力を增さしむる爲めに焙つて之を食はしむ。

△本蟲は或は生食し或は滿燒となして之を食ひ、又火に炙つて貯へ置き、必要に應じ粉末となして使用する。

△長崎地方にては椎の虫、かしの虫等と稱へ、小兒の虫藥及びヂフテリア用、榮養不良用劑として之を使用する。

みやまかみきり　Mallambyx raddei Blessig

休長一寸三四分乃至一寸四五分の大形種なり。体は黑褐色にして淡黃褐色の短毛を密生する故に黃褐色に見える。頭は前方に斜出し正中線に深き縱溝がある。複眼は大くして黑い。觸角は頑丈にして黑褐色を呈し、雄にては体長の一倍半、雌にては殆ど等長である。その各節は末端太く、雌にては第六乃至第十節の末端は著しく外方に突出する。前胸は略々圓くして前緣に少しく狹縮し顯著なる横皺があり。翅鞘は後方に向つて微しく細まり、小點刻を裝ひ、翅端は大く、會合線上に小刺を成す。体下は短毛密生するも腹節の後緣は之を缺く。本種は多く山地に生じ、幼虫は栗樹を始め主として殼斗科植物内の幹部に穿孔して大害を爲す。成虫は七八月頃に出現し時々樹幹に靜止するを見るが、又屢々燈火に來ることがある。

△幼虫は咽喉に棘の立つた時、その搾汁を二三滴服用すれば不思議にその腫張を去ると云ふ。

おほあをかみきり　Chloridolum thaliodes Bates

休長八分乃至寸許。全体金屬性光澤ある暗綠色なり。觸角は体より長く、脚と共に黑藍色なり。頭は前頂にて傾斜し、點刻を裝ひ、正中線に深い縱溝を有する。觸角の柄節は太くして光澤を有し點刻せられ、基部に一の縱溝を具へ、末端外方に突出し、第二乃至末節に三個の縱溝あり。前背板は光澤及び縮刻に富み、兩側に大なは圓錐形の棘狀突起を具ふ。小楯板は正三角形にして暗色を帶び、翅鞘は細長く且つ後方に狹まり、點刻を密布し翅端は稍尖る。体下は美麗なる黑綠色にして黃灰色の短毛を生じ銀色の光澤あり。後脚は前二脚より遙

に長く、その後腿節は翅端に達する。柳、白楊等の材部を侵害する。

△よく痘瘡の變症を治するに用ひらる。

のこぎりかみきり　Prionus insularis Motschulsky

休長八分乃至一寸六分。黑褐色にしてやゝ扁平。頭部は前方に突出し、點刻に富み、正中線に縱溝を存す。觸角は十二節より成り、雄にては休長の三分の二を超え、雄にては各節の末端は突出して鋸齒狀をなす。雌にては遙に細くして且短い。複眼は大にして紫紅色を帶び前緣少しく凹む。前胸は短くして横長となり最光澤に富み、小點刻を疎布し、左右側に各三個の棘狀突起を有し、その中央の者最大い。小楯板は略五角形を呈し、翅鞘は點刻、縮刻及び背面に二縱隆起を裝ひ、翅端は會合線上に小刺を具ふ。胸節以下は黃褐色の毛を密生し、脚は太い。幼蟲は扁柏（ヒノキ）、杉、松等の如き針葉樹及び山毛欅（ブナ）、楡（ニレ）等の濶葉樹の枯死せる幹部に穿孔して生活し、七八月頃成虫は出現し夜間燈火に飛來する。非常に活潑な種類で飛翔の時も歩む時もキキキーと鋭き高音を發する。これは後脚の腿節と翅の緣との摩擦に依つて起る音である。

△此種及び他の天牛類の幼虫は一般に古來食用並に民間藥用に供せらる。

ごまだらかみきり

ホシカミキリ

休長八分乃至一寸貳分許。体は光澤ある漆黑色にして、腹面及び脚には藍灰色の短毛を密生する。頭は垂直にして小なる點刻を有し、正中線は溝狀を呈す。觸角頗長く、雄にては体長の二倍に近い。その柄節は先端に向つて太く。小なる點刻を有し、藍灰白色の毛を生じ、第二節以下の各節は圓筒形にして基部に各藍白色の毛を密生する。前背板は小點を疎刻し、中央部に大なる瘤狀突起を具へて、その兩側に藍灰白色の毛を生ずる。小楯板は白色翅鞘は基部に大なる顆粒を密布し、二つの縱隆起線を裝ひ、翅端は丸く、全面に拾數個の白點を散布し、その前緣のものは大い。脚は太く脛節は末端に近く黑色毛を密布する。本種は吾邦及び東部亞細亞に分布し、幼虫は桑、無花果、柑橘類、棟、柳、梨、枳殼の如き濶葉樹の材中に穿孔して大害を成し、成虫は六七八月頃出現して晝間飛び來り、しば〳〵樹幹等

に靜止するのを見る事あり、又夜間燈火にも來る極めて普通種である。

△捕つて來て醬油をつけ燒いて小兒の疳藥とする。又瘧疾及び疔腫や簇鏃の肉中にさゝつた時や或は痣腦を去る時等に用ひて効がある。

地膽科（ツチハンミヤウ） Meloidae

体は比較的柔軟であり、頭部の後方は急に狹くなつて頭狀を成し、前胸は翅鞘より幅狹く翅鞘は柔軟にして後翅を缺くものもあり。成虫は植物の花葉を食害する。体中にカンタリジンを含有するにより、成虫を乾燥して粉末となし以て皮膚を刺戟する目的の藥材に供する。

まめはんめう Epicauta gorhami Marseul

ヲンニャウジ（近江）　ヘムシ（伊賀）

体長五分乃至六分餘、幅一分五六厘。漢名葛上亭長。頭部は心臟形にして赤色乃至褐色を呈し、點刻を裝ひ、後頭は正中線に縱溝がある。觸角は黑色にして基部數節には赤色の部分があり。その第一節は長い倒圓錐形、第二節乃至第八節は雌雄其形を殊にし、雄にては甚しく擴大扁平となる。前背板は略卵形で點刻を密布し、中央に灰黃色の一縱條を具へ、翅鞘は點刻と黑褐毛を密布し、周緣及び中央の縱條は灰黃色を呈する。脚も黑色なるが灰黃色の縱條を裝ひ、腹面も黑色なるが腹部數環節の後緣は亦灰黃色の帶を有して居る。成虫は八月九月に亘つて群を成して發生し、好んで大豆の葉に集り葉脈を殘して網目狀となすのみならず又雜食性にして茄、萵苣等の作物を食害する。北海道を除いて吾邦各地に產じ、幼虫は花蜂の巢に寄生する。

本虫を漢名葛上亭長と呼ぶ所以は其頭部赤く、体軀黑色にして大豆又は葛の葉等に群生し居る狀が恰も支那にて十里毎に一亭（一驛）を設け、其亭長なる者が黑衣を着け、赤帽を冠むるの狀と宛然同一なるより其稱を得たとの事である。

此蟲を驅除せんには除蟲菊石鹼が最よく、次で硫酸ニコチン石鹼液も亦適すると云ふ。

△本種及び此種に類する昆虫は、体内にカンタリヂンと稱する强烈なる物質を含んで居り、不快の劇臭と灼くが如き苛烈なる味とを有し、その粉末乃至其液を皮膚に觸れしむれば局部に漿痛を起して赤色を呈し、終に水泡を生ずる。而して其含有量は歐洲にて用ひる芫菁(Lytta vesicatoria Fab)に比して頗多く、二%以上に達すると云ふ。藥用にはカンタリスと

して用ひる。これを乾燥したもので、〇・四乃至一・〇%以上のカンタリヂンを含む。

△抑カンタリヂンは一種の無水酸にして、内服すれば腸胃の粘膜を刺戟し、吸收せらるれば中樞神經を刺戟し、その排泄せらるゝに際して胃腸、膀胱、尿道等に炎症を起さしめる。

△されば之を皮膚に塗れば引赤發泡の作用をなし、内服すれば利尿劑となる他に、尙陰痿生毛等の目的に効ある事は衆人の知る所である。

△癬には碎いて醋にて傳くれば、甚しく腫れ痛み、水出でゝ癒後皮を脱すること兩三度する……重訂本草啓蒙。

△頑癬久しく治せざるものに此虫の粉末を鹽梅て練り混ぜ紙にのべて貼れば効がある。

△禿頭病にも此虫を捕へ、羽と足とをとり去り、擂り潰して飯粒と練り合せ局部へ貼れば二三回にて發毛することあり。

△狂犬に咬まれた時には羽と足とをとり棄て、すりつぶして饂飩粉にて練り、布片に展べて貼つてよろしい。黑く燒き粉末となして飲む人もあれど素人は濫用してはならぬ。

△眼に疣の出來た時には大豆蟲（マメムシ）を黑燒となし胡麻油にて練り、目疣の尖に引刀して此藥をつけてよろしい……眼目明鑑。

カンタリヂン
引赤發泡用
陰痿生毛用
頑癬藥
禿頭病
眼疣の時

斑蝥（ハンメウ）科　Cicindeliae

觸角拾一節より成り鞭狀をして居る。大顎に三鋭齒あり。小顎は二葉に分れず、その末端に可動の一鉤を具へ、小顎鬚は二個あつて内側の者は二節、外側のものは四節より成る。脚は延長して歩行に適し、跗節は五節より成つて細長い。腹部は六節にして初の三節は癒着して動かぬ。普通砂地に多く、路傍に圓柱形の深い巣を造り、其口に在つて他虫の來るを待ちて之を捕食する。

はんめう　Cicindela chinensis De Geer

ミチシルベ　ミチヲシエ　斑蝥　斑猫

体長六分乃至六分六厘許。極めて美麗種あつて、金綠色と紫色とを相混有し、光線の工合によつて多少彩色を異にする。觸角の基部四節は金綠色又は紫藍色で光澤を存し、第五節以下は黑色で、白色の細毛を密生する。翅鞘の翅底に近い一の圓紋と翅端に近い一紋とは紫色で、その他の紋は白い。大顎の外側は黃白色。上唇も黃白色で前緣は黑色で數個の鋸齒を帶

び中央に黑色の縱隆起を存する。幼虫は地面に深い孔を穿つてその中に棲息する。世人之をしやちほこむしと呼ぶ。成虫と共に食肉性である。成虫は山地の小徑等に多く行人近づけば忽ち低く地上を飛んで數尺の處に至り、地面に止る。人更に往けば虫も亦飛び少しく行つて又止る。その人に先立ちて行くの狀恰も行人の途案内を爲すものゝ如くである。よつて其名がある。吾邦及び支那、朝鮮にも產する。

△時珍曰斑猫、芫菁、亭長、地膽は大毒。靛汁、黃連、黑豆、葱、茶、皆能解之。

△疥癬惡瘡につけて良し。內に向つて水道を利し、石淋を破り瘰癧、疔腫を拔く。又猘犬(狂犬)の毒、輕粉の毒を解し肉を潰やし、胎を墜す。

△生にて用ひれば人をして吐瀉せしむ。頭足をとり去り、糯米の泔水に浸し或は米と共に炊つて後に其米を去り之を用ひる。之を氣をとつて質をとらぬと云ふのである。

△癰疽の破れざるには斑蝥を末とし蒜を以て搗いて膏となし、水に和して之を貼る。少頃して膿出づれば即ち藥を去る……直指。

△疔腫拔根には一枚捻破し、鍼を以て瘡上を縱橫に劃し、之を封すれば即ち出根也……外臺。

疔腫拔根

癬の藥

△積年の癬瘡に斑蝥半兩を用ひ微炒爲末、密調傅之……同上。

△疣痣黑子には斑蝥三個、人言少許、以糯米五錢、炒黃去米炒入蒜一個搗爛點之。

△妊娠胎死には斑蝥一枚燒研水服即下……廣利方。

通經丸

△通經丸。斑蝥二拾個、糯米炒大豆五錢、桃仁四拾九個、右末、酒糊丸空心下、並乾血氣を治す。血枯經閉四物湯送下。

斑鷄丸

△斑鷄丸。斑蝥一兩、薄荷四兩を末となし卵白を以て和して丸じ、空心に茶淸下すれば瘰癧多年瘥えざりしを治す。

救生散

△救生散。治猘犬毒。斑蝥七枚、杭粉一錢面胡粉と云ふものなり。右二味研水空心溫酒服、一時許小便出血白脂、此惡物也。或便痛煎甘草湯飲之。目利若未盡次早再服、以小便淸白爲度……諸家奇方。

螢科 Telephoridae

觸角拾節乃至拾壹節より成り、大顎は短い。前中兩肢の基節は圓柱形を成し、後基節は橫置せられ互に相近接し、其內方に圓錐形の突起あり。脛節の四節なることあり。腹部は六節

乃至七節にして皆自由に動く。幼虫は小形の虫類を捕食するを以て、農家を裨益するもの多い。中には小形の貝類を食するものもある。

へいけぼたる

ヌカボタル

Luciola lateralis Motschulsky

体長二分三厘乃至三分三厘。体は黑色前胸背は桃色にてその中央は縱に黑褐色となつて殘り、左右より蝕して丁度凹面レンズの形を成す。頭部は前胸下に隱れ、複眼は大にして其中間に小點刻を密布する。觸角は絲狀。前背板は横矩形、兩側は前方に狹り、後緣角は突出する。小楯板は大形の長三角形、全面小點刻が密布する。各翅鞘は四條の縱隆を有するも內方の二條の他は判明せぬ。雄の腹節の最後の二節は黃白色を呈し末節の後緣は突出するも雌には最後の二節の內前節は黃白色にて後節は赤色を帶び、その後緣は截斷せられその端は黑色である。此種は吾邦到る處に產じ、六月の中頃より九月の中頃まで水田や池の附近に出現する。その幼虫は卷貝類を食して生活する。本住血吸虫の病源中間宿主として知られたる宮入貝を食する故に益虫と認めらる。此種の發光は青味を帶び、明滅の回數も源氏螢より多い。

螢を一疋捕へて光る部分を驗するに透き通る樣なる皮膚の下に黃白色の發光層（脂肪体）と其光を反射する反射層とより成る。發光層は粒々した小き細胞より成るが。そこに小き澤山の管が一杯に通つて居て酸素が充分與へらるゝ樣に成り。反射層は乳白色を呈し光を外の方へ押し出す裝置と成し居り、螢の氣門より空氣を吸ひ入れて發光層へ送る每にピカリ〳〵と光るものゝ如くである。

げんじぼたる

ウシボタル　ヤマブキボタル

Luciola cruciata Motsrhulsky

吾邦最大の螢で体長四分乃至六分許。体翅共に黑色を呈し、觸角も脚も黑い。前胸は背面腹面は桃色を呈し、その中央背面にある縱の黑條は中央より稍上方部で膨大して居る。而して前背板の後緣角は後方に鋭く突出し、全面點刻を密有し、小楯板は長三角形で小點刻が多い。各翅鞘には判明しない四條の縱隆起あり。腹面少しく褐色を帶び、雄の最後の腹節は黃白色を呈し、雌の最後節は赤色を呈し、その前節は雄と同樣に黃白色である。幼虫は清き流れの小き砂石のある所を好んで棲息し、蜷の類を捕へて食する。雄は体小なるも光力が强

い。幼虫老熟すれば河畔の土中に入つて蛹化し、翌春五月下旬頃より羽化する。卵、幼虫、蛹、成虫共に發光する。殊に成虫は晝間河畔の草叢の中に隱るゝも夜に入れば飛翔しつゝ盛に發光する。通常六月頃最多く出現し、その交尾期には夜拾時頃になると無數の螢群を成して高く空中に來往集團して宛然相鬪ふものゝ如し。世に之を螢合戰と云ふ。

螢合戰

吾邦螢の名所は概源氏螢の產地である。玉川、石山、佐保、宇治、須磨、守山及び愛知縣岡崎市の如き是である。但し北海道には此種を見ず。

姫螢

前記二者の他に日光、伊吹、富士等の高原地には一層小形なる一種の姫螢（Luciola parvula Kiesenwetter）と云ふのがあり、一名伊吹螢と稱し体長二三分に過ぎぬ。

住血吸虫の中間宿主

△螢は山梨、岡山、廣島、佐賀等の諸縣にては彼の恐るべき日本住血吸虫の宿主なる宮入貝を食する故に大に人類に貢獻する事が知られてゐる。

瘰疬の藥

△螢能治疾病惡氣百鬼虎狼、蛇虺蜂歇諸毒。昔漢冠將武、成太守劉子南從道士尹公受此方會試之有效驗……本草綱目。

△腫物の膿の吸出しや瘰疬にもすり潰して局部に貼る。油と練つて用ひて良し。

△痔疾には五六匹を煎じて一回に盃に一杯づゝ服用すべしと云ふ。

△血止めにも貼用して良し。

腎臟病用

△蟲体を食すれば利尿劑となる。寢小便にも効ありと云ふ。されば螢貳拾個許を黑砂糖を加へて水三合に入れ腎臟病に煎用する。

△卵の黑燒粉は產後の下血に服して効あり。梅肉と練つて癰疔にも貼布する。

強心劑

△螢の煎汁は強心劑となり、感冒、百日咳等の解熱にも應用する。

腰痛に塗る

△腰痛には蟲体を潰して酢と攪き混ぜて之を塗る。

△一說に螢を水にて煎じ服用すれば霍亂に効あり、又粉末にして禿頭病に外用して驗ありと云ふ。

△滋賀縣の守山、今宿邊にては螢捕りを營業する者多いが、一夜に幾千疋も捕へ、その中で死んだ者を藥種屋に賣ると云ふ。

螢提灯

△又昔支那福建省南平縣の人に車胤と云へる博學多通の政治家があつたが、小供の時家貧くて燈油を得る事能はず、夏は練囊に多數の螢を盛り、螢火に照して讀書をなした事は有名の事實であり、又キユバ島の婦人は螢を絲に綴つて胸飾りと爲すのである。尙九州地方にては螢提灯と稱して紙張りの箱に多數の螢を入れて提灯に代用する所ありとの事は實たるを失

はず。吾邦でも地方により螢提灯とて紙張りの箱て無數の螢を入れて提灯に代用する人がある。

牙蟲科 Hydrophilidae

觸角は六節乃至九節より成り棍棒狀を爲して短く、末端の肥大部は多く葉狀を呈し、柄部は長い。小顎は分れ、小顎鬚は往々觸角より多く、絲狀にして四節より成り、下唇鬚は三片より成る。腹部は五節若くは六節より成る。多くは水中に住するも動物の死体に集りてその肉を食ふものあり。又稀に獸糞中に住する者もある。夜間飛翔して棲所の移動をする。

おほがむし Hydrous acuminatus Motschulsky

ガムシ　牙蟲

体長一寸乃至一寸二三分。光澤ある漆黑色である。觸角と兩鬚とは黃褐色で小顎鬚は觸角より長く、頭部には纖細なるY字形の頭頂縫線を認む。小楯板は略正三角形で平滑である。体の中央は膨起して半楕圓形を呈し、胸部腹板の棘狀突起は第一腹節を超えて居る。各翅鞘には四條の點刻列を有し又その兩側にも各一條の微細なる點刻列がある。げんごろうに似たれど背面やゝ凸起し且つ光澤がある。吾邦各地に產じ春夏の候何れの池沼にも普く存し、夜間燈火に飛來する。

こがむし Hydrophilus affinis Scharp

体長略五六分。全体光澤ある黑色で觸角及び兩鬚は大体黃褐色をなし、背面一樣に微細の點刻を密布する。頭部には纖細なる頭頂縫線があり、背面隆起するも腹面は比較的扁平である。脚は赤褐色なり。各地の池沼に多い。

ひめがむし Sternolophcius rufipes Fabrius

体長三四分。全体黑色乃至黑褐色にして光澤が強い。脚、兩鬚及翅鞘、翅端に近き前緣は赤褐色。各腹面節の後緣と各節兩側の一紋及び翅鞘の先端に近い側緣等も赤褐色である。前頭にはへの字狀の點刻列を存し、前胸背は前緣近く兩側に二點刻列を有し、前方のものは孤

狀を呈し後方のものは斜走する。吾邦各地の池沼に普通にして夜間燈火に飛來する。

○牙蟲類の幼虫ば小兒の疳藥と稱して山國の人は之を炙り又は附燒として食ふ。信州邊の人は翅をとり去つて醬油にて煮附け喜んで愛用して居る。

△百日咳には其搾汁を服用する。

△搾汁は又塗布して傷藥となす。

龍蟲科 Lytiscidae

觸角は拾一節より成り、鞭狀若くは絲狀を成す。大顎は短大にして齒あり。小顎は二葉に分るゝ事なく、末端には不動の一鈎を有する。小顎鬚は三節より成り、上唇は小く、前緣は凹陷し剛毛を有するものあり。後肢は側扁にして游泳に適し、五附節を有するものあり。幼虫成虫共に水中に住む。大形の種類は養魚に害あるも小形のものは魚の飼料とも成る。

くろげんごろう Cybister brevis Aube

体長七八分。黑色なり。頭には點刻多く、前頭の兩側に小凹陷あり。頭楯は黃褐色、後緣

は黑色。觸角及び上唇は黃褐色。而して上唇の前緣中央は弓狀に刳られ、金色の短毛を生ずる。大顎は黑色、兩鬚は黃褐色にて末端は濃色であり、前背板には小皺及び小點刻が多い。翅鞘には三條の點線狀の點刻數列あり。翅端及び第三、第四腹節の兩側には各一個の黃赤色の紋がある。前中兩脚は赤褐色。雄の前脚の跗節に赤褐色の吸盤を有する。本州及びその以南の沼澤に多い。

げんごろう Cybister japonicus Sharp

ナミゲンゴラウ　東九郎(信州)　龍蟲

体長一寸二三分。外貌扁平楕圓。黑褐色に少しく青味を帶び光澤あり。觸角、脚、前胸の兩側と翅鞘の前緣とは黃褐色にて翅端の小紋は黃色で、胸部腹板は帶青黑褐色。上唇黃褐その前緣中央は少しく弓狀に刳らる。大顎は帶赤黑褐色、兩鬚は黃褐。前背板は雄にては滑澤、雌にては小皺が多い。翅鞘に三條の點線狀の點刻を存し、雄の翅鞘は滑澤なるも、雌にては縱の小皺を密布する。而して雄の前脚は跗節の

基部の三環節は甚しく平盤狀を呈し、これに多數の吸盤を具へる。休下の條部は龍骨狀にして褐色を呈し、前中脚は短きも後脚は扁平にして水中生活に適して居る　幼虫はがむしと共にやまめ又はやごめ或はよめと呼ばれて淺水中に棲息する。その形圓柱狀をなし尾端に向つて細まり末端は細長き管狀を呈し、細い六脚を有する。頭部は大くて前方に細い尖鋭にして末端の內曲せる一對の大顎を有して食物を捕獲するが、後には土中に入り楕圓形の窩を穿つてその中に蛹化する。蛹は淡黃色。楕圓形にして長約二寸許。池沼等に蛇の皮、牛馬の腸などを沈めおけば、一二時間にして多數に集り來るものである。吾邦各地に普通に產じ、各種水棲昆虫及び小魚等を捕へて食して居る。地方により一名油屋のおこんの稱あり。

こがたげんごろう　Cybister Tripunctum Oliver

休長八九分。休上は光澤ある黑褐色にして少しく青味を帶ぶ。頭楯、前背板の外緣、翅鞘の前緣は黃褐色。頭部は滑澤にして前頭の兩側に凹陷部を有する。觸角及び兩鬚は黃褐色。上唇も黃褐色にしてその前緣中央は孤狀に刳られ金色の短毛を存す。大顎は黑褐色にて基部は赤褐色。翅鞘には三條の點刻列を有する。前中脚は大部分黃褐色にして暗褐色の部分を存し、後脚は休の下面と等しく暗赤褐色を呈し、雄の前跗節には吸盤を存する。前胸背の前緣に開孔する腺より一種の特臭ある乳狀液を出す。幼虫、成虫共に水中に棲息し成虫は夜間空中に飛翔し來る。

ひめげんごろう　Rhantus pulvarius Stephens

休長四分許。休上は暗黃。後頭及び之に連續せる頭頂の二紋、前胸板中央の一橫紋は黑色。觸角及び上唇は淺黃褐色。後者の前緣中央は弓狀に刳られ金色の短毛を生ず。翅鞘は前緣を除き黑色の小點紋を密布し黑褐色を呈する。休下は黑色。第三、第四腹節の後緣と尾節とは赤褐色で前中兩脚は黃褐色である。而して雄の跗節には吸盤を有する。後脚は大休暗褐色なり。吾邦各地の池沼に普通である。

げんごろうの利用

○山間地方にては各種のげんごろうを食用及藥用とする。即信州邊の農家にてば火に炙り甘鹽の諸味を加へて食膳にするが、香味甚だ佳なりと云ふ。通常は翅を去り醬油にて煮附け喜んで食して居る。

通經劑
咳の藥

△臺灣にては小形のげんごろうを煎服して通經劑とする。
△信州人にては燒き又は生の儘つぶし、其液を小供の實布底里、疳症及び百日咳の藥とする。

傷藥、吸出藥

△又地方により煮て喘息の藥とし、肺病の藥と稱へて幼虫を呑み下す所あり。或ば燒いて胃腸藥となす所もある。
△粉末となして飯粒と練り合せ、傷藥或は腫物の吸出藥とする。

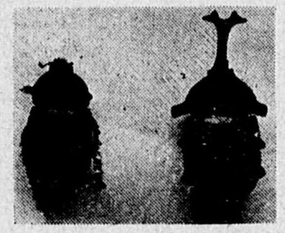
金龜子科（コガネムシ） Scarobaeidae

觸角短く、七節乃至拾一節より成りて膝狀を呈し、末端の三節乃至七節は鰓葉狀を呈し、各葉は相動く。前肢は肥大にして地を開掘するに適し、蹠節は五節より成る。体多くは强固にして卵形を呈し往々美麗の色彩あり。幼虫は俗に蠐螬（デムシ）と稱し、農作物の根を切て大害をなす。種類多し。

幼、成虫共に食用に供す

かぶとむし　Xylatrupes dichotomus L.

サイカチムシ　獨角仙



大形の甲蟲にして体長一寸三分乃至一寸五六分。体楕圓形にて背面隆起し、雄は頭上に尖端の再裂したる長大なる角狀突起を有し、前胸背に前方に向つて尖端の二裂せる突起あり。脚は强大にして齒狀の突起を有す。全体平滑光澤ある黑褐色なるも雌は角狀突起を缺き、体面光澤よく褐色の短毛を密生す。六七月頃出でゝ、さいかち、くぬぎ、くり、柳等の樹皮を嚙み破つて流出する液汁を嘗む。幼蟲は老熟すれば三寸の長さに達し、略圓筒狀を成し淡黃褐色を呈し、体面に横皺多く、黃褐色の毛を具へ、頭部と胸脚は黃褐色である。地中に在つて藁其他主として禾本科植物より成れる腐植質に富みたる土中に棲息して植物の根を食ふ。成虫は六七月頃出現する。俗に地虫と稱する類の最大なるものである。

○山國にてはすくも虫を擂鉢にて研つて之を調理に用ふ。

かぶとむし

僂麻質斯の藥

○或は成虫の翅をとりさり醬油にて煎り又は燒いて食用に供す。
△成虫を粉碎して酒にて用ふれば僂麻質斯の藥となる。
△幼虫の内容物を排出して代指の時の初期に指頭に覆ぶせる。
△又陰干にして牛の病に服用ぜしむ。

難産の時

△難産の時燒末して水にて數回服す。

くはがたむし科　Lucanidae

觸角は捻節、膝狀を呈し、末端の三節乃至五節は櫛齒狀をなし。各葉は動かず。柄節は甚だ長し。大顎は發達し、特に雄にては鍬形を呈するものあり。幼虫は前科のものと共に蠐螬（スクモ）と稱せられ、朽木を食となす。

種類多し。今其二者を記述す。

みやまくはがた　Lucanus macrifemoratus Motschulsky

体長雄は大顎を除いて一寸乃至一寸五分。黑褐色にして灰黃色の毛を裝ふ。頭は大く兩側に耳形の大突起あり。尙前頭に蒲穗子形の突起あり。大顎は大くして末端上下に二分し、内側に四個の大齒を具へ、顎片は劍狀、前胸背の中央に淺い縱溝があり、翅鞘は少しく赤味に帶ぶ。脚は黑褐色なるも腿節には橙黃色の條斑を有す。極めて普通の種類にして幼虫は楡、柳、樫等の朽木の中に棲息し、成虫は七八月頃出現して樹液に集る。

此餘くはがたむし、鬼くはがた、のこぎりくはがた等種類多し。何れも類似の効を有するなるべし。

のこぎりくはがた　Psalidoremus inclinatus Motschulsky

体長雄一寸乃至一寸四五分、雌一寸内外個体により大に大小あり。概して稍赤褐色を帶ぶ。雄の大顎は頗發達してその中央で内方及び下方に屈曲し、その前半部の内側に五個の小齒あり。顎片は三角形をなして突出し、頭の前緣は深く灣入す。前胸背と共に微細なる顆粒を密布す。翅鞘は赤褐色、周邊は黑褐、淺き小點刻を密布す。脚は赤褐なり。本種は極めて

普通にして朝鮮、滿洲にも產じ、幼蟲は枯朽せる木を食するが、成虫は槲、楢、楡、柳等の樹液を吸收す。

くはがたむし類の利用はかぶとむしに同じ。

豉豆科 Gyrynidae

（ミツスマシ）

觸角は甚だ短くして九節より成り、第二節は膨大して不正形となる。複眼は上下に分離して四個となり、其中間に觸角あり。大顎は短くして末端に二齒あり。小顎は二葉に分れず、末端に不動の一鈎を具へる。小顎鬚は二個あつて前方のものは二節、後方のものは四節より成る。下唇鬚は三節なり。前肢は長く、後肢は側扁にして短く、游泳に適する。腹部は六節より成り、跗節は五節より成る。何れも卵形の種類にして水面を旋回する。

みづすまし Gyrinus curtus Motschulsky

マヒマヒムシ　豉豆蟲

体長二分內外。体は光輝ある黑色にして殆ど紡錘形である。頭は黑色、點刻を缺く。觸角は黑色、第二節の分枝は褐色。大顎は赤褐。兩鬚は黃褐。複眼間に二個の凹陷があり。頭楯及び上唇は銅色光澤を有し、前者は縮皺が多いが後者は滑澤である。脚は黃褐、腿節は赤褐。体下ば黑色にして滑澤である。小楯板は長い三角形にて點刻なく、翅鞘に九條の點刻縱列を有す。尾節は露出す。眼は頭の兩側について上下兩面を視る事を得。溜水の面を自在に滑走すること宛も横文字を迅速に書くが如くに運動する。卵は水草に規則正しい一列に產み附けらる。幼虫は水棲昆蟲の体液を吸收して食とし、老熟すれば幼虫は水中より地上に上る時營繭に要する泥塊を体の背面に載せて運搬する性があり、斯くして地上の枯葉、草の莖、葉等の蔭の適當なる所に營繭する。

たほみづすまし Dineutes marginatus Sharp

体長三分內外。蝠一分六七厘內外。体上は滑澤、黑色にして青銅樣の金屬光澤を有し体下は黃褐なり。前背板及び翅鞘の外緣は黃色。觸角は黑く末端は黃褐である。上唇は黑きも前緣は弓狀に少しく突出し、紫色にして微小の點刻を密布し、後方に横皺あり。大顎及兩鬚は黃褐。前背板の前緣兩側に弓狀の横溝がある。而して小楯板はない。翅鞘前緣の黃色帶は翅端

より約五分の一の處にて棘狀をなして終り、翅端は鋭齒をなす。外緣に近く約四條の淺き縱溝を有し、その內側の二間室には紫褐色の縱條あり。脚は黃色、扁平にして短く、雄の前脚跗節下面は刷毛狀をなす。日本全土を始め支那、西比利亞、印度、マライ等に廣く散布し極めて快活に水面を旋回する。此種の複眼は水面に浮びながら同時に空中、水中共に視る樣に頗る生活に適應して居る。幼虫は水棲動物を食としてその液体を吸收する。幼虫老熟すれば水中より這ひ上つて水邊植物の葉上に楕圓形の土の繭を造る。

ひめみづすまし Gyrinus japonicus Sharp

体長一分五六厘。紡錘形にして光澤ある黑色を呈する。頭に點刻なく、複眼間に二個の淺き凹陷を有し、頭楯に縱皺多し。觸角は全部黑色。上唇も黑色。兩鬚は黃褐であり。前背板は滑澤、前緣兩側には弓狀の點刻縱列を有し、小楯板に點刻なし。翅鞘には十一條の點刻縱列を有し、その間室は滑澤である。尾節は黑褐色にして灰毛を裝ひ、翅端より突出し、前中兩胸片及び尾節下面は赤褐色で脚は黃褐色である。極めて普通の種類にして吾邦何れの池沼河流にも產する。

鼓豆蟲類の利用

○がむしの如くに食用に供せられる。

△消渴には生のまゝ三四疋を水にて嚥下して宜い。　消渴用

△黑燒にして小兒等の涎止めに服用せしめる。　涎止め用

△燒いて粉末となし服して風邪の藥とする。　解熱用

△九州地方では熱病に妙効があるとして生の儘酒に浮べて嚥下する。

△その他地方により生の儘、水で呑んで胃病、神經衰弱等に藥用とする。是れ結局榮養の効め著しきによるものなるべし。

雙翅類 Diptera

此類の後翅は退化して太鼓撥の狀を成すか稀に翅なきもある。口部は口吻狀に延長して或は吸收或は刺螫の用に適する。前胸は癒合して動く事なし。幼虫は蛆狀を呈し、多くは頭部を缺く。蛹は刺戟を受くるも動かざる所の圍蛹であつて、時に胎生兒を產ずるものもある。概ね害虫なれども他虫の体內に寄生して之を斃すものもある。

食蚜蠅科 Syrphidae

頭は半球形にして胸と同幅であり、口吻肉狀に、して四個の剛毛を有す。稜狀部は大くして粗毛なし。靜止する時は翅を水中に充分開展するものと半開に止るものとあり。幼虫は汚水又は糞尿中に棲息し、蚜蟲及び他の小蟲を捕食する。

はなあぶ Eristalis tenax L.

尾長蛆

五穀虫

一見蜜蜂に似たれど較大く、成虫は体長四分二三厘乃至五分に達す。頭部は半球形にして灰黄色を帶ぶ。体は楕圓黑色。稜狀部は黄色。第二背板に横H形の黑色紋を有す。腹部は大くして赤黄色を呈し、第三節に雄は倒丁字形の黑紋を有し、雌は第三節に中央切斷せる黄赤色の横帶を有し、第四節以下は黑色である。幼虫は尾長蛆又は尾長蟲と稱し、汚水、糞尿等の中に棲息し、圓筒狀にして柔軟、肥大、灰白色を呈し、充分成長すれば尾を除いて七八分に達し、尾端に鞭狀の長き管を有し体長の約二倍に至る。体に横皺多く、腹面には七對の脚

狀突起があつてこれに褐色の微鈎を密生する。漢醫の所謂五穀蟲是れである。成虫は普通花上に來集する。

疳藥

△小兒の疳藥として五穀虫の黑燒を用ふ。

通經用

△幼虫を煎服すれば女子の經水を通ずれど時に胎を落すの恐がある。

眼を明にす

△嬰兒の口中に乳糟の腫物になつたるには尾長蛆を日に乾して粉となし、之を即飯に押しまぜて足の裏に貼る。又指に毛をからみつけて口中を洗ひ蜜に辰砂を入れてつくるもよし。

△解熱には蛹の脫殼を粉末となし、糊と練つて足の裏に貼る。

△支那の本草に治療毒攻目生醫とあり。蛹の殼の煎汁で毎日二三次眼を洗へば眼を明にする。

聾耳の藥

△生眉毛脫方　雷丸、殼黑、糞蟲黑霜……諸家奇方。

△聾耳には尾長蛆を黑燒となし、胡麻油で溶いて耳中に入れてよろし。又管にて吹き入るゝも可なり。

齒痛の藥

△齒くさには尾長蛆の黑燒に枯礬を少し加へ粉にしてつけて宜し。

虻科 Tabanidae

此類は体肥大にしが幅廣く、比較的短い翅を有し、脚は短く頭大く複眼も大い。觸角は短く、三筋より成り、末節は長く、その基部幅廣く突起を存し、末端は連環狀と成る。口吻は短く突起し、雌にては突き刺す樣に成つて哺乳動物の血を吸ふ。体に短毛多く、黑色に灰色黃色、褐色等の條紋を存する。

うしあぶ Tabanus trigonus Coquillet

此等の虻は概して大形なるが、此種も体長七八分あり。体は灰黑色。顏は灰黃色。觸角は第三節のみ橙赤色、胸背に灰白粉の三縱條があつて、その中央のものは極めて短い。腹部は暗褐色、その各節の後緣兩側及び正中線縱條とは灰黃色より成る。脚は各腿節の末端及び脛節ば黃褐色である。六月頃より九月頃まで出現し、好んで牛馬の血液を吸收し同時にそれらの疾病を媒介するの恐れがある。又時には直接人をも侵すのである。

やまとあぶ Tabanus rufidens Bigot

体長六七分。黃褐色に富む。頭複眼間は細長く、黃灰粉にて密に被はれ、裸体瘤は長楕圓形。黑褐色にて上端より甚だ長き延長部を出す。雄は複眼にて殆ど全く被る。顏面は淡黃灰粉にて密に被はれ、觸角は黃赤色である。胸背は黃褐粉にて被はれ、胸側と胸腹とは黃灰粉に被はる。翅は少しく煤色にて前緣部は黃色を帶ぶ。肢は暗褐色で前肢は濃色なり。腹部は赤褐、黑毛を生じ各節の後緣は黃色毛にて被はれ、各節の側緣部は細く黑色毛にて密に被はれて居る。吾邦各地に產ずる。

効用うしあぶと同じ。

あかうしあぶ Tabanus chrysurus Loew

体長七八分。黑褐色。頭複眼間は長さその幅の五倍にて灰褐粉及び黃金色毛にて被はれ、裸体瘤は濃栗色にて短く上端は尖り、前額は橙黃色粉にて被はる。雄の頭は半球形に近く、複眼にて殆ど被はる。觸角は鮮黃赤色、第三節は前二節の略二倍半長にて突起は甚だ顯著で

ある。胸背は黑褐色にて著しく隔離せる黃金色毛より成れる二中央縱線が存在し、翅の基部前方側緣は黃色、後緣及び稜狀部も黃金色毛にて被はる。翅は黃褐色にて外方は暗色、肢は黑褐乃至黑色にて脛節は黃赤色。但し雄にては全節黃赤色の事あり。腹部には各節後緣に黃金色毛より成れる橫帶を有し後方のもの程其幅が廣い。雌にては各節後緣中央に灰色の三角紋と側方に黃赤色三角紋を有する。本種は吾邦產の中最大形の美麗なる虻であつて、其飛翔の狀時に雀蜂と誤認する事がある。

しろふあぶ　Tabanus mandorinus Schiner

体長六分內外。黑色。頭複眼間は細くて幅の約六倍長、白色粉にて被はれ、裸体瘤は上方に延長して細くて黑く、雄にては殆ど複眼にて被はる。前額は灰色粉にて被はれて小く、中央縱溝は明瞭である。顏面は灰色粉にて被はれ、裸体部を存せず。觸角は黃赤乃至黑色、末端部は著しく細くて數節より成る。胸背に灰色粉よりなる五縱線を有し、中央のもの甚細く中央に達するのみである。但し雄にては全面紫褐色にして是等の線は不明なり。胸側及胸腹は灰色粉に密に被はる。翅には黑褐の翅脈を存する。肢は黑褐乃至黑色、脛節は末端の外、灰白色なれども、雄の中肢にては不明なり。腹部は各節(第一節を除き)の後緣帶、後緣に接する三角紋及び第一、第二、第三の各節の側縱紋は灰白色を呈する。本種は內地の他臺灣、支那まで分布して居る。

△腫物の吸出しに虻と松脂とを等分に合せ、すりつぶして鬢附油に練つて、局所に塗布する。

△流行性結膜炎に虻を搗り潰し、飯粒と練り合せて眼瞼に貼る人あり。

△通經固腸、一般充血症に信州邊にてはあをあぶとしろあぶとを混じて煎服すると聞けどその種名は判然せぬ。但し分量を過せば胎を墮すと云ふ。

△虻は血の道に効ありとて信州邊にては捕へ來り、絲につなぎ、乾燥して之を販賣するものあり。

△虻入丸散去翅足炒熱用。微苦寒有毒。惡痲黃、逐瘀血破血積……本草綱目。

吸出藥

眼瞼に貼る

通經固腸

蠅

蠅に種類多し。民間其藥用に供するもの一ならざるが如し。今先づ其數者を記述して後に

其利用を示すべし。

家蠅科 Muscidae

此類の觸角節は側扁にして其上方に一個の長刺若くは羽狀刺を有す。口吻は發達し、肉狀にして二本の剛毛を具ふ。背上に一の横溝あり。腹部は四節乃至七節より成る。幼虫は無頭無脚にして前端細く腐敗せる動植物を食するもの多く、糞尿中に生活するものあり。

いへばへ Musca domestica L.

体長雄二分、雌二分五六厘。灰黑色。顔は黄白色。頭部は自由に動く。觸角は黑く基部甚だ短小にて第二節は太く、幅より長く、第三節は前二節の和の一倍半の長さで上緣直線、下緣彎曲し末端細まる。刺毛は全長に長羽狀毛を粗生する。胸背は幅より長く、多少光澤に富み、黄灰又は灰色粉より成れる五縱帶を存する。稜狀部は大く、末端は多少尖り、胸背同樣の二縱帶を存し、緣刷毛は二對、黑色である。腹部は頭胸部の和よりやゝ短く、黑褐色にて基部は雌では二節のみ黄色の大側紋を有し黄灰色粉にて被はれ、三裸体縱帶あり。翅は透明にて暗色を帶び、肢は黑い。本種は世界共通の蠅にて吾邦の家庭に見ざる所なし。卵は細く筒形にして乳白色を呈し、厠又は塵埃等の不潔物中に産み附けられ、一回の産卵數壹百乃至壹百五拾個位で即日孵化する。自然狀態にては七八月頃には十五日間にして成虫となり、九月にては貳拾五日間、十月頃には一ケ月を要すると云ふ。但し蠶などと違ひ、一年内に十世代をも繼續すると云ふ。

蠅の人世に有害なるは種々の傳染病菌を傳播したり、又寄生蟲病の媒介を爲すことにて、彼の赤痢、腸チブス、パラチブス、虎列刺、黑死病、結核等と密接の關係を有する事は世人の熟知する所である。

おほいへばへ Muscina stabulans Fallen

病原傳播

体は灰黑色にて胸に四條の黑縱條あり。小楯板の末端、腿節端及ひ脛節は赤褐である。家蠅に酷似すれど雄の腹部に赤褐色の斑紋なき事と脚の赤褐色なることを殊點とする。家蠅より概して一層不潔なる處に居る傾あり。

姫家蠅 Fannia canicularis L.

体長二分未満。頗る家蠅に似たれど腹部細く、その末節を除く他には兩側に赤褐色斑あるにより區別せらる。屋内に頗多く春季特に多い。幼虫は動植物腐敗物質の中に生育し、水分に富める塵芥又は厠等にも居て体長七ミリ位の紡錘形にて、扁平、黄褐色を呈し、表面に棘狀突起が多い。

くろばへ Calliphora lata Coquillet

短大の種類で、体長三分四五厘許。暗黒色。顏には銀白色の微毛を生ずる。腹部は黒藍色にして金屬性の光澤あり。頭頂は黒く、その兩側及び顏は黄色。觸角は黒褐色。胸背には不明瞭なる縱條を存し、兩側には黒色の剛毛よく發達する。翅は透明で僅に暗色を帶び、脈は黒褐である。前胸下面の兩側には橙黄色の斑あり。胸部一見濡れて居る如き感あり。脚は黒い。夏日肉上に來つて產卵し以て大害を爲す。

△大阪地方にては蛆を鯵の蟲と稱して釣魚の飼となし、北海道にては干鰯の大害虫なりとして大に擯拆すると云ふ。

斑蠅科 Ortalidae

此科の者は頭短く、胸幅と同じいか又それより廣い。觸角は大く端刺を有す。腹部は細長くて六節より成り、翅と脚とは長く、殊に翅は腹部よりも長い。

へつかふばへ Dryomyza formosa Wiedemann

イヌバヘ

体は黄橙褐色。体長五六分。觸角黄褐色。胸背に左右各黒褐色の三縱條を具へ、一條は後半部にて顯著である。兩側及び後方に黒色の剛毛あり。稜狀部の中央は黄色。翅は透明にて鼈甲色を呈し、四個の黒褐色の圓紋がある。雄の腹部は褐色にて基部は黄褐である。此種は腐肉や動物の糞上に好んで來集する。吾邦内を始め支那、印度等にも產ずる。

蠅の利用

△糞中蛆治小兒諸疳、疳瘡、熱病、譫妄毒痢作吐。

〻つかふば〻

△泥中蛆治目赤洗淨研貼之。

△馬肉蠅治鍼箭入肉中及取蟲牙。

△蝦蟇肉蛆治小兒諸疳……並時珍。

△臺灣にては蛆の乾したる者を谷虫と稱して消化劑となす。

△一切疳疾、六月取糞坑中蛆淘浸〻入竹筒中、封之待乾研末每服一二錢入麝香米飲服之。

△小兒熱疳尿加米泔、大便不調、糞蛆燒灰雜物與食。

△小兒痺積、用糞中蛆、洗浸晒乾爲末、入甘草末少許、米糊丸梧子大、每服五七丸米飲下甚妙……總微論。

療毒蛇傷

△療蝮蛇咬傷法　牽牛子、蠅頭拾個、蒲黃右三味末傳糊貼患處……諸家奇方。

△拳毛倒睫以臘月蟄蠅乾研爲末、以鼻頻嗅之即愈……時珍。

△蠅古方來見用之。近時普濟方載此方……同上。

痔の藥

△痔核光痔　野鼠生霜同　柿核霜、蠅去首胴四個許　甘草少以上末可附……奇方錄。

簽刺の藥

△簽刺　蠅の頭を即飯に押しまぜてはりおくべし……秘方錄。

△又針の肉の中に入りたるには甘草末粉、蠅頭を糊に押しまぜ、練ってつけてよし……經驗千方。

療疽の藥

△療疽には蠅頭の黑燒、沈香、生黃柏、生甘草各等分右四味細末となし、はこべの汁にといて附くる。

治毒虫刺

△蜈蚣の螫したるには蠅の頭をすりつぶし即飯にねつて貼るべし。

△蝮蛇のさしたるには藤の瘤、夕顏の蔓の尖の處、蠅の頭の三味を粉にして家猪の油にてつくべし……經驗千方。

鼠咬

△鼠の咬んだ傷には夏の蠅の陰干となしたる者を即飯におしまぜてつくべし。

△又蠅の頭を夏の間に捕つて置き、すりつぶして胡麻の油にて附くるもよし……經驗千方。

つき目

△つき目には蠅の頭を即飯によく押しまぜ、乳汁にてどろ〻に練りまぜ、目の中へさしてよろし。或は蠅の頭をすりつぶし、そのま〻人の乳汁にといて目の中へさせば傷も痛みも立所に止みて治するものなり。

△齒くさには尾長蛆の蛻を黑燒となし吹藥となす……妙藥博物筌。

△信州にては黃疸病に尾長蛆の乾燥せるものを味噌汁にて服用する。

〻つかふば〻

踏拔　△踏拔には蠅頭三個、飯粒三個をよく研りまぜ、紙にのべて貼る……掌中妙藥集。

刺拔　△刺拔藥には蓖麻子油に蠅の頭を入れ、それに甘草少許を加へてとげの立つた口へつくれば上等の藥となる……梅花。

解熱　△臺灣にては蠅の幼虫の乾燥せるものを消化、解熱等に煎服する。

△胃病にて吐瀉するを止めるに信州邊にては此虫を黑燒にして水にて服用する。

蚊科 Culicidae

幼虫は水中に棲息し水中の有機物を攝取して成長する。幼時をぼうふらと呼ぶ。後蛹となり更に蚊となつて始めて空中生活をなす。雌は人体等を刺して吸血をする。種類少からず。

あかいへか Culex pipiens Coquillet

アカマダラ蚊

体長雄一分八厘、翅長一分三厘。雌体長一分七八厘、翅長一分六厘弱。褐色にして頭頂に狡き彎曲せる鱗片と叉狀にして直立せる鱗片とを被る。眼の後緣に沿ふて黃白色の鱗片あり。口吻は雄にては末端太く、雌にては大さ一樣なり。中胸背板の前方中央部には二本の並行せる裸出縱走線あり。胸側には數個の白斑がある。胸背の地色は赤褐色の狡曲鱗にて密布せられ、腹背は黑褐色であり、肢は黑褐で腿節の下面は白色なり。

蚊の口器を見るに外面全体に鱗片があり、鞘狀にして先端に感覺葉を持せる下唇とその蓋をなす針狀の上唇との間に五本の針狀物あり。その一は幅廣くして先は急に鋭く細まり、錐の如くなれる舌なり。而して一對は幅狹く、先に鋸齒を有する小顎にて人の皮膚を切り開く。尙他の一は之によく似て先端の劍狀を成せる大顎である。右五本が上唇と合して吸血管となりて他動物の毛細血管に刺さるのである。此際吸血管の鞘は中に入らずして下の方に弓の如くに曲つて感覺葉は數本の針を締め括つて鋭き一本となる。螫されたる傷は小なるも痒みを感じて其周圍の腫れ上るのは切開術を爲せる上に毒液を注入するからである。

但し血を吸ふのは雌に限られ、雄は多く暗所に居て植物の汁液を吸ふのみである。

吻外に小顎に附屬する觸鬚あり、雌にては短く、雄にては吻より長い。又雌にては口器中の針狀片は下唇と同長なるも、雄にては長く針狀片は一本の舌、一本の上唇のみにして他は下唇の五分の一位に過ぎず。而して又雄の觸角は多數の節より成り、節柄に多數の長毛を生

して羽毛狀をなして居るも、雌にては毛が短くして數も少いから直に區別が出來る。

蚊の幼虫は所謂ぼうふりにして、その水面に來るや尾端を上にして斜めに水面にぶら下つて呼吸するが、蛹となれば呼吸管が恰も耳の如くに胸部の上端より突出し、休は子子の時に上と下とが代つて呼吸をなす。此時代は子子と云はずして鬼子子又は雷子子などと呼ぶ。蛹の時は食物を攝らぬが幼虫時代は好んで汚水中に棲息し、細菌や他の有機物を食となす。

交尾せる蚊は多くは夜半過より夜明までの間に水面に來て產卵をする。卵は一時に七拾粒から三百粒位で、水面に筏の如くに集塊狀をなす。斯くて二拾日乃至三拾日位にて成虫となる。吸血するものは雌のみで、雄は多くは暗所に居てたゞ植物液を吸收する丈にて血を吸はぬが、雌も產卵期の外は人血を吸はぬ。此類は夜間吸血性にして各種の病源菌の媒介者として知られ、彼の象皮病をつくる住血絲狀虫病の病原休を傳播するも此類の蚊なり。

やまとやぶか　Aedes japonicus Theofald

雌体長約貳分許。翅長約一分五厘許。体は褐黑色に黃金色彩あり。頭頂部の中央に相接する二線狀と中央後方の三角形斑、眼緣紋とは黃白色鱗に被はれ、頭側には黃白色の扁平鱗より成れる二個の斑紋がある。胸から腹へかけて銀白色の線狀と斑紋とあり。觸角及び口吻は黑褐色、腹部背面は靑銅褐色と黃金色との小狹曲鱗にて被はれ、正中線、兩側前方の一縱線及びその外方の一曲線は黃金色を呈す。腹部背面は黑褐鱗にて被はれ、各節には銀白色の基部側斑をなし、翅脈の側鱗は廣線形乃至狹篦形をなし、脚は黑褐色鱗にて被はれ所々白色鱗により飾らる。

雌の觸鬚は短く、雄のそれは吻長の五分の四に相當し、何れも全部褐黑色である。此蚊は本州、四國、九州等に普く產出し晝夜主として人血を吸收する。螫るれば痛甚い。卵は前者と異つて個々別々に水面に浮ぶ。

此屬の蚊には彼の恐るべき黃熱病を傳播すると言はれて居るものがある。

やまとはまだらか　Anopheles japonicus Yamada

体長一分八厘許。翅長約一分七八厘。頭頂は直立叉狀鱗にて被はれ、黑色、中央前方の一

斑は黄白色、口吻及び觸角は黑色、胸部全面には淡黄金色毛と黑色毛とを疎生し、中央帶は灰色、兩側帶は黑褐色、腹部も同色にて黄金色毛と黑色毛とを有して鱗片を有せず。翅の鱗片には黑白ありて斑紋を成し、前緣脈の末端に一の白斑がある。脚は黑色、黄白鱗は前中の腿脛節の末端と後腿節の中央部に幅廣く存在する。

此類の蚊は普通の蚊と異にして翅に斑紋を有し、休は一般に褐色にて壁面に靜止する時その尻を上げて壁面と或角度を成し又卵を水面に個々別々に散して產む。而してその幼虫は水面下に水面と平行して浮游し、概して比較的に水の清澄なる淺い流れに產じ、成虫の飛翔力も比較的遲い。夜間吸血性である。

マラリア傳播

此種の蚊がマラリアを傳播する事を最初に明にしたのは、英國のロバートロス（Bonaed Ross）で、我明治三十一年に彼は鳥類マラリアと熱帶家蚊との關係を研究したが、人体マラリア病原蟲が歐洲の羽斑蚊の体内に於ける發育狀態を精細に研究したのは、伊太利のグラシー（Garssi）で吾明治三十五年の事なり。現今にては此類の蚊の數が百五拾種も知られ、その中の約二拾五種が病原体傳搬の可能性ありと稱せらる。

從來日本に流行するのは規則正しく隔日に發熱するので三日熱と云ふので、病原体は Haemodium falsipasum である。又四日熱と云ふのは二日目に發達するので前者より惡性でその原虫は Plasmodium malariae である。而して最惡性で死亡率の高いのは熱帶熱であると云はれて居た。

蚊の驅除　溝や下水の排水裝置を完全にして汚水の溜らぬ樣につとむる事。又右と同時にボーフリの居る水面には石油を散布して呼吸線を密閉して一擧に撲滅を計ること。此他に鯉や鮒など池に飼育して子子の全滅を圖ること。更にかげろふ、蜻蛉、蛙、燕等も亦蚊の驅除者である。

ひとすぢしま蚊　Aedes albopictus Skuse

体長一分餘。翅は一分位の黑色の蚊で、銀白色の彩が置かれて居る。頭頂は暗褐と銀白の扁平鱗を裝ひその銀色線は各側に二縱線をなし、眼緣にも銀白色狹曲鱗の一線がある。又雌の觸鬚は短くして末端に白斑を裝ひ、雄の方は吻より稍長くして四個の白斑がある。胸背は青銅色乃至黑色と銀白色との狹曲鱗を裝ひ、翅根の前方に銀白色扁平鱗の小斑があり。腹背は黑くして各節に狹き基部横帶と二個の側斑を形成す。肢は黑色に諸處に銀白鱗の紋斑を存

デング熱

し、後附節の末節も白い。

此蚊は所謂デング熱の傳播者で熱帶の者と思つて居る中に、臺灣から九州長崎にその發病者があると知つて騒いで居ると。今や四國、本州にも澤山傳染者が出來た。市内には普く水槽があるから、其蓋を上から密にかぶせる樣にするか、或は蓋を水槽の内部に丁度水面を覆ふ樣に浮べて、中の水量の增減に連れて蓋が上下する樣に致し、蓋の周圍の細き隙間には石油を注下し置けば可ならんとの事である。此蚊が發病後五日以内の患者を吸血し、その吸血後八日計を經過して健康人を刺螫すれば丁度傳播の恐れがあると言ふのである。

隱翅類 Aphaniptera

蚤科 Pulicidae

此類には只蚤科があるのみである。皆人を始め溫血動物の血を吸つて生活する所の翅の無い小虫なるが、大多數は獸類に寄生する。凡約五百種ありと稱せらる。今その三種を左に擧ぐ。

人のみ Pulex irritans L.

体は小形で雌は六七厘乃至一分三厘許。雄にては五厘乃至一分。形は兩側より壓縮せらしたる扁平にして側面より見れば略楕圓形にて頭部は小い。第一頭部と胸部とが同樣にて區別がない。頭部は下方に下顎と吻と觸鬚とから成れる口蓋あり。側方に點狀を成せる複眼がある。雌は常に雄より大い。額部に二本の剛毛を有し、眼剛毛がその前下位になる。觸角は短くて凹みの中に入る事が出來る。觸角窩の後方に一本の剛毛がある。中胸側板には縱に割條なし。尾剛毛は各側に一本あり。脚は太く扁平にして各節よく發達し、殊に腿節著しく發達せる故に跳ぶ事が上手である。口器は咀嚼口であるが變化して吸血に適して居る。

卵は直徑一二厘の圓形にて光澤を有し、皮殼硬くして、板上にて潰せばパチンと音を發する。一回に三乃至十二個を床の缺刻、疊の下、椽の下等の塵芥、砂等に混じて產む。卵は二日乃至二週間にして孵化する。幼虫は二分位の長さのある灰白色の虫にて十三節より成り、無眼、無脚にて体面に無數の毛を有する。斯くて一、二週間に二回脫皮して蛹となり、蛹は

約一週間位にて成虫となる。此成虫は溫血動物の血を吸はねば一週間以内に死するも、人血を吸收すれば百日以上生存し得ると云ふ。人のみは頭部及び胸部に棘櫛を有せず刺傷部にはカンフル丁幾、アンモニヤ又は二%の石炭酸亞鉛花糊等を塗布する。

犬のみ　Ctenocephalus canis Curtis

体は人蚤より大く、雌は体長五厘乃至七厘弱、雄にては四厘乃至六厘あり。前者と異にして額剛棘櫛及び前胸剛棘櫛あり。顏部に二本、後頭部に二本、後頭緣に一列の剛毛があり。尾剛毛は一本にして其上下に小毛を見る。世界を通じて犬に寄生する。頗猫のみに似て居るが、頭頂高くなりて圓味を有し、觀剛棘櫛が短いと云ふ。但し犬のみにても屢人又は猫に移ることあり。此蚤が瓜實條虫や鼠條虫の中間宿主なりと云ふ。

猫のみ　Ctenocephalus felis Bovche

形体頗前者に似たれどその頭頂の低くて平かなる事の外、觀剛棘櫛の第一剛棘長くして第二のものの三分の二以上ありとの事なり。此蚤も亦屢々人体及び鼠等に見る事ありと云ふ。

病原傳播

蚤の驅除

時局に際しても蚤を食用又は藥用に供する事は未だ之を耳せず。然れども蚤の人生に害をなすことは容易に看過すべからず。蚤はたゞ人を刺して血を吸ふのみならず、病原を傳播する恐あり。曾て緒方正規博士は明治三十年始めてペストの增殖はケオプスねずみのみ（印度蚤）が最著しと立證し、人にペストが流行する數日前には必ず鼠の間にペストの大に流行するを見ると云へり。併しペストは單に鼠のみによりて傳播するにはあらず。

蚤の驅除　蚤を驅除するには先以て家屋及び附近を清潔にし、疊の間、床の下、椽の下等に塵埃を殘さぬ樣にする事なり。塵埃は蚤の幼虫の食物なり。又身体、衣類等に附着せる蚤は機械的に根氣よく之を捕殺し、種々の驅除劑をも利用すべし。一時的に蚤取粉を用ふる事もあるが、吾々の家にては出來る限り椽の下や疊の間を奇麗に掃除をなし、床の上の隅々まで新聞紙を敷き込み、ナフタリンの粉末を撒布して後に疊を敷く事、又ベンヂン及びクレオソート油を撒くも宜しく、室隅油乳劑即ち石鹼と水とを三と一五との割合に熱を與へてよく溶解し、之に四六倍の石油を徐々に加へ、得たる白色クリーム樣のものを更に拾倍に稀釋して用るなり。

蝨類 Anoplura

蝨科 Pediculidae

小形無翅の昆虫にして複眼は退化し、口は吸吮に適し、專ら哺乳類に寄生してその血を吸ふ。肢頭に鋭爪がある。

しらみ Pediculus corporis DeGeer

コロモジラミ　キモノジラミ

病原の傳播

体長雄三粍、雌三・三粍、体幅雄一・〇粍、雌一・一粍。体は頭蝨より一層長大なり。卵は衣服又は体毛に產み附けらる。觸角は比較的長く、腹部各節の側緣の凸隆少く且つ各節の背面に斑紋を有する。

蝨は直接人体を刺咬する外、發疹チブス、蕁麻疹、濕疹、惡性回歸熱、化膿性炎症、壞壕熱等をも媒介すると云ふ。

蝨の驅除

されば皮膚及び衣類を清潔にして蝨の寄生する餘地をなからしむる必要あり。蝨を除くには食酢と石油の等分合液又は二五%の食酢液をタオルに浸ませてコレデ包むべし。又石油を含みたる石鹼、石炭酸、リゾール等を含む石鹼湯にて煮たる後アイロンを掛ければ効あり。ベンゾールの高度ドライクリーニングも宜しい。

頭蝨 Pediculus humanus L.

体長雄六厘六毛、雌九厘弱。幅雄二厘六毛、雌三厘三毛。衣蝨より体小く、疲せて色濃く觸角は太い。腹環節は明瞭にして歩むこと甚だ輕快である。卵を頭髮に產む。頭蝨が原種にして衣蝨はこの者が棲息を替へ習性を變じたもので、學名を亜種 P. h. corporis となす人あり。腹部末節は雌にては先端二分し、各數本の短毛を生じ、雄にては圓錐形に終る。

頭部を清潔にせざる時は此蝨を生ずる。驅除の方は衣と同一なれど、毎日櫛を入れ、一定時に洗髮して清潔に保つの必要あり。恐くは前者と等しく、蕁麻疹、濕疹等を移入すものなるべし。古來しらみがき（蝨痂）は此蝨の刺咬によると知られて居る。

毛蝨科 Phtiriidae

けじらみ

ケジラミ

休長、雄一・三粍、雌一・五粍。頭部丸く、前頭部短く、各側に二本の微毛を生ずる。胸部極めて廣くして幅廣く、その前緣は圓く凹めり。脚の爪は強く鉤形に曲りて毛を摑むに適應す。腹部短大にして基部の五節は癒着して一塊となり、第五—八節の側緣は圓錐形に突出して數本の毛を生じ、前肢は他肢に比すれば細く、爪も小なり。

本虫は專ら人類の陰部の毛又は腋毛等の局部に附着し、動作不活潑にして容易に移動せずと雖寄生部に猛烈なる痒疹症を發す。卵は西洋梨形を成し、幼虫は孵化後三回脫皮して成虫となる。

普通一世代に要する日數は二十餘日なるが、幼虫、成虫等人体を離れては生活する事を得ず。驅除法としては水銀軟膏劑、石油ワセリン石鹼合劑の塗布等なり。

驅除

直翅類 Orthoptera

口は咀嚼に適する。前翅は多少硬化し、普通判然せる網脈を有し、靜止する時は屋斜狀に置く。後翅は大にして膜質、靜止する時は前翅の下に疊み合す。稀に翅を缺くものあり。變態は不完全。食肉性のものと食草性のものとあり。

螻蛄科 Gryllotalpidae

複眼は小。單眼二個あり。前肢は肥大にして地を開掘するに適する。前胸は發達して卵形をなす。前翅は短く、後翅は長くして縱に疊み得る。尾端に二つの突起を裝ふ。雌は產卵管を缺く。

けら Gryllotalpa africana Palisot de Beauvois

オケラ　シャウライムシ　コマムシ(關東)　ゴキアラヒムシ(伊豫)

漢名螻蛄。また螻蟈、天螻、梧鼠、石鼠、土狗、仙蛄、砧鼠、土狗蟈等の稱あり。休長八

分乃至一寸許。休色黄褐乃至黒褐、土色を呈する者多く短き軟毛を密生する。觸角は短し。後緣は圓く突出する。前翅は短くして尾端に達せざるも後翅は大くして、之を疊めば尾樣の二突起となりて尾端を超えて更に下方に彎曲する。前肢は變形して地を開掘するに適する。

晝は土中に潜むと雖、水田の代搔の時には盛に出でて畔や水面を走り廻る。食肉性なれども時に植物の根を食害する。兎に角土壤を搔き分けて墜道をつくる故に耕作地にては作物を害して往々之を枯死せしむる事がある。

秋に至れば雄は燈火を見て飛來するも、雌は然らず。雄は夏秋の際善く鳴く。冬季は土中に棲息して土を掘ること甚巧みなり。雌は七月上旬、俗にけらの道と稱する墜道の終點に卵を產み、一回二三百粒に至る。卵は二週間位にして孵化し、翌年四五月頃に至つて全く成長する。雌は室の側方に長孔を穿ちてここに居り、卵及び幼虫を監視するも動もすれば幼虫の一部を自己の食料となすことあり。

何れの地方にも普通に居て、夏期には泥溝の附近にてギー〳〵（ビー〳〵又ジージー等と きる取る人あり）の音を發して鳴く。昔より世人往々此聲を聞いて蚯蚓の鳴聲と誤認して居る。

いなごの如く食用

○翅を去り焙つていなごの如くにして食用に供する。

利大小便

△蝼蛄 鹹寒 有毒 利大小便、通石淋甚効。此虫自腰以前其澁能止大小便、自腰以後其利能下大小便……本草綱目。

△又曰通石淋除水腫甚效……同上。

△小鳥類に與ふればその病を醫し、元氣旺盛となる。

利尿の藥

△利尿の効あり。水腫、淋疾等に一回三乃至五瓦、食前與之。但甚性急虛人戒之。

簽刺の藥

△竹木又鐵針等の肉中に刺し入りたる時、生ながら蝼蛄を採り研爛して、之を患部に貼布す。

瘭疽の藥

△切傷には胡麻油に漬けおきてその部に塗布する。

△瘭疽にはけら三個斗その頭尾を去つて一味、牛膝汁（キノコツチ）の中に梅干を霜として加へて練り合せ、痛む上につけてよろし……和方一万方。

△或云ふ。黒燒一味すりて砂糖を同量に入れまぜてつくべしと。

△小兒五疳の蟲に附燒となして毎日貳疋位與へてよし……掌中妙藥。

△胞衣下らざるには蝼蛄二三個を生のまゝ煎じて茶碗に一盃のむべし。但上二十度程に隔

てよろし……懷中妙藥集。

淋病の藥

△石淋を治するに、水を導く効あり。蝼蛄七個、鹽二兩を用ひ、新瓦の上に舖蓋焙乾して研末とし每溫酒にて一匁つゝ服す。

△水腫病　腫滿喘息不得臥、蝼蛄五枚を用ひ、焙乾して末となし、食前白湯服一錢、小便利爲效、楊子加甘遂一錢商陸三十一匙……聖惠方。

△臍風出汗　蝼蛄、甘草等分並炙爲末傅之……總錄。

△箭鏃入肉　用蝼蛄以杵汁一滴上三五度目出……千金方。

△虫齒には蝼蛄燒粉を帛布に包み、大豆の大にして痛む處へあてくわへ寢るべし……救民要藥、奇方錄。

虫齒の藥

△聞く處によれば、現今長崎地方にては淋病に、奈良縣にては解熱に、島根地方にては胃病に、又長野縣にては幼虫及び成虫を共に小兒の疳藥となすと云ふ。思ふに是等の昆虫は榮養、解熱の効あるは疑なきが如し。

螽斯（キリギリス）科　Locustidae

觸角鞭狀にして体より長く、單眼なし。右前翅に透明なる發音鏡あり。跗節は四個、前脛節に聽器あり。小形の種類は主として食草性なるも大形の者には食肉性のものあり。常に叢間にあるを以て綠色のもの多し。雄は晝夜とも鳴唧する。晩秋地中に產卵すれば翌春に至つて孵化する。後肢は强くして長い。

くさきり　Homorocoryphus lineosus Walker

アブライナゴ

体は淡綠又は褐色。体長翅端まで一寸五分內外。觸角は腹部の略二倍あり。後翅と前翅と略同長なり。成虫は盛夏の頃現出し、叢間に在つてジーと單調に鳴く。吾邦、支那、印度等に亙つて廣く分布する。

こほろぎ
ときりぎ
りす

きりぎりす　Gampsocleis buergeri Haan

ギス（京都）　ギース（志摩）　ハタオリ（大和同名アリ）
ギッチョウ（尾張）

体は長形にして翅端まで一寸三四分。綠色、褐色の兩樣あり。觸角は鞭狀にして体より長く、その基部に複眼あつて單眼を缺く。上顎大くして强し。翅は半透明にて尾端より微しく短く、右前翅に透明なる發音鏡あり。前肢の脛部に聽器を具ふ。後肢强くして長し。果實嫩葉等を食ふ。雄は夏月晝間盛に鳴く。ギイスチョンと聞ゆ。但し夜間にも鳴かざるにあらず。蓋し發音鏡の振動によつて鳴くなり。雌は長い產卵管を有し、晩秋地中に挿入して產卵する。卵は翌年春月に孵化して地上に出づ。變態は不完全なり。翅を疊む時は兩側面は綠色背面は必ず褐色にして中央に黑褐色の斑點、縱線に沿ひて發達せり。

本種はその鳴聲恰も地機を織る筬の如くなるを以て一名はたをりの稱あり。

きり〳〵す鳴くや霜夜のさむしろに衣かたしきひとりかもねん

歌は平安朝時代のきり〳〵すで、それは今のこほろぎである。奈良朝時代には矢張今日の如く、こほろぎはこほろぎと稱へたりしなり。「こほろぎの待ちよろこべる秋の夜を寢るしるしなし枕と己れは」と云へる古歌はこほろぎを訓みしものなり。

蟲蜥や聒々兒（クツワムシ）は蟋蟀（コホロギ）や金琵琶（マツムシ）や金鐘兒（スズムシ）などと共に美聲を發して鳴く、故に昔時より世人の賞玩せしものにて自然に野外に產ずるものの外に、人工孵化をさせて天然のものより早く發生せしめし關係上、仲には鳴聲も惡しく体力も往々甚だ弱きものもありたり。

くつはむし　Mecopoda elongata L.

ガチヤガチヤ（聒々兒）　クダマキ（紡績娘、同名アリ）

蟲蜥に似て稍大く、体長翅端まで一寸五分乃至二寸二分許。色も亦綠褐の二品あり。觸角は甚だ長い。頭頂甚幅廣く少しく前方に突出し、末端圓く、前額との間に一ノ細き橫溝があり。前翅は体長より遙に長く、幅も比較的廣く、翅脈は木の葉狀で、發音鏡頗大い。後肢は著しく長く、基部特に膨大す。產卵管は劍狀を成し八九分許にて多少彎曲す。此種の褐色のものは普通前脛の前方に數個乃至十數個の圓き、中室に數個の三角形の各黑褐乃至黑色紋あり。

八月中旬頃より出現し、九月に渉つて夜間叢間に鳴く。すゝむし、まつ虫等に比すれば如何にも男性的にガチヤガチヤと喧しく鳴く。

蟋蟀科 Gryllidae

蓋蜥に酷似すれど尾端に長き尾狀の二つの附屬物を具へ、これに關節を有す。跗節は三節より成り、爪間に吸盤なし。産卵管は錐の形を成して細く、末端は肥大せり。食草性のものと食肉性のものとあり。此類百種もあらむが今其著しき者を左に擧ぐ。

えんまこほろぎ Gryllus mitratus Burmeister

アブラコホロギ

体は黑褐色。体長七分乃至八分二三厘。頭の大部は黄色。觸角は暗褐色にして体長より遙に長い。前翅は少しく尾端より長く、その前緣室は三角形にて廣く、透明にて少しく黄色を帶ぶ。但し雄にては雲形の紋樣を現出し、雌の紋樣は細き斜眼の網狀をなし且つその後腿節は黄褐色なり。産卵管は体より少しく短くして黄褐色なり。歩行甚だ速に又よく飛翔する。

幼虫は六七月頃孵化し、九月頃成虫は蔬菜園に集り、其敷草の下に隱れ夕刻出でて盛に飛び廻り、雄はコロ〳〵〳〵ジーと繰り返して囀鳴する。胡瓜、茄子、豆類、蕎麥、其他の作物を食害して農業上有害なれど古來鳴虫として飼養愛玩せらる。雄は頗爭鬪性に富むを以て狹き箱に同居せしむれば共喰を爲す。幼齡の体は金屬光澤ある漆黑色にして三胸節の後緣に純白色の線あり。

此虫を捕獲するには大根畑、豆畑その他石の下などに居るものを手にておさへ、豫め用意せる袋又は籠等へ入れて持ち歸るべし。又彼等の果實の熟せるものなどを餌として集めとる事もあり。

○之を調理するには袋に入れたる儘、之を水中に吊して口中より黑き液汁を吐き出さしめたる後、下文いなごの條に記せる如き方法にて食ふべし。長野、福島の諸縣にては成虫、幼虫を共に食ふが、山形縣及び新潟縣北魚沼郡等にても現在蝗と同樣に食用すると云ふ。

△臺灣及び内地の或地方にては磨り潰して腫物に貼ると云ふ。

△長野縣を始め高知縣などにては痔疾並に解熱に煎用す。

△愛媛、大分等の諸縣内にては成虫を赤痢に藥用すと云ふ。

いなごの如く食用す

解熱

右の他、此類にはおかめこはろぎ、みいかどこほろぎ、大和こほろぎ、臺灣こほろぎ等あるが、各地方にて殆ど前者と同樣に使用するが如し。

おかめこほろぎ　Loxoblemmus arietulus de Saussure

前者より較小形にて体長四五分あり。体色灰黃、頭は黑くして頭頂に黃色の弓狀線を存し、顏は扁く、一見おかめの如くなるより其稱あり。單眼の部分に黃白の一大紋あり。前胸背に黑色紋を散在し、その兩側に黑條あり。翅を疊む時は兩側に黑條を現出する。脚に黑褐色の紋あり。甚だみつかどこほろぎに類似すれど、雄の頭部の突角は餘り著しからず。十月頃より現出して堤防その他光線の少き處に棲息してリリリリリツと續けさまに短く鳴くが、聞き樣にてはヂヂ、、、とも思はれる。吾邦を始めジヤワ、スマトラ邊にも產ずと云ふ。

みつかどこほろぎ　Loxoblemmus doenitzi Stein

体長六七分。黑褐色にて黃色紋を裝ふ。頭部の前緣は黃色。顏は扁くして大く、菱狀を呈し、その中央に橙黃色の小紋があつてその中に單眼あり。前胸背に黃色の不定紋を具へ、その側緣も亦黃色なり。前翅は暗色、半透明にて腹端に達せず、前緣は灰白色透明なり。脚は淡褐色にて褐色紋を裝ふ。通常塵埃の中などにあつてリリリリと短く鳴く。此種は雄の頭部に三角の大なる突角のあるによつてあらはる。

つゞれさせこほろぎ　Gryllodes berthellus Saussure

コホロギ

体長五六分。雄の体は暗色。單眼の部分、その直下の一字形の紋、頰、兩鬚、觸角の附着部及び後頭の四縱紋は白色乃至黃白色。前胸背に黃白色紋を散在し、短毛及び剛毛が多い。前翅は腹部より少しく短く、斜脈は三個、鏡砲は稍四角形にして人字形の横脈あり。体下及び脚は黃白色。後脛節の上面は暗色。鱗は前胸背の兩側は黃白色、翅は腹部より短く、後翅は退化せり。此種は何れの地方にも普通にして八月頃より現出し、十一月中頃に至り、霜を見るも尙暖き日には出でてリユーリユーリユーと續けて鋭い聲にて鳴く。古來つゞれさせと名付しはその鳴聲が恰も褸衣させと歌ふ樣に聞えるから其名を附けた者である。

臺灣こほろぎ　Brachytrupes portentosus Licht

体長一寸乃至一寸四分。色は暗褐。頭は前胸より廣く、後頭は膨大し、複眼の間にY字形の紋あり。觸角は長くして後脛節に達す。前胸背の前方は廣く、前緣は弓狀に刳られ、中部に細き一の縱溝を具へ、その兩側に各一個の楔狀部がある。後肢の腿節は廣く、脛節は短くて、棘刺多し。產卵管は短小なり。此種は臺灣及び南洋地方に產じ、臺灣にては甘蔗及び陸稻に大害を與へると云ふ。常に地下に深き孔を穿つてその中に住し、夜間出でて食害する。

○臺灣にては炒つて粉末となし、御飯にかけて食に供する。

すゞむし　Homoeogryllus japonicus de Haan

金鐘兒　月令兒

体長六七分。やゝ長楕圓扁平なる昆虫にて松虫が苦瓜の種子ならば、鈴虫は西瓜の種子とも認むべき形態なり。頭部小く、觸角は絲狀にて体長に二倍し、その基部は黑色、末端黑褐色にて中間は黃白色を呈する。雄は雌より体小なれども、前翅甚長くして前緣內方に折れて腹部を被ひ、翅脈は波狀を呈し翅を水平に疊む。雌のものは腹部より僅に短く、網狀の翅脈なり。脚長く後肢最よく發達し四跗節あり。腿節の基部は淡色なり。後翅は退化し尾毛は長い。

七月頃より秋に渉りて叢間或は堤防。石崖等の草間に現出し、夜間愛らしき聲を出してリーン〳〵と數回つゝ續けて鳴く。發音器の鑪狀部發達最精緻にして鳴虫界第一人者と言ふも過言に非るべし。市中の蟲屋にては松虫、きりぎりす、くつはむし等の鳴虫と共に人工孵化にて飼育して販賣せり。

まつむし　Dionymus marmorata de Haan

金琵琶

体淡褐色にて楕圓形扁平、長五六分。頭に微毛を密生する。雌雄形を殊にし、雄は觸角長くして体長の約三倍あり。前翅の前緣は內方に折れて腹部を被へる事鈴虫に等し。頭の兩側に褐色紋あり。背面部雄は廣く三角形の末端部を有し、前翅に數個の黑色紋散在し、前翅の兩側に黑色の縱線發達せり。雄の前翅甚大にして尾端に達し、帶黃色にて多少尖る。發音鏡

は中大にして直角に彎曲せる一横脈あり。雌は觸角短く、前翅には八本の斜縱線脈を有し、不規則なる粗横脈を有するのみ。肢は細長。産卵管は細き直線狀をなし少しく上方に向ひ後腿節と等長なり。

八月頃より現出し叢間にあつて夜間チンチロリン〳〵と靜寂を破つて美聲にて鳴く。野外屈指の奏樂家にて鈴虫と東西の大關たるべし。

松虫と鈴虫

松虫と鈴虫　昔はチンチロリンと鳴く方を鈴虫と呼び、リーン〳〵と鳴く方を松虫と云ひしなり。齋藤彦麿の物せる片廂にも「當時褐色にして髭長く腹黄にしてチンチロリンと鳴くを松虫と云へどこれ古の鈴虫なり。鈴ふる音の如く聞ゆればなり。又色黑くして首小く尾大にして背すぼみ腹黄色にしてリリリンと鳴くを鈴虫と云へどこれ松虫なり。そは松風の音に似たる故なり」と證せり。

かんたん　Oecanthus longicauda Matsumura

邯鄲

体細長く体長五分許。淡黄綠色の綺麗な昆虫なり。頭頂は黑褐色、觸角は甚長くて体長の約三倍あり。前翅は半透明にて腹部を被ひ、後翅は長くて前翅より大く、その外に突出する。産卵管は三分許。成虫は七月頃より現出してフイヨロフイヨロと繰返して優しき聲で鳴く。山間の薄などある場所に普通に見られる。

かねたゝき　Liphoins kanetatako Matsumura

体長三分許。頭部及び胸部は淡褐色を呈し、腹部は鱗にて被はれて銀白色を呈する。雄の前翅は甚だ短小にて第二腹節に達するのみ。雌にては全く之を缺く。後翅は兩者とも全然退化せり。尾毛は略体長に幾し。脚は灰褐色の鱗にて被はる。産卵管は殆ど直線狀で斜めに背上に行く。八月頃より現出し、生垣などの小枝に靜止し、閑寂を破つてチンチンチンと鳴く聲恰も鉦を敲くが如し。往々室内にも入り來つて鳴くが、仲々一寸その所在の確的に知り悪い虫である。

本種は柑橘等の害虫にして、樹皮上より直徑一分三四厘、深さ二分位の孔を穿つて産卵する。

まだらすゞ　Nemobius nigrofasciata Matsumura

体長二分許の小虫にて、黒褐色を呈するも、後脚灰褐色に黒斑を存する故に其名あり。六月頃より現出し、芝生などにてジーと鳴く。その聲細くして優し。一種これに似て更に較小く、黒斑なきものを大和すゞと呼ぶ。

くさひばり　Paratrigonidium bafosciatum Shiraki

キンヒバリ

大体蟋蟀に似て小く、長一分五六厘に過ぎぬ。黄褐色にて灰褐色の不規則なる斑紋あり。頭部、脚部及び脚等には黒色の剛毛あり。前翅は腹部に達する。晩夏より秋にかけて草間地上に晝夜を分たず、フイリ〳〵〳〵と可愛い聲にて鳴く。雌は木の髓中に夕方より夜間にかけて産卵し、産卵し終れば土を卿へ來つて唾液と混ぜて樹皮の面に塗りつけ、卵を隱すと云ふ。

蝗蟲科（バッタ）　Acridiidae

觸角は絲狀若くは劒狀にて短い。後腿節は膨大して跳躍するに適する。第一腹節の基部に聽器あり。雄にては普通後肢を前翅の兩側に摩擦して音を發する。産卵管は短く、尾狀の附屬物は環狀をなさない。吾邦に約百種あり。何れも稻その他の食草蟲である。

はねながいなご　Oxya velox F.

稻田に普通。体長翅端まで雄にては一寸内外。雌にては一寸四五分。黄綠色を呈す。前胸の兩側に褐色の太き縱條を有し、複眼より後方は聽器まで亙れり。前緣中央には弓狀の缺刻がある。前翅長くして、腹部の外方に出づ。發生は年一回、卵子は黄色圓柱狀を呈し、長一一耗幅九耗内外の楕圓形の卵鞘内に數列を成して凡そ三四拾粒を存し、その儘越年して翌年五六月頃より孵化して苗代に集り、次で本田に移る。此頃最被害あり。遠く飛翔することなきも強き脚を以て盛に跳躍する性あり。炎天が續けば被害甚し。八月頃に至り

蝗蟲科、はねながいなご

三四回の脱皮を終れば次で翅を生じ、秋季田圃の畦畔、路傍若くは堤防等の土中に産卵す。之を驅除するには老成せざる中に網にて掬ひ捕るか秋季産卵の爲め出掛くる時之を打殺し、或は尾端を土中に挿入して産卵せる疑ある時に掘返して卵を處分すべし。或は石油を一反歩に一升位の割合に灌ぎて幼虫を打落せば一般害虫驅除には有効である。且つ金線蛙（トノサマガエル）は好んでいなご類を捕食するの効あり。

いなごの食法

こばねいなご　Oxya vicina Brunner von Wattenwyl

頗前種に似たれど体やゝ小く、成虫の前翅の長さは腹部を超ゆることなし。兩胸背の中央は縊れる事なく、側片の上縁は廣く、黑褐を呈し、後腿節の短大なるにて區別せらる。臀部は黄綠、他は淡褐なり。北海道を除き本邦至る處に産ずる。

いなごの利用

○吾那各地方にて多少ともいなごを食はぬ處はなく、殊に魚貝類に乏しき山間地方にては多く利用せられて居る。

○捕獲後一兩日間布袋に入れ置いて脱糞せしめたる後、熱湯に浸して殺したものを陽干となし、翅、脚等を除去して鍋に入れ、炭火上に焙つて餘り焦げつかざる程度にて、その香味宜しき時をはかり醤油を加へて味を附けるか、更に砂糖をも加える場合には放冷後粘濕ならざる程度にて之を食する。又湯に浸したる後食鹽にて加味した儘食する事もあり。又翅、肢を附けたる儘之を使用する。記者は決して翅、脚を去つた事はない。而して直に使用せざる場合には陽干の後貯藏しおくべきである。

いなごの辛子漬

○群馬、埼玉及びその他には別に成虫を竹串に刺し炙つて之を用ふ。或は串を用ひず炮烙にて炒り、醤油又は味噌を附けて食しても佳味なり。人により辛子漬ともなす。

いなごの販賣

○宇都宮地方の話を聞くに大正の頃乾燥いなごの翅、脚あるものにて一升拾五錢、翅、脚を去つたるもの一升貳拾參錢にて販賣し、埼玉縣北葛飾郡の早稲地にては乾燥物を東京へ出せる量仲々多かつたが、事實上、そのいなごの中にはばつた類も加へられたる形跡がある。

○記者の居る名古屋地方にては時局に際し一層需要者が増加して來て、昨年冬の如きは串刺にしてデパートにて販賣する樣に成つた。しかも仲々に高價である。

咳止、解熱、貧血の妙藥

△古來小兒の疳藥として最多く使用せられた。恐くは榮養の効は多大なるものあらむ。

△又咳止、解熱、貧血の名のある病に向いて利用せられた。

頭瘡、乳癌の藥

△淋巴腺腫脹には黒燒粉を酢にといて紙にのばし一日二回貼り代へるのである。

△子供の頭瘡にはいなごの黒燒を胡麻油にといてぬる……經驗千方。

△乳癌には雀の丸燒、蚤の黒燒、右よくすり合せ、即飯少し、梅干の酢にて塗布する……妙藥博物筌。

輝、霜燒の藥

△戰、霜燒には蚤を黒燒となし胡麻油にといてぬる……掌中妙藥集。

△又云ふ、霜燒の妙藥にはいなごの黒燒に朱を少しまぜといてつける……醫便大成。

△痔疾には蛇骨黒燒、蚤黒燒、川蟾黒燒、耳貝黒燒、黄牛の糞黒燒、右を熊膽にてつくねかため置き、胡麻油にて穴痔に塗布する。万の痔にもよろし……妙藥博物筌。

腹膜炎用

△腹膜炎には紫蘇の實一握り、葱の白根三四寸のもの二本、椎蕈徑一寸余のもの二個、干瓢三四寸のもの二筋に蚤三匁を合せ煎じて一日に三回に分服する。

婦人病

△產後母体に浮腫の出來た時にはいなごを捕り火に焙り佃煮となして食してよし。一般に婦人病によしとも云へり。

呼吸病用

△蝗をとり焙つて佃煮となせば肺病の初期の如きに向ひて榮養の効多大なるべしと信ずる。古來痰藥に蚤味噌を作つて之を與へたものである。

△刺拔にはいなごを黒燒粉となし又は生汁を取つて之を使用する。

たんぶばつた　Atractomorpha bedeli Boliver

雌は体長翅端まで一寸乃至一寸四五分。雄は九分許。体色綠色のもの多けれども往々淡褐色のものがある。交尾の際、否その際にあらずとも雄は雌の背上に在つて恰も母が子を背負へる樣なる故にその名がある。觸角は基部稜柱狀にて短い。內地より朝鮮、八丈島等にも普通に見られ、畑地に在つて大に野菜を食害する。

螳螂（カマキリ）科　Mantidae

体長く觸角も長い。前肢甚しく長く發達して鎌狀の捕獲肢と成る。複眼は圓く、別に三個の單眼を有する。雌の產卵管は隱れ、尾狀の二附屬物は環節を有する。何れも食肉性にて農家の益虫である。種類が多い。今その數者を記載する。

かまきり　Paratenodera aridifolia Stoll

ナミカマキリ　イボムシ（奥羽）　イボジリ　イボサシ（肥前）
カヤギツテフ（東京）　ハイトリムシ（同名）　螳螂

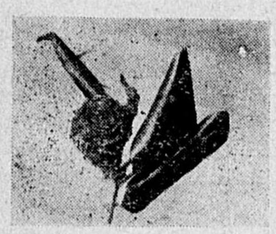
体長翅端まで二寸三分乃至二寸六分許。大かまきりに比すれば頭小く、体も細い。背は長大側縁の水平部甚しく幅狭く、その齒列は低く、中央の縦隆起は判明でない。前翅は膜質、尾端の後方に少し延び著しく細狭となる。前翅の横脈は細く、少しく粗、前縁は廣くて黄白色なり。後翅は淡褐、透明で褐色の横脈太くその周圍少しく褐色を帯ぶ。基部に黒色の大紋がある。

觸角は短く、殊に雄に於て然りである。

螳螂は卵を塊狀に產み附けるが、それを卵鞘と稱する。俗にをじのふぐり又はうじのふぐりとも云ふ。其形狀は種類によつて少異がある。恰も乾きたる麩の樣に見ゆる灰褐色のもので外被は極めて硬質である。なみかまきりの卵鞘は水田の附近の小灌木や雜草等に多く發見られる。それを捕つて保存しておけば來春に至り幼虫の澤山孵化し出づるのを見られる。

螳螂は交尾中に雄が雌に食はるゝことがある。

おほかまきり　Paratenodera angustipennis Sausser



おほかまきり

休長二寸五六分前後。綠色若くは黄褐色。前胸は翅の半より少し長く、前方の三分の一は廣く、兩側に鋸齒狀の小齒を列ね、中央に縦溝及び彎曲せる横溝を具へ、後方に於ける三分の二の背上に一の縦の隆起がある。前肢の基節間は橙黄色にて跗節の内側に黒褐色の紋がある。前翅は腹部より長く、脈は不定の紋を有し甚だ微小である。その前縁は黄色。後翅は半透明にて横脈の一部は褐色を呈する。本種は最大の螳螂だが餘り太くはない。樹枝又は竹枝等に多く卵塊を產み附けるが、その形稍不正なる圓形にして、その實質は柔軟にて恰も海線狀を爲す。

こかまきり　Statilla maculata Thunb

休長一寸五分乃至二寸。黄褐色。觸角は短く、後頭は一の黑帶あり。前胸背の前方三分の一の處に於いて膨大し、その兩側に判然せる褐色の小齒を列ね、中央の縱溝は餘り高くない此種は前肢の腿節內面の基部及び脛節內面中央に漆黑色の紋あるによつて容易に他種と見分けらる。普通の種類で卵鞘は半月形丘狀を呈し、約參拾室を含み、各室に四個つゝの卵を容る。

腹びろかまきり　Herodula patellifera Serville

休長一寸七八分乃至二寸二三分。綠色なり。大顎端は黑色、頭は長大にて前額は五角形に近く。後方の兩側は暗色を帶ぶ。觸角は細くして短い。前胸は短平にして著しく兩側に膨大し、兩緣に鋸齒狀の小齒を列ね、兩緣に近く橫溝を有し、この溝より前方には縱溝を存し、後方には低い縱の隆起がある。前翅は幅廣くて末端は丸い。翅紋部は明にして細長く、黃白色を呈し、後翅は殆ど白色半透明である。此種は腹部の大なる故に其名がある。且つ前胸の腹板に二黑帶を有する。本種は吾內地より臺灣、爪哇、比律賓等に亘つて分布する。卵鞘は不規則な圓塊を成し內に約二十八室を含むと云ふ。

すかしかまきり　Mantis religiosa L.

ウスバカマキリ

休長一寸七八分乃至二寸一二分。綠色乃至淡螢綠色。前胸は翅の約三分の一長あり。前胸背は中央の處にて雄にては幅の三倍半以上にて、雌にては約三倍の長あり。かくて前端は狹く次第に幅を增し、前方の三分の一の處にて最廣く、而して腹部は仲々長細く、頭胸部の和と殆ど等長である。後方三分の一の背上に縱の隆起を見る。前翅は腹部と長を等しくするも後翅は少しく前翅の後に延ぶ。而して前肢は綠色、不透明なれどもその後緣と後翅とは透明にてたゞ後翅端及び前緣には少しく不透明の部分がある。尾毛は細長にして尾端より著しく後方に延びて居る。

此種は吾邦內に見るのみならず、世界各地に普遍の品にして其餌を待つ間、前脚を少しく

前方に差し上げて靜止する姿は誰も氣の附くことなるが、歐洲にては祈りの昆虫としてその傳說がある。

かまきりの傳說

（傳說）螳螂は性慓悍にして敵を見れば、己の力を圖らずして之に向ひ、首を上げ斧狀の兩臂を揮つて突擊をする。昔齊の莊公、獵に出た時螳螂が兩臂を擧げて馬車の輪を搏んとした。公之は何物ぞと問へば、御者、これは螳螂と云ふ蟲にて性勇悍、進む事を知つて退く事を知らずと應へた。これを聞いた莊公が、これ實に天下の勇士であると云つて車を廻して之を避けたと云ふ有名の說話がある。

○かまきりはその種類を區別することなく、蝗と同樣にして又はいなごと併せ調理して之を食ふ。

小兒の藥

△かまきりは小兒の疳、驚風、大人の僂麻質斯の鎭痙乃至鎭痛劑として使用せらる。大人一回の量三乃至五瓦なり。小兒には螳螂を捕へ乾燥して貯へおき燒いて味をつけて食はしむるを可とする。

涎止め

△かまきりの小兒の涎止めに用ふることは古來有名であるが、卵塊も同効あり。燒いて粉にして飲ませてもよく又塗抹しても可なり。

△刺のさゝつた時には、螳螂の体又は卵塊を黑燒となし唾液と練つて局部に貼布する。

△或云、かまきりの頭をすりつぶしてその儘傷の上に貼布すれば拔ること妙なりと。

△打撲傷及び僂麻質斯には螳螂の乾燥せる者を水仙の鱗莖とをすり潰したる者とを練り合せ患部に貼附する。

脚氣用

△鼠に咬まれた時にはかまきりをつぶし饂飩粉と煉つてつけてよし。

△脚氣病には黑燒又は乾燥したものを煎藥となし、或は燒いて食せ、或は粉末となしたるものを酢と練つてその局部或は足の裏に貼布して効ありと云ふ。

咳止用

△肺病、肋膜炎、その他咳止めに乾燥品を煎服せしめ或は醬油附燒となして之を食はしめる。

陰痿、遺精、遺尿、經閉

△桑螵蛸　此は桑樹の枝梢に產み附けられた卵塊の事である。藥店に販賣せる桑螵蛸なるものは必しも桑の樹枝より取つた者ではないが、尙桑螵蛸の文字を用ふる。此物は古來、陰痿、遺精、遺尿症及び月經閉止等に向つて和漢共に使用して來た。一回の用量一・五瓦乃至四瓦許である。

利尿

△桑螵蛸者螳螂子房生桑樹枝者入藥用、味甘平、肝腎命門藥也（中略）村人每炙焦飼

小兒云、止夜尿、蓋能通五淋、利小便又能治遺尿遺精也……本草綱目。

刺抜　△刺を抜くには蟷螂の腸をとつてつける。若し蟷螂なければからすのふぐりの眞中に在るものをつける……梅花。

△さゝくれの出來た時にはかまきりの体を搾りその汁を塗布してよし。

禿頭病　△三重、靜岡、和歌山その他、吾中部地方にては眼病及び他の解熱に用ふ。臺灣にては豚肉と一緒に煎じて飲用すると云ふ。

△禿頭病者は虫体を椰子油と共に煎服して効ありと云ふ。

蜚蠊科 Blattidae

体は扁平、楕圓形をなし、頭は多くは前胸下に蔽はれて見へず。觸角は鞭狀にして長い。複眼は腎臟形にして普通單眼はない。脚は扁平。雌は短大なる稜柱狀の產卵管を具へ、尾端の二附屬は環狀をなす。此虫は屋內に居て動植物性の貯藏物を以て食として居るが又野外に棲息するものもある。この場合には落葉下、その他倒木などの下に發見せられる。

ちやばねごきぶり Phyllobromia germanica L.

体は翅端まで四五分。光澤ある黃褐色。複眼の中央に黑き横帶を具へ、前胸背は半圓形にして二黑條がある。前翅は遙に尾端より長く、後翅の末端脈は少しく褐色を帶ぶ。厨房の食物其他衣類等に大害をなす。此種は世界共有の害虫にして室の內外に產じ、船中にてもその繁殖するのを見られる。

此動物は野外にも居れど、多くは室內特に厨房の戶棚の中などに棲息して食物を害する。性光を忌み、常に暗所に居り、晝間は潛伏するも夜に入れば盛に活動し、少しの間隙あれば飯櫃や砂糖壺等の內等に闖入したり、皿や椀などに入れてある食物を遠慮なく盜んで食ふ。殊に脂肪質を好み、皮製のかばん等までも嚙るを見る。屢々船の厨房內に繁殖することあり。その害を防ぐには先づ厨房を淸潔にし、且つ食品及び器物等を能く整理しておく事である。又見付次第に之を打ち殺すの外、油の類又は彼の好める物を適當の壺の底部に容れおきその壺の口の內面に鳥黐を塗りおく時は捕獲し易い。その他種々の陷穽を用ひるか或は藥劑を應用して之を驅除する。即ち食物の屑に硼酸をまぜて適當の場所へ置いておけばそこへ來

て食べて死んで仕舞ふ。

（異名）　ごきぶりは一般に蜚蠊の漢字を用るが、石蠶、蘆蟹、負盤、滑蟲、茶婆蟲、香娘子等の支那には異名がある。邦名にてはあぶらむし、平八、あまめ、ごきかぶり等と呼んで居る。

蜚蠊の卵鞘は通常やゝ長方形の巾着形で、約四拾粒の卵子を二列に配置してある。彼は之を鞘のまゝ疊の間や、戸棚の間隙或は他の器物の間隙等へ産みつけて行く。しかも此類には人類に寄生する一種の條虫の中間宿主たるものありと云ふ。

わもんごきぶり　Periplaneta americana L.

休長一寸乃至一寸二分。色は赤褐乃至黑褐色。觸角、兩鬚及び休下は黃褐色。複眼の內緣及び上緣は黃色。觸角は休と同長　前胸背は稍圓形にて赤褐色の三縱紋あれど、餘り鮮明でない。翅は大くて尾端を超え、網目狀の細き隆起線を有する。廣く東洋諸國に分布し、厨房に集つて食物を盜み食ひ、又よく動物標本などをも食害する。走る事速なれど飛翔することは稀である。之を捕ふれば一種不快の臭氣を放つ。

くろごきぶり　Periplaneta picea Shraki

休長八寸五六分乃至一尺。濃栗色にして短大なり。頭は殆ど現はれて見えぬ。前胸背は半月形に近く、後緣明に圓く、稜狀部なし。腹部は腹面に太い一の縱隆起部がある。觸角は休長より長い。前翅は單色、後翅は前翅末端に達し、少しく淡色である。後肢脛節は腿節と殆ど等長であり、尾毛は比較的大にして三角柱をして居る。吾內地東京以南に產ずる。

さつまごきぶり　Opistoplata orientalis Burmeistey

タイワンミヅゴキブリ

休長八分乃至一寸三分許。大形扁平の漆黑色の品種である。頭は外に現れず。前胸背は大く、半圓形にして後緣の他は多少反り、幅廣く黃色。中後兩胸背板は短くて後緣は少しく彎曲する。腹部は頭胸の和と殆ど等長で側線は幅廣く赤褐色である。亞生殖板は雌にては大形

にて幅廣くして後緣は圓い。觸角は短く細くて褐色である。肢は細く、腿節下緣の刺は細小にして少い。尾毛は微小にして環節を成さず。前後兩翅共に中後各胸背節の側線に附屬し、末端尖り、角質にして小點刻密布し、黑褐乃至赤褐色である。

此種は鹿兒島、屋久島から、支那、ジャワ、印度等に蕃布し、低地の野外に棲息し、枯木の皮下、朽木の下、石木葉等の間隙に靜止して居り、幼虫は水邊に見られる。

△支那藥店に販賣する地鼈蟲に二種あり。小形のものは蜚蟲と稱し、學名を Polyphago sinensis Walker と稱し、大形のものは正蜚蟲と稱するが、此さつまごきぶりなりと云ふ。

蜚蠊の利用

△蜚蠊　鹹寒有毒。恭曰辛辣而臭。瘀血癥堅寒熱破積聚喉咽閉塞、無子……本經。

△通利血脈……別錄。

△食之下氣……蘇恭。

△信州邊にては小兒の驚風に成虫を藥用とし或は風邪にも用ひる。

△臺灣にては內臟をとり去り、そこに食鹽を詰めとみ燒いて風邪の藥にする。

△又頭を去つて休を飯椀に入れ、熱湯を注ぎ、その汁液を蟲休と共に飲用す。

驚風の藥

風邪の藥

榮養

霜燒の藥

△或は頭と腸とをとり去り、食鹽を塗り燒いて胃腸病の患者に與へる。

△霜燒、雪燒等にごきぶりの休をすりつぶしてその液を患部に塗る。

蜻蛉類 Odonata

口は發達して咀嚼に適する。翅は膜質で細い網狀の脈を具へ、前翅は後翅より小なれども亦同大のものあり。前緣の中央に結節あり。雄の尾節には二雙の短き附屬器物あり。交尾器は第二腹節に位し、生殖口は第九節にあり。幼虫は水中に住じ、俗に之を水蠆と云ふ。

蜻蛉科 Libellulidae

靜止する時に翅を水平に開置する。後翅は前翅より大く、前翅に於ける三角室の前緣は短くして後翅の三角室とは大に其趣を異にする。複眼は頸頂に接すれども後頭は判然せり。雌に產卵管なし。常に一定の場所に飛翔若くは靜止して遠方へ徘徊することなし。幼虫の下唇の中葉は小にして兩側葉によりて掩はれ、その末端に可動の鈎狀突起なし。種類百を以て算ずる。普通好んで赤卒を藥用となせど單に一種にあらず。今その數種を記述する。

なつあかね　Sympatbrum darwinianum de Selys Longchamps

腹長八九分。後翅長一寸内外。体色雄は赤く、雌は黄褐色。單眼の部分は黒色。顔は黄色、雄は赤褐色。中胸の両側に黒條があつて其中間は淡色である。翅は透明で、縁紋は暗色なり。雌の両翅底の基部は赤褐色。腹部は体と同色にて両側に黒條を具ふ。雄の尾部の附屬物は黄色にして緩く屈曲する。脚は黒色なるも前腿節の内側及び中後の両基節は暗黄色である。

本種は五月より十月に亘つて吾本州に最普く現出するが、七八月頃甚だ盛なり。殊に草地森林内等に空を低く飛翔する。此種は支那にも産ずる。

赤卒の利用

夏あかね、みやまあかね、あきあかね、まゆたてあかね、のしめとんぼ、しやうじやうとんぼの類は其体色多少赤色を帯ぶを以て世人何れも之を赤卒と稱して同一目的に向つて利用すること左の如し。

△相傳、赤卒（深赤者）燒末用能治喉痺及小兒口舌病、其神効。本草曰強陰止精壯陽痿水

喉痺の藥

臟不載治咽喉。然家秘藥、如此者不少……倭漢三才圖會。

△扁桃腺炎、百日咳、喘息等すべて口中の加答兒には黒燒粉として筆の軸の如きものにて咽喉に吹き込んでよし。分量は輕きものは笄の耳掻に二三杯。また咽喉痛みて血の出づる程の時には二三疋を黒燒として咽喉の奥の方へ塗布することあり。

△愛知縣、新潟縣、岡山縣、茨城縣、和歌山縣、山口縣を始め、他の地方にても此種と共にしやうぐゝとんぼ、みやまとんぼ等も赤卒と稱へて、其成虫を或は痳疹に用ひ、或は喘息に、小兒の風引に、ヂヴテリアに、扁桃腺炎等の時、燒いて之を食はしむ。解熱の効がある。

△腫物には赤卒の黒燒を飯粒と練つて貼る。又撞眼の時にも用ひる地方あり。

△新潟縣などにても咽喉に魚骨の刺した時、之を除くに用ひ、又一般に咽喉腫れの時に用ひる。

△山地の村々にてはやごを燒いて食用とする。

みやまあかね　Sympetrum elatum de Selys Longchamps

腹長七八分。後翅長約一寸許。体色雄は赤く、雌は黄褐色。顔は黒く中央のみ黄色である。胸部は黒色又は黒褐色にて側面に三條、前翅の基部に近く黄條を裝ふて居る。翅は透明にて外縁に近く太き褐色帶がある。翅脈は雄は赤褐色にて雌は黄褐色、そして雌の腹部には小形の黒斑がある。縁紋は雄にては赤色、雌は黄色。腹部は雄にては第二節太くして後方に次第に細くなり、第二三節は黄白又は鮮黄色にて、雌の第二節は雄のものより遙に小なり。脚は基部を除いて黒色である。吾邦にては北海道より九州にまで分布し、山地附近に極めて普通である。

△新潟縣等にては此種をも赤卒と稱して、成虫を咽喉の腫や魚骨の刺さつた時、之を除くに用ひ、又小兒の咳止めともする。

△佐渡邊にてはなつあかねと共に赤卒と稱へ、燒いてその粉末を藥用となす。

まゆたてあかね　Sympetrum erotlcum de Selys Longchamps

腹長七分四五厘。後翅長八分許。体は黄色、顔面黄色にして額に一對の黒斑ありて一見眉を立てたるが如し。前胸の三縦條は黒し。雌にては胸部の側面に各二黒條を裝ふ。腹部は黄褐色。雄にては殆ど無斑なるも、雌にては腹側に黒條斑發達せり。翅は透明、翅脈は黒色、縁紋は暗色、翅底の基部は黄褐色。雌にては翅端暗褐なり。胸腹共に細型にして雄の尾部上附器は中途より急に直角をなして上方に折れ曲れり。本種の夏型は胸部鮮黄、腹部橙色で秋型の者は胸部暗赤色、腹部鮮紅色で甚大なり。信州邊にては前記のとんぼうと共に其幼虫をザザムシと稱へて食用にして居る。

のしめとんぼ　Sympetrum infuscatum de Selys Longchamps

稍大形の赤卒で腹長八九分。後翅の長一寸乃至一寸二分許。顔面に一對の眉斑あるも眉立あかねの如くに濃色でない。体色雄は黄褐、顔は黄色。單眼の前方の二黒帶の他、上唇の中央なる一紋と下唇外葉の接合部及び内葉は黒色、又胸部の接合部は黒色である。翅は透明に

て少しく紫色を帶び、緣紋より外部は先端まで濃い褐色をなし、翅脈は黑褐で緣紋は褐色である。胸側は鮮黃色で三條の黑色部がある。雄の尾上附器はまゆたてあかねの如くに上向せず。此種は北は北海道より南は九州に至るまで、七月頃より十月頃まで現出する。眉立あかねの樣な他の類似品と混棲して居るが、又甚だ混同し易い種類である。

○此種も赤卒と稱して燒いて小兒に與へる地方がある。

○此類の外、長野、福島諸縣の地方にては積翅類のかはげら、かげろふ及び毛翅類のへびとんぼ其他水棲昆虫は一般に其幼虫時代には之をザザムシと稱へて、多數のものを同時に多く捕獲して、之を醬油にて煎り付け、佃煮の如くにして食用に供する、脂肪にも富み大に地方人の嗜好に適すると云ふ。

○是等のものを捕獲するには川を乾して下方に笊、魚籠の類をおき此に集めて捕へる。その方細い目の網又は蚊帳とさで樣のものを作つて、それを下流に立ておき、一人は上流より小石を攪拌しつゝこゝに追ひ込んで捕へるのである。尤あとでまじれる塵芥などを取り、去つて之を使用する。二三月頃盛に捕食すべしと云ふ。

しやうじやうとんぼ　Crocothemis servilia Drury

腹長九分乃至寸許。後翅長一寸二三分許。体雄は紅色雌は黃色。翅は透明なれども基部に殊に美しき橙色斑があつて、後翅のもの又雄のもの殊に美あり。緣紋は雄は黃褐色に少しく綠色を帶んで居る。脚は暗黃色なり。成虫は五月より九月に渉つて北海道の外、各地に產じて俗名あかとんぼの一に加へられ好んで畑地、水田その他水邊を飛翔するが又よくその靜止するのが認められる。漢名赤卒。

○此種も長崎、岡山、德島、愛媛、京都、愛知の諸縣を始め、他の諸地方にても尙赤卒（アカトンボ）の一に數へて使用せらる。

△長崎地方にては此種をも赤卒と稱へて、その乾燥せる粉末を實扶底利亞患者の咽喉內に管で吹き込むのである。

△和歌山地方にては方言うめぼしと稱し、成虫をじふてりあに藥用する。

△岡山縣にては夏あかねと共に赤卒と稱して成虫を咽喉病、撞眼、解熱、咳止、扁桃腺炎等に使用する。

きさんぼ

△德島縣内にては成虫をあかとんぼと稱して梅毒に藥用する。

△愛媛縣にては耳痛、實扶底利亞、百日咳の外、尙赤痢の節、赤卒と稱へて成虫を藥用とする。その方は炙つて粉末を白湯にて服用し、或は翅を除き黑燒にして服用するのである。

△近畿地方にても成虫を赤卒と稱して口中の病及び神經痛、咳等に藥用に供する。

△愛知縣にても此種に類似せるものは概して赤卒と稱して、之を乾燥して煎服し、或は粉末のまゝ又は黑燒となして服用する。

きさんぼ Sympetrum croceolum de Selys Longchamps

腹長八分内外。後翅長一寸内外。中形の全部橙褐色の美しい種類である。顏は橙黃色、黑色の短毛を密生する。胸部には斑紋を缺き、兩翅とも基部半分及び前緣に近く橙色を呈する。緣紋は暗褐色。其前後の脈は黑色。脚は暗黃。刺毛及び爪は黑色である。本種は北海道より九州を經て朝鮮、支那に亙つて產じ、殊に高き山地に八月から十一月頃まで普通に見受られるが、餘り多からず。

あきあかね Sympetrum frequense de Selys Longchamps

アキトンボ

腹長九分餘。後翅長一寸内外。頗夏あかねに似たり。されど顏に二個の黑紋なし。胸部前面褐色にて側面黃褐色、各側に三個の黑條を有する。顏面は汚い黃色を呈し、下唇も亦黃色なるも唯その中片のみ黑色である。翅は透明なるも時に翅端にやゝ黑味を帶び、翅脈黑褐、緣紋褐色。腹部は比較的幅廣く、黃色又は赤色にして側邊はやゝ黑い。但し雌にては各節に此黑色部が發達して居る。肢は黑い。北は北海道より南は九州に至るまで普く分布するが、殊に北海道に多しと云ふ。八月頃より出てゝ秋季遲くまで生息し、出現の初期には体黃色なるも後期には鮮紅色に變じ、秋季盛に群飛するを見る。

しほからとんぼ　Orthetrum albistylum de Selys Longchamps

最普通に居る蜻蛉にして腹長一寸乃至一寸三分。後翅長一寸乃至一寸三分許。雌雄色彩を殊にして居る。雄をしほからとんぼ、雌をむきわらとんぼと云ふ。雄は胸部及び腹部に灰白色の白粉を裝ひ、腹節後部の四節は黑色にて白粉色なし、胸部側面は暗黃色を呈し、三條の黑條を有する。翅は透明、翅脈黑褐色で緣紋は僅に淡色である。尾部上附器は黃色。雌は黃色を呈し、腹部の兩側に顯著なる縱條を存する。とんぼ類の雄は腹部第二節に交尾器を存し雌は腹部の第八節に生殖口を有するものである。此種は北海道の他吾邦各地方に產ずる。

△赤卒の類は前記の如く各地方にて喘息等に藥用せらるゝが、德島地方にてはその他に此種をも喘息に藥用すると云ふ。

脈翅類　Neuroptera

前後の兩翅は略同大或は後翅稍大。兩翅共に薄い膜狀を呈し、翅脈は網狀によく發達する。口器は咀嚼に適し、腹部には尾狀突起を呈へず。前胸節は自由に動き、腹節の數は八又は九である。變態は完全にして幼虫は水棲のものと陸棲の者とあり。以前には蜻蛉の類などは此目中に組み入れしも今は他目に移せり。

蛟蜻蛉科（ウスバカゲロウ）　Myrmeleonidae

觸角短く、棍棒狀をなし、複眼は小く、横溝によりて分離せらるゝことなく、顏に長毛なし。翅は可なり大形にして長く、前翅に長き緣紋あり。幼虫は陸棲にして砂中に漏斗狀の穴を穿ち、その底にあつて陷落してくる昆虫を捕獲して自己の食となす。

うすばかげろふ　Hagenomyia micans Mc Lachlan

体長一寸乃至一寸二分前後。前翅長一寸二分乃至一寸五分。体色黑褐乃至暗褐。口邊は黃色。後頭は著しく隆起し、その接合部は深く凹陷して居て黃色を呈し、前胸背の正中線は黃色。胸部下面と脚とは黃色。附節は黑色で脚には黑色の長毛を粗生する。翅は透明脈は黃褐色。前緣にある三縱線は黃色で緣紋は卵形にて白い。幼虫は俗にすり鉢蟲と稱して神社佛閣の軒下又は河原の砂地等の乾燥せるところに微細土より成る擂鉢形の穴を穿つて住み、基底

に大顎を擴げて待ち受けて蟻の如き小昆蟲の陷込むのを捕へ、之を土中に引き込みて食とする。故に又蟻地獄とも呼ぶ。此幼虫は長じて四五分の長さとなる。掘り出せば前進することなく。後退して如何にも土中にもぐり込みたさうな樣子をなす故に之をあとじさりと呼ぶ事もある。

此虫は本州より臺灣、朝鮮に亙つて最普通である。

百日咳藥　△百日咳には幼虫を一回に拾疋位を水にて煎服する。

解熱劑　△頭痛、逆上には幼虫を潰ぶして糊にてねり合せ、足の裏の土踏まずに貼る。又成虫を飯粒と練つて紙にのして足の裏にすべての解熱の目的にて貼るもよし。

△脚氣には幼虫の煎汁を內服する。

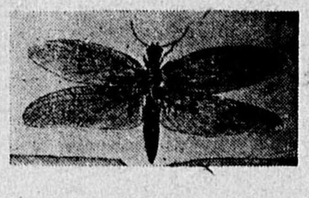
△淋疾に幼虫を生の儘にて呑む人もある。

へびとんぼ科　Sialidae

齋川の孫太郎虫

へびとんぼ　Protohermes grandis Thunberg

孫太郎虫



体長一寸四五分前後。前翅長一寸七分前後。黃色乃至黃褐色。後頭の兩側に各四個の暗褐色紋を有し、前胸の兩側にも同色の一縱條がある。單眼は三個、稍大。翅は透明にて前翅に六七個、後翅に三個の淡黃色の不判然なる斑紋あり。脚は黃色にて脛節及び跗節は暗褐色。觸角は黑色、連鎖狀で基節は黃褐色である。雄の腹端に二角の三角形の附屬物あり。成虫は七八月頃出現する。幼虫は長ずれば二寸に近き長になり、頭部胸部は黃褐色を呈して硬く、腹節は紫褐色を呈し柔軟にて全体扁平なり。頭部には觸角と六個の單眼とを有し、前胸極めて大く、各腹節の兩側に長き細毛を羽狀に生じ、且附屬器がある。第一乃至第七腹節には氣管鰓を具へ、第九節はその末端二叉して、鋭利に後方に突出する。幼虫は常に水中にあり。初夏の候空中に出で脫皮して蛹となり、後に羽化して成虫となる。成虫の頭部の扁平なるは一見蛇の頭部に似たり。宮城縣齋川村の產、古來最有名なるが、本州の各地

及び北海道にも産出する。

○信州伊奈地方にては他の水棲昆虫と共に之をざざむしと稱し、採つて食用に供する。

△尙信州地方にては幼虫を竹串に連ねさし、燒いて小兒の疳疾の妙藥と稱して之を販賣する。

△小兒の癇症には幼虫を黑燒となし、その粉末を一回に普通散藥一包量を內服し、蟲下しには炒つて食して效をりと云ふ。

△尙世間にては之を肺病、胃腸藥、十二指腸虫の疾患にも炙つて食はしむ。

蜉蝣類 Ephemera

体は柔軟。前翅は後翅より大く、後翅の全くなきものもある。前翅の形は普通後緣の短い三角形を呈する。翅は透明にして縱と橫の細脈があり、頭部には二個の複眼と三個の單眼と短き觸角とあり。口は咀嚼に適する。雄の複眼は雌のものより大く、且つ上下二段に分れて上部と下部にて小眼の大さの差ふものあり。腹部は細長く稍透明にして末端に二本又は三本の長尾狀物を具へ、雄の尾部には特殊の形を成せる鉄子がある。幼虫は河川、湖沼中に生活し、腹部の兩側なる特殊の氣管鰓數對がある。幼虫の壽命は比較的に長く、多くは五六ケ月以上一年位、中には二三年位のものもあり。口は咀嚼口にて植物葉、藻類等を食するが、稀に小動物を食ふものあり。幼虫は成熟すれば水邊の石の下等に匐ひ上り羽化して亞成虫となる。此時には鉄子、翅等も未だ完全せず。此期は多くは一日であつて成虫となれば河邊の空中にて交尾し、後水中に產卵する。幼虫の形は圍境の水の淸否、水流の有無、水底の泥沙等の狀態により自ら少異がある。

雙尾蜉蝣科 Siphlonuridae

ちらかげろふ Isonychia japonica Ulmer

大形の蜉蝣にて体長五六分。翅の開張一寸二三分內外。尾長一寸一二分內外。頭部は雄に

雙尾蜉蝣科、ちらかげろふ

ては漆黒色、雌にては黄色。複眼は黒色。前胸背は暗栗褐色、中、後胸背は栗褐色。最初の三腹節の後縁は黒色を帯び、雌の腹部は赤褐色にて線狀紋は明瞭ならず。第一腹節の兩側には後方に向へる鋭き突起があり。尾毛は二本にて基部にて黒色、次第に褐色となり先端部は白色である。前翅は無色透明、基部は琥珀褐色、先端部は暗灰褐色を帯び、翅脈は黄色を帯ぶ。前肢は黒色、中後肢は黄色。雄の第十一腹節は腹面に深き切込があつて廣く左右に分れる。此種は吾本州中部地方の河川に多く、五六月頃羽化する。

紋かげろふ科　Ephemeridae

もんかげろう　Ephemera strigata Eaton

体長五分内外。前翅長五分内外。体は黄褐色。但頭部は黒く顔面は黄色である。胸部背面の兩側に黒色の縦條があり、又腹部各節の兩側に各二條の黒色斜帯がある。翅は淡黄褐色に少しく暗色を帯び、前翅中央を横切れる一横條は暗褐色。後翅の内外縁は暗色を呈する。尾毛は三本にて黄褐色を呈し、脚は前脚の脛跗節のみ黒褐色である。成虫は山間の溪流の比較的流れの緩かな砂泥中に棲息し、大顎の長い突起と前脚にて巧みに砂泥を掘る。その成長せるものは六七分の長に達し、体は細くて圓筒形を成し、第一乃至第七腹節の側方に氣管鰓を有し、其先端は背方に向ふて居る。第一對は披針形にて小く、二葉より成り他の六對の者は單葉にて二叉し、その周縁に細絲を列生する。北海道より九州を經て朝鮮に亙つて産じ、六月頃に羽飛するのが見られる。

東洋かげろふ　Ephemera orientalis Mac Lachlan

体長六分許。前翅長六分許。頭部は淡黄色。複眼は黒い。胸部、腹部並に翅は共に淡黄色雌は翅の縦走脈共に黄なるも雄は褐色である。前翅の横脈は大抵褐色。前胸背及び雄の中胸背には赤褐色の縦紋が二條あり。脚は黄色にして雌の前脚には褐色紋あり。そして雄の前脚は褐色である。腹部は背面に二乃至六と各側に一條の細き褐色の縦紋がある。尾毛黄色にて

赤褐色の輪紋がある。七月より九月に亙つて現出し、本州、四國、九州及び朝鮮にも產じ、尙西比利亞にまで分布する。

白腹かげろふ科　Baetidae

ふたばかげろふ　Cloeon dipterum L.

此類には後翅なし。体長翅長各二分二三厘、雄は頭、胸兩部黃褐色乃至褐色、大複眼は黃色乃至黃赤色を呈し、基複眼は黑色、腹部は黃白乃至白色にて各節の背上に赤褐色の二縱條あり。尾毛は長くして白色、之に多數の黑褐輪を裝ふ。脚は黃色にして前肢の基節、轉節及び脛節に赤褐色の輪紋あり。翅は無色透明、翅脈は黃褐なり。雌は雄に比して体色淡く、腹背の淡赤條判然せず。翅の前緣に鹿斑を有する琥珀色の紋あり。幼虫は水淺き池沼の水草間又は水底の泥土上に靜息する。休は圓筒形にて尾毛が三本ある。成虫は五月より八月に亙り本邦各地に羽化するが、歐米にも分布すると云ふ。

食膳用
肥料、釣魚用

蜉蝣類の利用

前記諸種の幼虫は信州邊にては之をチラと呼び又サ、ムシ或はザームシと稱するが、福島や長野邊にては他の水棲昆虫と共に炙つて食膳に供するに、脂肪に富んで居て大に地方人の嗜好に適すと云ふ。此餘是等の昆虫は之を捕集して肥料となし或は魚類の餌料として之を用ひる。

積翅（カハ）類（ゲラ）　Placoptera

四翅は薄膜狀で多くは黑褐色、半透明にして殆ど蜻蛉のそれに似たれど、休息の際、四翅を共に腹部の背上に重ねる。飛行力强く、川邊等に多い。口器は咬嚙性。腹部の末端に一對の長突起がある。歩行の動作は緩慢。變態は不完全。幼虫は川底の石の下や、石と石の間等に多く棲息し、胸部、尾部等に鰓を有する。是類の幼虫は蜉蝣類、毛翅類等の幼虫と共に川魚の重要なる餌となる。

かはげら科 Perlide

かはげら Perla tibialis Pictet

体長五分乃至六分。前翅長約八分。体黑褐色、頭部に黃褐色の二紋があり、腹部及び尾毛は淡黃褐色。翅は淡褐色にて脈は黃色乃至黃褐である。觸角の前半は黑褐色、後半は黃色。脚は黑色、腿節及び脛節は黃色である。雌の亞生殖板は小く、三角狀にてその尖端は極めて狹く刳られる。成虫は四五月頃出現し、河畔に普通に居つて夜間には燈火に飛來する。

おほくらかけかはげら Perla tinotipennis Mac Lachlan

体長五分乃至七分許。前翅長八分餘。体黃褐色。頭部背面の中央に大形の黑斑があり。胸背は栗色、前胸背に黃色の正中線があり、觸角の前半は黑褐、基半は（但し基節は暗褐）黃色である。脚は黃色、腿節の末端及脛節は黑褐色。翅は黃色にて亞前緣室は濃色、翅脈は黃色。雄の第五腹節は鞍狀を呈し、雌の亞生殖板は半圓形狀にて尖端は淺く刳られる。胸面及び腹部は淡黃褐色を呈する。成虫はへびとんぼに似て居るが少しく小く、幼虫も亦蛇蜻蛉に類すれど此者には尾端に二本の長き附屬物がある。

料理用

○△以上の二種は信州地方にては總べてガアムシと稱へ煮て食ふ。關東地方にても小兒に與へて一般の病氣に効能ありと云へり。知人の話によれば松本市邊にては上等の料理に用ふるとの事なり。

有吻類

半翅類 Hemiptera

口は吻狀で通常關節を有し、吸收並に刺螫に適する。二雙の翅は同形或は不等にて時に之を缺く。此類は一に有吻類と呼ぶ。變態は不完全なれども介殼虫の雄の如くに稀に完全變態をなすものあり。陸棲のものと水棲のものとあり。大部分は植物の液汁を吸收するを以て有害虫なれど、又害虫を捕獲するによつて寧ろ有益のものなきにあらず。

なべぶたむし科 Apheloeheirinidae

くろなべぶたむし Apheloeheirus shirakii Matsumura

溪流の砂礫上又は石上に棲息する圓盤狀小判形の小昆虫にて全体殆ど黑褐色を呈し、成虫期に達するも完全なる翅を生ずることなし。体長三分許。頭部は黃褐色にて前方に突出し、後緣部は黑褐色。複眼は長く、前端の外側に少しく突出する。前胸背は側緣少しく圓味を帶び中央に黑褐色の斑を存し小楯板は短い。

紅娘華科 Nepidae

体は長く、觸角は三節より成る。前肢は延長して鎌狀の捕獲器となる。跗節は一節。尾節

に長い二つの附屬物があつてその末端に一個の氣門を存して空氣を呼吸する。幼虫、成虫共に幼魚類を捕へて食する。故に養魚場に有害の虫である。

たいこうち Laccotrephes japonensis Scott

ユリハナスヒ　紅娘華

体は扁平にて長一寸に近い。黃褐色乃至暗褐色にて全面に顆粒狀突起が多い。稜狀部は前胸背より短く、兩側及び中央に隆起がある。脚に斑紋がない。前翅は革質にて硬く腹部まで達せず。腹端に体よりやゝ長い二本の尾狀附屬器物がある。これは左右相抱きて完全なる一小管を成して空氣を体内に誘導する呼吸器管である。されば時々その先端を水面につき出して呼吸し居るのが見られる。前肢腿節は著しく發達してその部に棘狀突起を存する。此虫の水中にあるや枯葉に類似するを以て甚だ見分け難い。腹部の背面赤褐色を呈する故に漢名紅娘華の稱がある。前肢を動搖する狀恰も大鼓の撥を打つに似たり。卵は春季水上植物の柔き組織内に個々に產み附けられ、各卵より外部に二條の絲狀突起を出して居る。

○山間生活の地にては、蛭水かまきり、兒負虫、田がめ等と等しく食用に供する。

たいこうち